

事業概要

令和 7 年版



東京都スポーツ推進本部

目 次

第1 総 説	1
役割・計画	3
組織・定数	10
予算・決算	14
第2 事業の概要	19
1 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催	26
2 スポーツの振興	42
3 パラスポーツの振興	68
4 国際スポーツ大会の誘致・開催	81
5 スポーツ施設の管理運営	89
6 政策連携団体等との連携・協力	109
参考資料	115

凡例

本書で使用する略称は、以下のとおりである。

東京2025世界陸上・・・・・・東京2025世界陸上競技選手権大会

東京2025デフリンピック・・・・第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025

東京2020大会・・・・・・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

東京2020組織委員会・・・・・・公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織
委員会

東京2020オリンピック・・・・東京2020オリンピック競技大会

東京2020パラリンピック・・・・東京2020パラリンピック競技大会

I O C・・・・・・国際オリンピック委員会

I P C・・・・・・国際パラリンピック委員会

J O C・・・・・・公益財団法人日本オリンピック委員会

J P C・・・・・・公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会

第 1 総 説

役割・計画

- 1 スポーツ推進本部の役割…………… 3
- 2 スポーツ推進本部の事業体系図…………… 9

組織・定数

- 1 スポーツ推進本部機構図…………… 10
- 2 課別分掌事務…………… 11
- 3 課別職員定数表…………… 13

予算・決算

- 1 予 算…………… 14
- 2 決 算…………… 18

役 割 ・ 計 画

1 スポーツ推進本部の役割

1 スポーツ推進本部の沿革

平成22年7月16日、東京都のスポーツ行政の総合的な推進を図るため、従来の生活文化スポーツ局スポーツ振興部、総務局国体・障害者スポーツ大会推進部及び知事本局継承調整部を統合するとともに、福祉保健局が担当していた障害者スポーツも一元的に所管する「スポーツ振興局」を設置した。

平成25年9月にI O C総会にて東京2020大会の開催が決定したことを受け、大会の開催準備を確実に進めるとともに、東京都のスポーツ行政をより一層推進するため、平成26年1月1日付けで「オリンピック・パラリンピック準備局」に改組した。

その後、東京2020大会を終えた令和4年4月から、東京2020大会のレガシーをスポーツや文化などの分野において発展させ、安全・安心で豊かな都民生活につなげる施策を展開するべく、「生活文化局」と統合し、「生活文化スポーツ局」として都のスポーツ行政を担ってきたが、世界陸上とデフリンピックが開催され、スポーツに大きな注目が集まる機会を契機として、国際大会のレガシーを継承しながら、より一層スポーツの推進に取り組んでいく恒常的な体制を構築するため、令和7年4月、生活文化局に「スポーツ推進本部」を設置した。

2 スポーツ推進本部の役割

新設されたスポーツ推進本部の責務は、新たな「スポーツ推進総合計画」の下、スポーツの価値をすべての人々が享受できるよう取り組み、都民の健康・幸福な暮らしを実現するとともに、子供の健やかな成長、共生社会の実現、健康寿命の延伸、女性の活躍促進、経済の活性化、東京のプレゼンスの向上など、様々な都政課題の解決に、スポーツの力で貢献していくことである。

そのため、「する」「みる」「支える」「応援する」の視点から、都民一人ひとりのウェルビーイングの向上につながるスポーツ施策を展開するほか、今年度開催される世界陸上・デフリンピックをはじめとする国際大会を通じて東京2020大会のレガシーを継承・発展させるとともに、これらを支える各都立スポーツ施設の強みを生かした運営を進め、各部・関係組織が一体となり、東京ならではのスポーツ施策を追求、実行していくことで、東京を「誰もがスポーツを楽しむ、世界に誇れるスポーツ拠点」へと発展させていく。

3 スポーツ施策に関する計画等

新たな「東京都スポーツ推進総合計画」（令和7年3月）に加え、東京2025世界陸上と東京2025デフリンピックの両大会を通じて目指す姿をまとめた「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」（令和5年2月）を基本に、誰もがスポーツを楽しむ、世界に誇れるスポーツ拠点の実現に向け、関係各局と密接に連携しながら、様々な施策を総合的に展開している。各計画等の

内容は以下のとおりである。

(1) 東京都スポーツ推進総合計画

未来の東京を見据え、スポーツ振興の観点から東京都として目指すべきビジョンと、その実現に向けた基本方針及び施策展開の方向性を示すものとして策定。スポーツ基本法第10条に基づく、東京都のスポーツ推進計画である。

ア 策定年月 令和7年3月

イ 計画期間 令和7年度から令和12年度まで（6年間）

ウ 策定の考え方

(ア) 計画の背景

平成30年3月に策定した東京都スポーツ推進総合計画の計画期間中、ラグビーワールドカップ2019TMや東京2020大会が開催され、両大会を通じて様々なレガシーが生み出された。また、この期間中は、新型コロナウイルス感染症が都民の生活に大きな影響を与えるとともに、少子高齢化の進展、気候の変化、デジタル／テクノロジーの進化など、都のスポーツ行政を取り巻く環境は大きく変化した。こうした変化を的確に捉え、新たな施策を効果的に展開するとともに、更なるスポーツ推進につなげていくことを目的として、都は新たな東京都スポーツ推進総合計画を策定した。

(イ) 計画のポイント

- ・都民のスポーツ実施率（量）に加え、スポーツを通じた幸福感（質）を重視し、都民のウェルビーイング向上を実現するため、都が初めて、スポーツを通じた幸福感の向上を達成指標化した。
- ・スポーツの参画方法「する」「みる」「支える」の入り口となる参画方法として「応援する」を位置付けた。
- ・各政策へのデジタル技術の取り入れや障害者や高齢者の健康増進等に向けたeスポーツの活用等、DXにより政策効果を飛躍的に発展させていく。
- ・重点政策テーマとして、課題ごとに6つのプロジェクトを設定し分野横断的に施策を推進していく。

(ウ) 基本理念

スポーツを通じて明るい未来の東京を実現するため、本計画の基本理念を「誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、一人ひとりのウェルビーイングを高め、社会を変革する」とした。

(エ) 将来のビジョン

基本理念の下、将来目指す「スポーツフィールド・東京」の姿を4つのビジョンとして設定した。

- a 子供の頃から好きなスポーツと出会い、楽しみ、成長し、健康・幸福に生きている
- b スポーツを通じた新たなつながりと相互理解が、技術の進展に伴い生み出されている

- c 世界中のアスリートや観客でにぎわい、世界で最も魅力的で選ばれる都市に
- d 安全・安心・信頼の下、いつまでもスポーツを楽しめる社会が実現

(ウ) 4つの政策の柱と取組の方向性

基本理念及びビジョンの実現に向け、解決すべき社会課題の視点で分類した4つの政策の柱を設定し、政策の柱ごとに、取組の方向性を3つの施策にまとめた。

政策の柱1 スポーツで輝く（健康・幸福）	
施策①	スポーツに触れる「はじめの一步」を後押し
施策②	ライフステージに応じたスポーツを推進
施策③	東京にゆかりのあるアスリートが躍動
政策の柱2 スポーツでつながる（共生社会）	
施策①	パラスポーツを楽しむ・パラスポーツで輝く
施策②	バリアフリー化やユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装を促進
施策③	多様な人々がスポーツでつながる、スポーツとつながる
政策の柱3 スポーツでにぎわう（地域・経済活性化）	
施策①	都内各地でスポーツイベントを開催し、都市に活力をプラス
施策②	住み慣れた地域でのスポーツをサポート
施策③	スポーツの魅力を発信し、スポーツを通じて感動を味わう
政策の柱4 スポーツを支える（スポーツの持続可能性）	
施策①	様々な価値を創出するスポーツ環境の整備・運営や、環境に配慮した施設・大会運営
施策②	多様な主体と連携し、スポーツに関わる人材の裾野を広げる・磨く
施策③	安心・安全なスポーツ、信頼されるスポーツ大会の実現

(エ) 数値目標

各分野で指標・目標を設定し、多様な施策を通じてスポーツフィールド・東京が実現できたかを目に見える形で把握していくために、14の達成目標を設定した。

	達成指標	(現状) 2024年度	(目標) 2030年度	(目標) 2035年度
政策の柱1 スポーツで輝く（健康・幸福）				
指標①	スポーツを通じて幸福感を感じている都民の割合	70.0%	75%	80%
指標②	都民のスポーツ実施率	63.3%	70%	70%以上
指標③	スポーツをすることを「好き」「やや好き」と感じる中学2年生の割合	男子 90.4% 女子 77.9%	90%以上 80%	90%以上 85%
指標④	東京都スポーツ推進企業認定企業数	583社	1,000社	1,300社
政策の柱2 スポーツでつながる（共生社会）				
指標①	障害のある都民のスポーツ実施率	46.6%	50%	50%以上
指標②	パラスポーツに関心がある都民の割合	42.7%	80%	80%以上
指標③	スポーツを通じて生きがいを感じる高齢者の割合	86.7%	90%	90%以上
指標④	20～40歳代女性（都民）のスポーツ実施率	56.3%	65%	65%以上

政策の柱3 スポーツでにぎわう（地域・経済活性化）				
指標①	1年間にスポーツを直接観戦した都民の割合	30.0%	50%	50%以上
指標②	1年間にスポーツイベント、大会に参加したことがある都民の割合	21.0%	30%	35%
指標③	応援するスポーツチームや選手がいる都民の割合	40.6%	50%	60%
政策の柱4 スポーツを支える（スポーツの持続可能性）				
指標①	都立スポーツ施設が果たしている役割に「満足」と答えた都民の割合	60.7%	65%	70%
指標②	1年間にスポーツを支える活動を行った都民の割合	17.3%	20%	20%以上
指標③	スポーツ指導者数	25,746人	32,100人	38,200人

(キ) 重点政策テーマ

政策の柱や施策を横断して取り組むべきテーマを、6つの重点政策テーマとして設定し、プロジェクトにより推進する。

Project 0	スポーツの力を高める「スポーツDXプロジェクト」
Project 1	スポーツとともに育つ「チルドレン・スポーツ・プロジェクト」
Project 2	多様性があふれる「スポーツ・ダイバーシティ・プロジェクト」
Project 3	スポーツの力で世界をリードする「TOKYOの魅力向上プロジェクト」
Project 4	スポーツを楽しむ環境を実現する「スポーツFACILITIESプロジェクト」
Project 5	スポーツを支える仕組みを創る「支える担い手確保プロジェクト」

(2) ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド

東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックを通じ、スポーツの力によって東京の未来を創るため、都が目指す姿を、ビジョンとしてまとめたものである。

ア 策定年月 令和5年2月

イ 基本的な方針 5つの柱

大会を通じて、「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に貢献するため、5つの柱を設定し、取組の方向性を示した。

- (ア) みんなが つながる ―「いつでも・どこでも・誰とでも」つながる街・東京へ
 - ・デジタル技術などを活用したユニバーサルコミュニケーションを促進する。
- (イ) 世界の人々が 出会う ―何度でも訪れたいTOKYOへ
 - ・伝統と革新が共存する街・東京を発信し、世界との絆を深める。
- (ウ) こどもたちが 夢をみる ―夢と希望にあふれた次世代の東京へ
 - ・子供たちがスポーツから多くを学び、多様な価値観を育む。
- (エ) 未来へ つなぐ ―たくさんの国際スポーツ大会が楽しめる街へ

- ・世界陸上・デフリンピックを未来につながる大会にする。
- (オ) みんなで 創る ースポーツを通じてつながる街・東京へ
- ・誰もが分けへだてなくスポーツを楽しむ。

(3) 東京都スポーツ振興審議会

都におけるスポーツ振興施策を総合的、体系的に推進するため、スポーツ施設の管理運営、スポーツ振興に関する重要事項等について、知事等の諮問に応じて調査審議し、これら事項について建議する。

ア 委 員 20名

イ 任 期 2年

ウ 設置年度 昭和37年度

エ 根拠法令 東京都スポーツ振興審議会に関する条例、スポーツ基本法

オ 第29期審議会任期 令和5年12月12日～令和7年12月11日

カ 第29期審議事項 東京都スポーツ推進総合計画の改定について

キ 第29期開催実績

第1回 令和5年12月22日

○知事による諮問書の交付

○東京都スポーツ推進総合計画の改定について

- ・現行計画期間中の主な取組・成果等及び次期計画の方向性について

第2回 令和6年3月28日

○令和6年度スポーツ団体（社会教育関係団体）補助金・分担金事業（案）について

○「東京都スポーツ推進総合計画」の改定について

- ・都民のスポーツ活動に関する調査結果について（報告）
- ・次期計画期間とその先を見据えた議論について

第3回 令和6年5月16日

○「東京都スポーツ推進総合計画」の改定について

- ・スポーツ・身体活動を通じた健康増進について（宮地 元彦 委員）
- ・スポーツを通じた地域・経済の活性化について（上代 圭子 委員）

第4回 令和6年6月20日

○「東京都スポーツ推進総合計画」の改定について

- ・パラスポーツの振興について（小淵 和也 委員）
- ・子供・女性のスポーツ振興について（水村 真由美 委員）

第5回 令和6年9月12日

○「東京都スポーツ推進総合計画」の改定について

- ・「(次期) 東京都スポーツ推進総合計画」骨子案について

第6回 令和6年11月12日

- 「東京都スポーツ推進総合計画」の改定について
 - ・「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめ素案について

第7回 令和6年12月24日

- 「東京都スポーツ推進総合計画」の改定について
 - ・「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめ(案)について

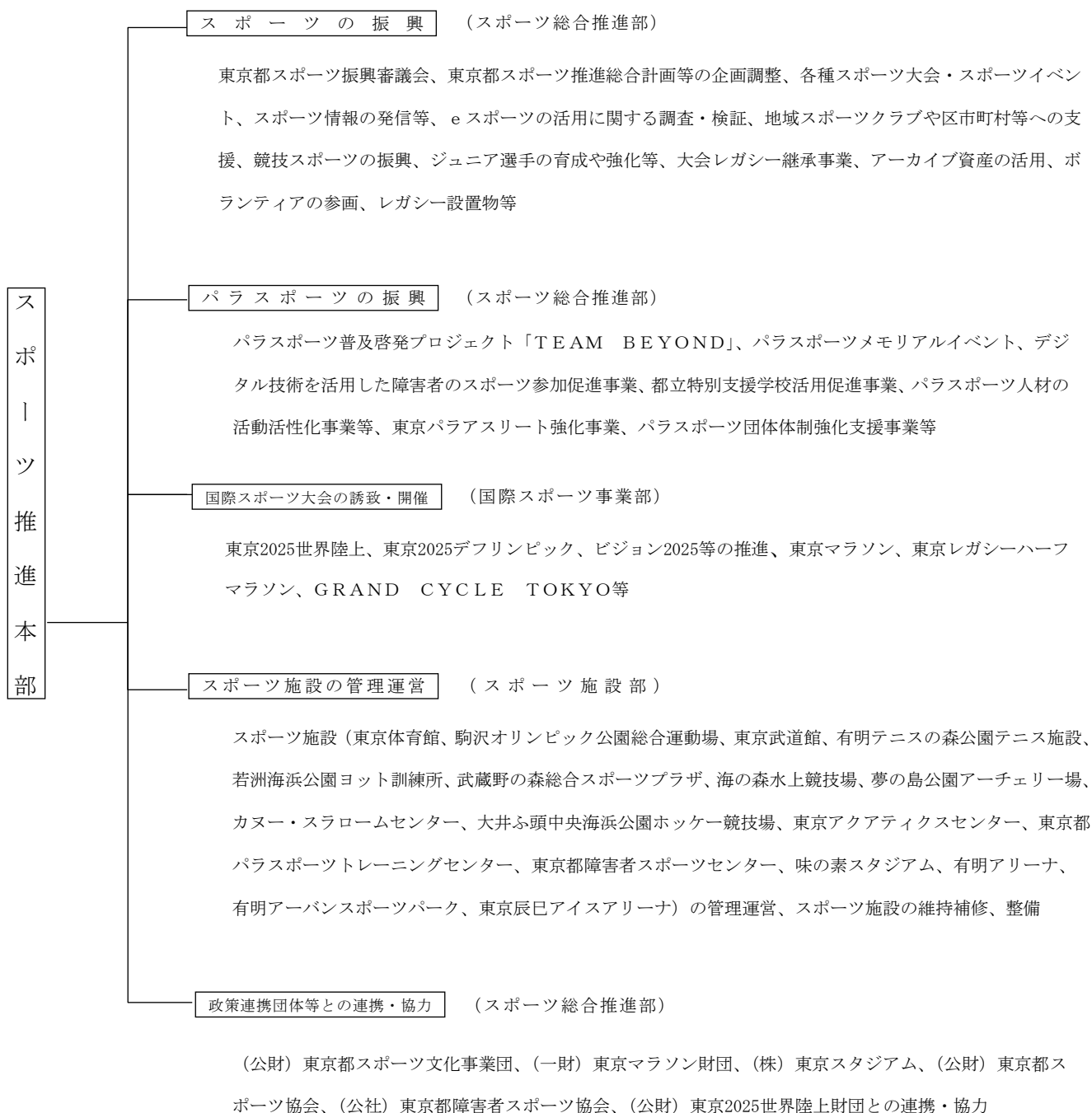
第8回 令和7年1月29日

- 「東京都スポーツ推進総合計画」の改定について
 - ・都民のスポーツ活動等に関する調査結果(速報)について(報告)
 - ・「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめに対して寄せられた御意見等について(報告)
 - ・「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」について(東京都スポーツ振興審議会 答申案)

第9回 令和7年2月12日

- 「東京都スポーツ推進総合計画」の改定について
 - ・「(次期)東京都スポーツ推進総合計画」について(東京都スポーツ振興審議会 答申)
 - ・令和7年度スポーツ団体(社会教育関係団体)補助金・分担金事業(案)について

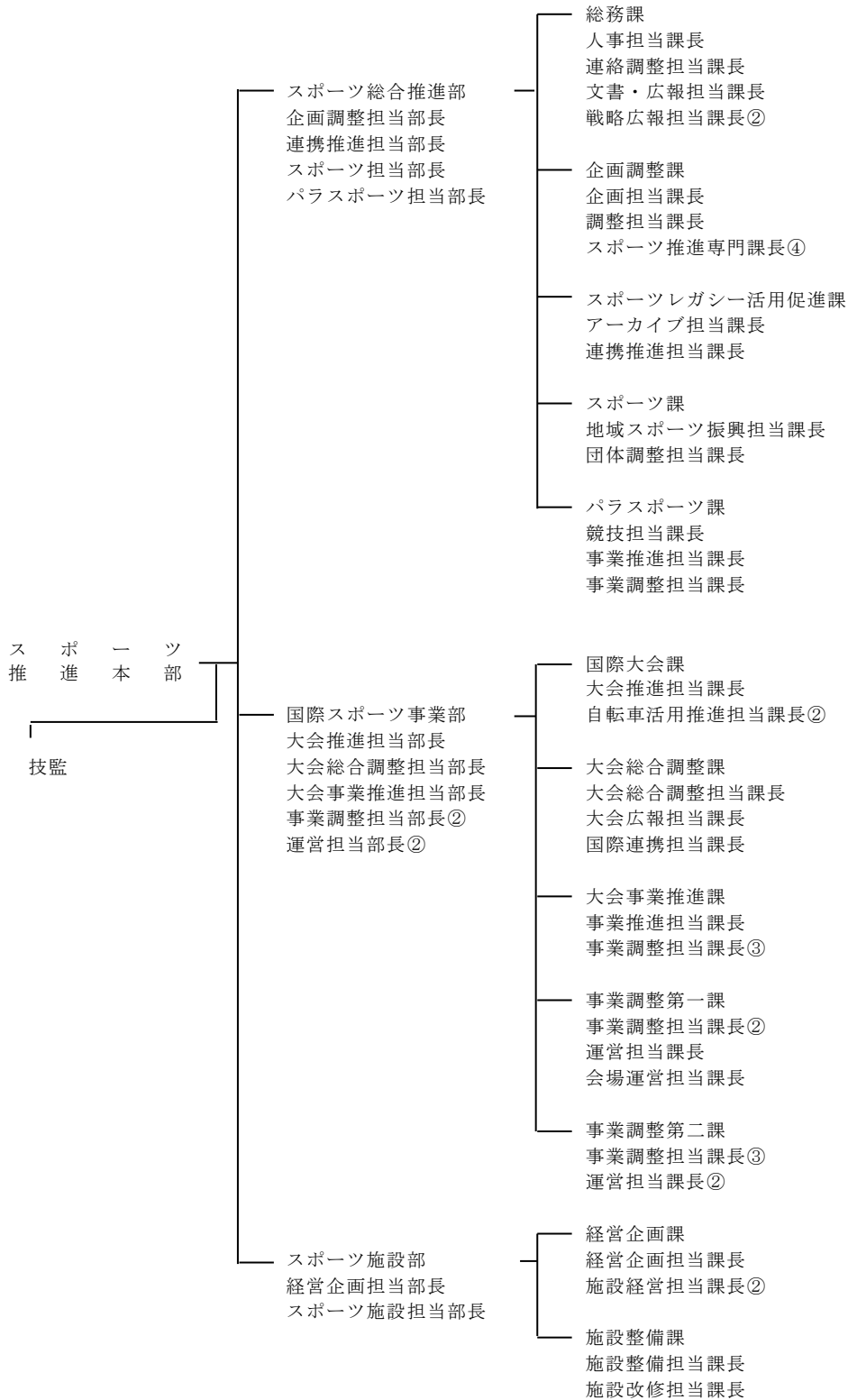
2 スポーツ推進本部の事業体系図



組 織 ・ 定 数

1 スポーツ推進本部機構図

(令和7年4月1日現在)



2 課別分掌事務

部	課	分 掌 事 務
ス ポ ー ツ 総 合 推 進 部	総 務 課	1 本部の組織及び定数に関すること。 2 本部所属職員の人事及び給与に関すること。 3 本部所属職員の福利厚生に関すること。 4 東京都職員研修規則（昭和四十三東京都規則第三十八号）第四条の規定に基づく研修に関すること。 5 本部の所管に係る政策連携団体の指導及び監督に関すること。 6 本部事務事業に関する法規の調査及び解釈に関すること。 7 本部の公文書類の收受、配布、発送、編集及び保存に関すること。 8 本部の情報公開に係る連絡調整等に関すること。 9 本部の個人情報の保護に係る連絡調整等に関すること。 10 本部事務事業の管理改善に関すること。 11 本部事務事業の広報及び広聴に関すること。 12 本部事務事業のデジタル関連施策の企画、調整及び推進に関すること（デジタルトランスフォーメーション推進に関するものを除く。）。 13 本部内他の部及び課に属しないこと。
	企 画 調 整 課	1 本部の予算、決算及び会計に関すること。 2 本部の契約に関すること。 3 本部の財産、物品及び債権の管理に関すること。 4 本部事務事業の総合的な企画、調整及び推進に関すること。 5 本部事務事業の施策に係る関係機関との連絡調整等に関すること。 6 本部事務事業のデジタルトランスフォーメーション推進に関すること。 7 本部事務事業の進行管理に関すること。 8 本部事務事業の行政評価に関すること。 9 第32回オリンピック競技大会及び東京パラリンピック競技大会に係る調整に関すること。
	スポーツレガシー 活 用 促 進 課	1 スポーツレガシーの活用促進に関すること。 2 第39回全国健康福祉祭等に関すること。
	ス ポ ー ツ 課	1 スポーツ及びレクリエーション（以下「スポーツ等」という。）の施策の推進に関すること（他の課に属するものを除く。）。 2 スポーツ等の総合的な指導に関すること（他の課に属するものを除く。）。 3 スポーツ等に係る団体の育成に関すること（他の課に属するものを除く。）。 4 競技力向上に係る施策に関すること（他の課に属するものを除く。）。 5 スポーツ等に係る国際交流事業に関すること。

部	課	分 掌 事 務
ス ポ ー ツ 総 合 推 進 部	パラスポーツ課	1 障害者のスポーツ等の施策の推進に関する事（他の課に属するものを除く。）。 2 障害者のスポーツ等の総合的な指導に関する事。 3 障害者のスポーツ等に係る団体の育成に関する事。 4 障害者のスポーツの競技力向上に係る施策に関する事。
国 際 ス ポ ー ツ 事 業 部	国 際 大 会 課	1 国際スポーツ大会の誘致・開催支援等に関する事（他の部及び課に属するものを除く。）。 2 マラソン祭り等に関する事。 3 自転車競技関連事業に関する事。 4 部内他の課に属しないこと。
	大 会 総 合 調 整 課	1 東京2025世界陸上競技選手権大会、第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025（以下「両大会」という。）その他国際スポーツ大会の開催支援等に係る総合調整に関する事（他の課に属するものを除く。）。
	大 会 事 業 推 進 課	1 両大会の開催気運醸成等の関連事業に関する事（他の課に属するものを除く。）。 2 両大会の開催支援等に係る区市町村等との連絡調整に関する事（他の課に属するものを除く。）。 3 ユニバーサルコミュニケーションの促進に関する事（他の局に属するものを除く。）。
	事 業 調 整 第 一 課	1 東京2025世界陸上競技選手権大会の開催支援等に関する事（他の課に属するものを除く。）。
	事 業 調 整 第 二 課	1 第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025の開催支援等に関する事（他の課に属するものを除く。）。
ス ポ ー ツ 施 設 部	経 営 企 画 課	1 スポーツ施設等の管理及び開設準備に関する事（他の局に属するものを除く。）。 2 部内他の課に属しないこと。
	施 設 整 備 課	1 スポーツ施設等の整備及び改修に関する事（他の局に属するものを除く。）。

3 課別職員定数表

(令和7年4月1日現在)

組 織		定 数		
部	課		事 務	技 術
ス ポ ー ツ 総 合 推 進 部	総 務 課	21 (6)	21 (6)	0 (0)
	企 画 調 整 課	24 (6)	24 (6)	0 (0)
	ス ポ ー ツ レ ガ シ ー 活 用 促 進 課	21 (4)	21 (4)	0 (0)
	ス ポ ー ツ 課	27 (4)	27 (4)	0 (0)
	パ ラ ス ポ ー ツ 課	33 (5)	33 (5)	0 (0)
	計	126 (25)	126 (25)	0 (0)
国 際 ス ポ ー ツ 事 業 部	国 際 大 会 課	33 (6)	33 (6)	0 (0)
	大 会 総 合 調 整 課	17 (5)	17 (5)	0 (0)
	大 会 事 業 推 進 課	24 (6)	24 (6)	0 (0)
	事 業 調 整 第 一 課	23 (7)	19 (6)	4 (1)
	事 業 調 整 第 二 課	25 (8)	25 (8)	0 (0)
	計	122 (32)	118 (31)	4 (1)
ス ポ ー ツ 施 設 部	経 営 企 画 課	39 (6)	39 (6)	0 (0)
	施 設 整 備 課	29 (4)	2 (0)	27 (4)
	計	68 (10)	41 (6)	27 (4)
合 計		316 (67)	285 (62)	31 (5)

※()内は管理職数で内書き

予 算 ・ 決 算

1 予 算

※予算額・項目は、当初予算を記載している。

(1) 総 額

(単位：千円)

区 分	令和 7 年度	令和 6 年度	増 (△) 減	増減率 (%)
歳 入 (A)	41,149,267	27,441,297	13,707,970	50.0
歳 出 (B)	46,799,000	31,898,321	14,900,679	46.7
差引一般財源(B)－(A)	5,649,733	4,457,024	1,192,709	26.8

(2) 歳入予算

(単位：千円)

科 目	令和 7 年度	令和 6 年度	増 (△) 減	増減率 (%)
使 用 料 及 手 数 料	120,884	113,635	7,249	6.4
国 庫 支 出 金	1,920,000	0	1,920,000	皆増
財 産 収 入	1,299,465	1,232,223	67,242	5.5
繰 入 金	37,323,778	25,663,100	11,660,678	45.4
諸 収 入	439,140	43,339	395,801	913.3
都 債	46,000	389,000	△343,000	△88.2
計	41,149,267	27,441,297	13,707,970	50.0

(3) 歳出予算

(単位：千円)

科 目	令和 7 年度	令和 6 年度	増 (△) 減	増減率 (%)
生 活 文 化 費	46,799,000	31,898,321	14,900,679	46.7
ス ポ ー ツ 推 進 費	46,799,000	31,898,321	14,900,679	46.7
管 理 費	5,354,467	4,345,161	1,009,306	23.2
スポーツ総合推進費	28,711,037	11,353,726	17,357,311	152.9
スポーツ施設費	12,733,496	16,199,434	△3,465,938	△21.4
計	46,799,000	31,898,321	14,900,679	46.7

※令和 6 年度予算は、令和 7 年度予算に置き換えている。

(単位：千円)

債 務 負 担 行 為	1,647,835	2,950,345	△1,302,510	△44.1
-------------	-----------	-----------	------------	-------

(4) 事業別歳出予算

(単位：千円)

事業		令和7年度	令和6年度	増(△)減	増減率(%)
生活文化費		46,799,000	31,898,321	14,900,679	46.7
スポーツ推進費		46,799,000	31,898,321	14,900,679	46.7
管理費		5,354,467	4,345,161	1,009,306	23.2
職員費		5,354,467	4,345,161	1,009,306	23.2
人件費		5,086,000	4,133,183	952,817	23.1
その他職員関係費		268,467	211,978	56,489	26.6
スポーツ総合推進費		28,711,037	11,353,726	17,357,311	152.9
スポーツ総合推進管理事務		411,577	390,868	20,709	5.3
スポーツ総合推進管理事務(一次)		7,510	7,025	485	6.9
スポーツ総合推進管理事務(二次)		254,406	253,440	966	0.4
企画調整		82,711	83,637	△926	△1.1
企画調整(二次)		66,950	46,766	20,184	43.2
スポーツの振興		3,581,888	3,443,519	138,369	4.0
生涯スポーツの振興		1,381,558	1,278,256	103,302	8.1
地域スポーツの振興		79,914	72,912	7,002	9.6
区市町村におけるスポーツ振興施策への支援		748,000	748,000	0	0
スポーツムーブメントの創出		211,914	218,326	△6,412	△2.9
競技スポーツの振興		1,007,151	765,074	242,077	31.6
スポーツを通じた被災地交流事業		41,340	22,100	19,240	87.1
大会のレガシーを継承する取組		112,011	338,851	△226,840	△66.9
パラスポーツの振興		1,987,755	2,102,674	△114,919	△5.5
開拓整備事業		729,935	703,789	26,146	3.7
人材育成事業		67,107	67,578	△471	△0.7
理解促進事業		710,460	800,003	△89,543	△11.2
競技力向上事業		330,451	340,481	△10,030	△2.9
東京都障害者スポーツ大会		54,054	54,054	0	0
全国障害者スポーツ大会		95,748	136,769	△41,021	△30.0
国際スポーツ大会等の開催		22,729,817	5,416,665	17,313,152	319.6
世界陸上・デフリンピック開催支援		16,304,379	2,958,278	13,346,101	451.1
国際大会を契機としたスポーツ気運醸成等		2,751,658	485,979	2,265,679	466.2
ユニバーサルコミュニケーションの促進		1,261,201	174,754	1,086,447	621.7
国際大会誘致・開催支援		170,010	212,440	△42,430	△20.0
GRAND CYCLE TOKYOの推進		1,806,498	1,146,730	659,768	57.5
マラソン祭りの開催		436,071	438,484	△2,413	△0.6
スポーツ施設費		12,733,496	16,199,434	△3,465,938	△21.4
スポーツ施設管理事務		124,068	123,955	113	0.1
スポーツ施設管理事務		124,068	123,955	113	0.1
スポーツ施設等の運営		5,843,178	6,266,638	△423,460	△6.8
スポーツ施設等の企画調整		833,015	669,939	163,076	24.3
スポーツ施設等の運営		5,010,163	5,596,699	△586,536	△10.5
スポーツ施設等の整備		6,766,250	9,808,841	△3,042,591	△31.0
企画調整		11,590	11,503	87	0.8
維持管理		1,304	1,304	0	0
維持補修		269,000	244,000	25,000	10.2
スポーツ施設等の大規模改修 (財務局計画分)		81,850	6,929,892	△6,848,042	△98.8

事 項				令和 7 年度	令和 6 年度	増(△)減	増減率(%)
			スポーツ施設等の大規模改修 (財 務 局 計 画 分 以 外)	5,851,406	1,833,942	4,017,464	219.1
			スポーツ施設等の大規模改修 (駒 沢 総 合 運 動 場)	551,100	566,900	△15,800	△2.8
			新規恒久施設等の整備	0	221,300	△221,300	皆減
計				46,799,000	31,898,321	14,900,679	46.7

(5) 債務負担行為

(単位：千円)

事 項		議決年度	期間	限度額
債務負担行為のⅠ	スポーツ施設等改修工事	令和7年度	令和8年度	1,647,835
	(同 上)	令和6年度	令和7～8年度	1,328,940
	計	令和7年度議決分		1,647,835
		過年度議決分		1,328,940
				2,976,775

2 決 算（令和6年度）

(1) 総 額

（単位：円）

区 分	予算現額	実 績	増(△)減	増減率(%)
歳 入 (A)	1,389,197,000	1,561,242,094	172,045,094	12.4
歳 出 (B)	29,407,496,000	26,620,754,550	2,786,741,450	9.5

(2) 歳 入

（単位：円）

科 目	予算現額	収入済額	増(△)減	収入率(%)
分 担 金 及 負 担 金	0	3,717,144	3,717,144	-
使 用 料 及 手 数 料	113,635,000	100,349,442	△13,285,558	88.3
国 庫 支 出 金	0	80,000,000	80,000,000	-
財 産 収 入	1,232,223,000	1,337,207,060	104,984,060	108.5
諸 収 入	43,339,000	39,968,448	△3,370,552	92.2
計	1,389,197,000	1,561,242,094	172,045,094	112.4

(3) 歳 出

（単位：円）

科 目	予算現額	支出済額	増(△)減	執行率(%)
総 務 費	144,993,000	118,408,882	26,584,118	81.7
政 策 企 画 費	144,993,000	118,408,882	26,584,118	81.7
管 理 費	144,993,000	118,408,882	26,584,118	81.7
生活文化スポーツ費	29,262,503,000	26,502,345,668	2,760,157,332	90.6
生活文化スポーツ費	29,262,503,000	26,502,345,668	2,760,157,332	90.6
管 理 費	4,246,210,000	4,241,629,899	4,580,101	99.9
都 民 生 活 費	70,000,000	65,853,692	4,146,308	94.1
スポーツ総合推進費	10,021,496,000	8,581,363,732	1,440,132,268	85.6
スポーツ施設費	14,924,797,000	13,613,498,345	1,311,298,655	91.2
計	29,407,496,000	26,620,754,550	2,786,741,450	90.5

第2 事業の概要

1	東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催	26
2	スポーツの振興	42
3	パラスポーツの振興	68
4	国際スポーツ大会の誘致・開催	81
5	スポーツ施設の管理運営	89
6	政策連携団体等との連携・協力	109

スポーツ振興のための施策

新たな「東京都スポーツ推進総合計画」（令和7年3月）に加え、「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」（令和5年2月）を基本に、スポーツとのつながりが日常に溶け込む「スポーツフィールド・東京」の実現に向けた施策を総合的に展開している。

主な事業は、次のとおりである。

1 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催

東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックに向け、招致主体などの関係者と連携し、大会準備・運営に協力するとともに、新たなレガシーの創出に向けて取り組む。

2 スポーツの振興

- (1) 都におけるスポーツ振興施策を総合的、体系的に推進するため、スポーツ振興に関する重要事項等について審議する東京都スポーツ振興審議会の運営を行う。
- (2) 誰でも気軽に楽しめるスポーツの体験機会の提供や企業の取組発信等によりスポーツムーブメントの創出に取り組む。
- (3) 区市町村の取組をソフト・ハードの両面から支援するなど、地域におけるスポーツ活動の促進を図る。
- (4) 東京のアスリートの競技力強化を図るとともに、地域での活躍を後押しする。
- (5) 東京2020大会のレガシーの継承に向けて、JOC、JPC等と連携したイベントの実施、アーカイブ資産の活用、ボランティアの参画に向けた取組及びレガシー設置物の設置・管理等を行う。

3 パラスポーツの振興

- (1) 障害の有無にかかわらずパラスポーツに関心を持ってもらい、裾野を広げるための理解促進、普及啓発を行う。
- (2) 障害のある人がパラスポーツを楽しめる場の充実や人材の育成、活用に取り組む。
- (3) 競技性を追求し、高みを目指す選手を発掘・育成・強化する競技力向上施策に取り組む。

4 国際スポーツ大会の誘致・開催

都民のスポーツへの関心喚起や東京のプレゼンス向上に向けて積極的に国際大会の誘致、開催を推進する。

5 スポーツ施設の管理運営

- (1) 都民のスポーツ及びレクリエーションの普及振興を図ること等を目的に、スポーツ施設（東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館、有明テニスの森公園テニス施設、若洲海浜公園ヨット訓練所、武蔵野の森総合スポーツプラザ、海の森水上競技場、夢の島公園アーチェリー場、カヌー・スラロームセンター、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場、東京アクアティクスセンター、東京都パラスポーツトレーニングセンター、東京都障害者スポーツセンター、味の素スタジアム、有明アリーナ、有明アーバンスポーツパーク、東京辰

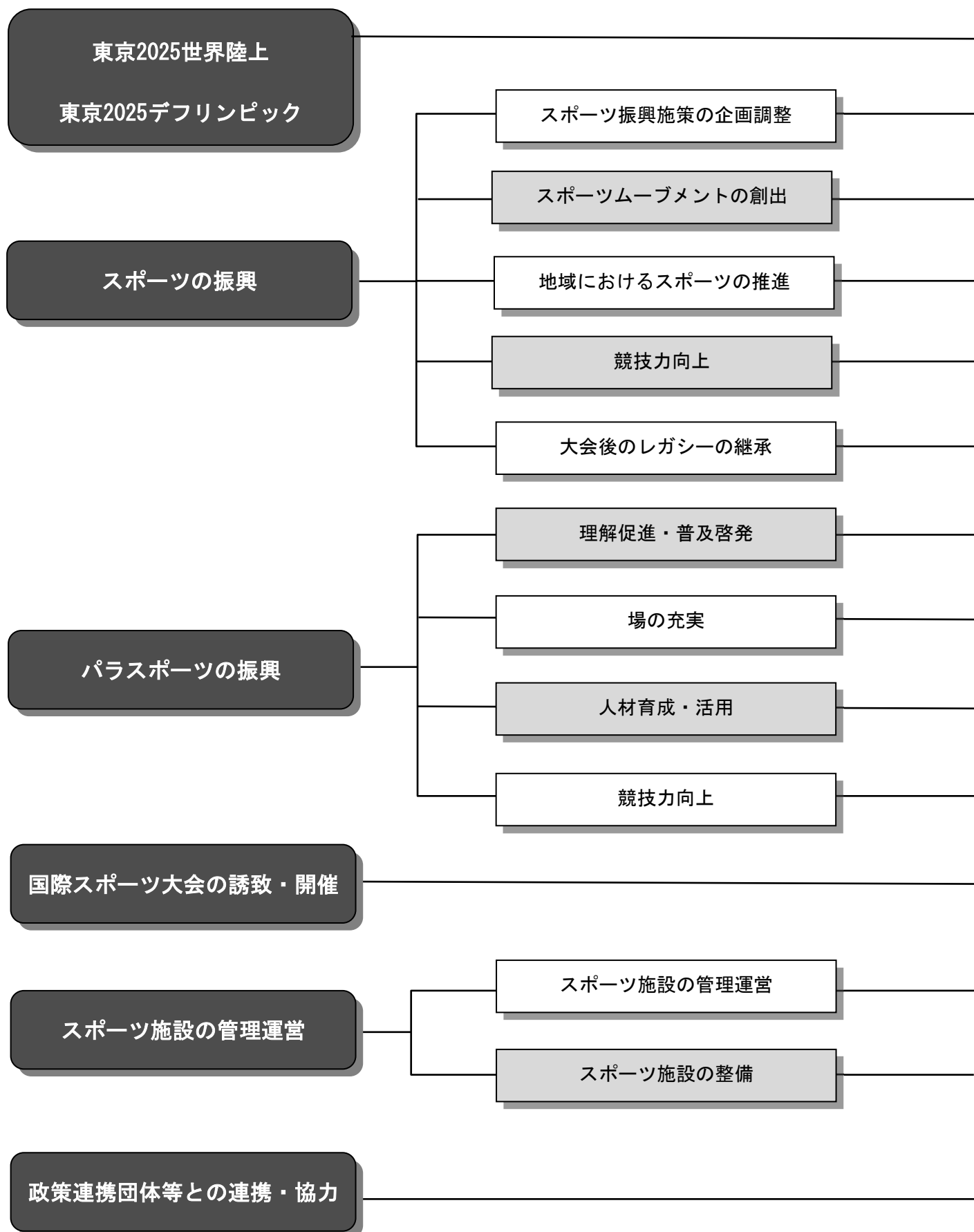
已アイスアリーナ)の管理運営を行う。

(2) 老朽化した施設の改修やアクセシビリティ整備等を目的に大規模改修、維持補修、新築及び増築等を行う。

6 政策連携団体等との連携・協力

(公財)東京都スポーツ文化事業団、(一財)東京マラソン財団、(株)東京スタジアム、(公財)東京都スポーツ協会、(公社)東京都障害者スポーツ協会、(公財)東京2025世界陸上財団と連携・協力して都のスポーツ振興施策を実施している。

事業の体系



・東京2025世界陸上、東京2025デフリンピック、ビジョン2025の推進等

・東京都スポーツ振興審議会、東京都スポーツ推進総合計画等

・各種スポーツ大会・スポーツイベント、スポーツ情報の発信等

・地域スポーツクラブや区市町村等への支援等

・競技スポーツの振興、ジュニア選手の育成や強化等

・大会レガシー継承事業、アーカイブ資産の活用、ボランティアの参画、レガシー設置物等

・パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」、パラスポーツメモリアルイベント

・デジタル技術を活用した障害者のスポーツ参加促進事業、都立特別支援学校活用促進事業

・パラスポーツ人材の活動活性化事業、パラスポーツセミナー

・東京パラアスリート強化事業、パラスポーツ団体体制強化支援事業等

・東京マラソン、東京レガシーハーフマラソン、GRAND CYCLE TOKYO等

・スポーツ施設の管理運営

・スポーツ施設の維持補修、整備

・(公財) 東京都スポーツ文化事業団、(一財) 東京マラソン財団、(株) 東京スタジアム、(公財) 東京都スポーツ協会、(公社) 東京都障害者スポーツ協会、(公財) 東京2025世界陸上財団との連携・協力

1 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催

世界陸上競技選手権大会及びデフリンピック（以下「両大会」という。）の令和7（2025）年の東京開催が、それぞれ令和4年7月と9月に決定した。両大会は、子供たちの夢と希望を育むとともに、ウェルネスの向上や共生社会に向けた歩みを加速させるなど、多くの開催意義を有しており、両大会の成功を目指し、大会の場を活用した様々な取組を展開することは、東京の新たな活力となる。都は、東京2020大会をはじめとしてこれまで培ってきた、国際スポーツ大会の運営ノウハウなどを生かし、両大会の招致主体などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力するとともに、両大会を通じて都が目指す姿をビジョンとして掲げ、その実現に向けて様々な取組を展開している。

(1) 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催に向けた取組

ア 「ビジョン2025」の策定

令和5年2月、両大会を通じ、スポーツの力によって東京の未来を切り拓いていくため、都が目指す姿を「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」としてまとめ、「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に貢献するという目標を掲げた。

さらに令和6年1月、本ビジョンの実現に向けて、両大会を通じて取り組んでいく方向性や、主な内容などをまとめた指針として、「ビジョン2025 アクションブック」（以下「アクションブック」という。）を策定した。令和7年1月には、その内容をより充実させた改定版として、「ビジョン2025 アクションブック バージョンアップ」（以下「アクションブックVer. up」という。）を策定した。

今後も、各局等と連携しながら、アクションブックVer. upに記載された取組等を展開していくとともに、大会本番時の具体的な事業内容や大会後のレガシー創出に向けた取組等に関する検討・調整を行っていく。

《アクションブックVer. upの概要》

アクションブックで定めた基本的な考え方（「3つのConcept」と「Sportsプロジェクト+10のAction」）のもと、両大会を通じた様々な取組や、その中で創出されるレガシーの内容等をより充実、具体化



ビジョン2025 アクションブックVer. up

ビジョン2025の実現に向けた基本的な考え方

3つのConcept

- ◆ 東京2020大会のレガシーを継承・発展
- ◆ 両大会一体となってウェルネスの向上や社会変革を推進
- ◆ 2025年を機に、東京に新たなレガシーを創出

Sports + 10のAction

【スポーツの価値を再認識】－ 推しスポーツProjectの展開

【みんながつながる】①大事な情報、伝える工夫 ②デジタルで拓く東京の未来

【世界の人々が 出会う】③芸術文化に触れ、感じる ④世界に東京の魅力をPR

【こどもたちが 夢をみる】⑤2025 for キッズ ⑥2025 with キッズ

【未来へ つなぐ】⑦みんなで守る、みんなの環境 ⑧共に生きる未来を創る

【みんなで 創る】⑨Make it together 2025 ⑩知って、楽しんで、応援しよう！

「推しスポーツProject」

- ◆両大会の開催を機に、スポーツを「する・みる・支える・応援する」の視点から、様々なスポーツに親しむ機会を創出
- ◆都民一人ひとりの好みや特性に合ったスポーツの楽しさ＝「推しスポーツ」の発見を支援

「推しスポーツ」の発見・実施を後押しする **3** つの取組

《キッズスポーツプログラム》
アスリートとの交流や子供（親子）向けスポーツ教室など

《健康長寿プログラム》
体力測定に基づく運動指導や、シニアを対象とした交流会など

《Let's enjoy sports !》
各種大会や試合観戦、ボランティアなどを通じた楽しさ・面白さの体感

「10のAction」における主な取組と目指す姿（レガシー）

みんながつながる

- ①国際手話人材の育成や、都立スポーツ施設のアクセシビリティ設備整備
- ②公共施設へのユニバーサルコミュニケーション機器の導入や、大会での技術活用



今後の情報保障の充実や新たなコミュニケーション技術の普及

世界の人々が出会う

- ③3つのアートプロジェクトや、芸術文化へのアクセシビリティ向上への取組
- ④競技会場や関連イベントでの東京の魅力発信や、スタートアップの技術活用



芸術文化の振興や訪都旅行者数の増加
スタートアップの成長

こどもたちが夢をみる

- ⑤国立競技場での子供向け陸上教室や、学校における聴覚障害の理解啓発
- ⑥両大会の競技観戦への招待や、大会のシンボル制作への参画



子供たちの健やかな成長

未来へつなぐ

- ⑦次世代型ソーラーセルやSAFの活用など、環境に配慮した取組の推進
- ⑧ハンドブックなどを通じた共生社会の発信や、多様な人々との交流イベント



持続可能な社会や共生社会の実現に向けた歩みの加速

みんなで創る

- ⑨多様な人々のボランティア参画（合計約6千人）や、デフアスリートへの支援
- ⑩節目を捉えた気運醸成イベントや、競技会場及びその周辺でのスポーツイベント



ボランティア文化のさらなる根付き、スポーツへの継続的な関わり

イ 関係機関との連携・協力

東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックの開催に向け、大会準備や運営に関する事項等について、国（スポーツ庁等）と連携、調整を図っている。また、公益財団法人東京2025世界陸上財団（以下「世界陸上財団」という。）及び一般財団法人全日本ろうあ連盟（以下「全日本ろうあ連盟」という。）から要請を受け、都から国に要望し、令和6年2月に、都及び両大会運営組織に対し、政府として協力する旨、閣議において了解された。そのほか、「国の施策及び予算に対する提案要求」を通じても全面的な支援を要望している。

都内区市町村に対しては、両大会の基本情報の周知や大会運営・気運醸成等の取組に関する協力依頼を行い、区市町村と一体となった取組を展開している。

(2) 東京2025世界陸上の開催

都は、大会を運営する世界陸上財団などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していく。

ア 大会概要

世界陸上競技選手権大会は、ワールドアスレティックス（以下「WA」という。）が2年ごとに開催する陸上競技の世界最高峰の大会であり、第1回大会は1983年にフィンランドのヘルシンキで開催された。2025年大会は第20回大会であり、東京での開催は1991年以来、日本での開催は2007年大阪大会を含めて通算3回目となる。過去大会では、テレビやライブ配信等により世界で約10億人が視聴している。

- ・日程：2025年9月13日（土）～9月21日（日）
- ・種目数：49種目（男子24種目、女子24種目、男女混合1種目）
- ・選手数：約200か国・地域、約2,000人
- ・競技会場：東京・国立競技場（マラソン、競歩は都内で実施）

イ 準備運営体制

令和5年7月、都と世界陸上財団は開催に向けた基本協定を締結した。令和4年12月に都が策定した「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」に基づき、世界陸上財団がガバナンス確保等の適切な組織体制を構築していることを踏まえて必要なサポートを行っている。

東京2025世界陸上の成功に向けては、都民・国民からの信頼が重要であり、世界陸上財団においては、ガバナンス確保のため、役員等候補者選考委員会の設置、外部有識者を含む契約・調達管理委員会の設置、実効的な監査体制及び手法の導入、情報の積極的な公開などに取り組んでいる。

また、都、世界陸上財団等で外部有識者を含む「契約・調達管理会議」を設置し、予算及び契約調達事務の適正な執行を確認している（令和7年7月末時点で、45回開催・129件審査）。さらに、都における国際スポーツ大会のガバナンス強化に向けた有識者会議で、ガバナンスの取組状況等について報告を行っている。

都は、世界陸上財団に対して必要なサポート等を行い、東京2025世界陸上の成功及びその先につながるレガシーの創出に向け、準備を進めている。

ウ 開催基本計画

世界陸上財団は、令和5年11月に開催基本計画を策定し、「多くの人々に夢や希望を届ける」、「今後の国際スポーツ大会のモデルを示す」という2つのミッションを踏まえて、「東京ドリーム」、「東京ブランド」、「東京モデル」のビジョンに基づき、大会成功に向けて、着実に準備を進めている。

同年12月には、世界陸上財団において、この大会開催基本計画の考え方を具体化するために必要な計画額を取りまとめ、財政計画を策定した。

エ 大会開催に向けた主な取組

(ア) ユニバーサルコミュニケーション技術の活用

海外から多くの選手・観客が訪れる東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックを契機に「いつでも・どこでも・誰とでもつながる」ユニバーサルコミュニケーションを促進するため、事業者等と連携し、展示会などを活用してユニバーサルコミュニケーション技術や大会に向けた取組をPRするほか、競技会場等における技術活用の実証を行っている。また、令和6年度からは各局と連携し、都庁舎をはじめとする都有施設において、音声情報を多言語で表示するディスプレイの設置を進めるとともに、区市町村や鉄道駅への導入支援を行い、デジタル技術の社会への普及を図っている。令和7年度は、都有施設へのディスプレイの設置を大幅に拡充するとともに、大会期間中の競技会場においてユニバーサルコミュニケーション技術を活用する。



CEATECでのPR（令和6年10月開催）



都庁舎に設置した透明ディスプレイ

(イ) 「TOKYO」の魅力発信

大会期間中、世界陸上財団をはじめ関係者と連携し、国立競技場周辺で国際大会の特別感を体感できる取組を展開する。競技場外構部のステージや都立明治公園では、アスリートによるトークショーやスポーツ体験など、大会を盛り上げるイベントを開催し、会場周辺の賑わいを創出するとともに、国内外から観戦に訪れる方々に向けて、スポーツの素晴らしさや江戸・東京の魅力を伝えていく。



TOKYO FORWARD 2025 for 世界陸上
(イメージ)

(ウ) 子供たちの参画

a 大会ロゴ

世界陸上財団では、「世界-東京-つながる。」をテーマとした大会ロゴを令和6年5月

に発表した。大会ロゴの開発においては、中高生のジュニアアスリートの意見を募集コンセプトに反映し、一般公募を実施した。368点の応募作品について、デザイン専門家、アスリート、公募により選ばれた委員で構成される選定委員会により最優秀作品を選定した。また、大会を身近に感じてもらうため、デザイン選定にあわせて、子供向けのロゴ作成体験企画を実施した。



東京2025世界陸上 大会ロゴ

b マスコット

世界陸上財団は、小学生とのワークショップを開催し、子供たちが描いたイラストを参考として、マスコットデザインを開発し、令和7年1月に発表した。デザイン発表後、インターネットによるネーミング投票を実施し、令和7年2月に名前を「りくワン」に決定した。



東京2025世界陸上マスコット「りくワン」

c メダルデザイン

世界陸上財団は、令和7年6月にメダルデザインを公表した。メダルデザインの制作・選定に当たっては、中高生のジュニアアスリートから意見を聴取し、専門家や若手アスリートからなる選定委員会での意見を重ね、選定した。また、メダルケースには、持続可能性の観点から、多摩産材（スギ・ヒノキ・ケヤキ・サクラ）を使用した。



東京2025世界陸上 メダルデザイン

d キッズ・アスレティックス

令和7年5月に、都、WA、世界陸上財団及び日本陸連は、東京2025世界陸上を「こどもに夢を届ける大会」としていくことに合意し、都内全小学校へのリレー競技用のバトン寄贈などに関係団体と連携して取り組んでいる。

e 子供の観戦招待

臨場感あふれる会場での観戦を通じて、子供たちにスポーツの素晴らしさや夢と希望を届けるため、都内在住・在学の子供たちを大会へ招待する。大会が土日祝日を中心に実施されることを踏まえ、引率者との観戦や子供のみでの観戦などの方法を用意し、多くの子供たちが観戦できるよう取り組む。また、被災地（岩手県・宮城県・福島県・石川県）の子供たちも大会に招待する。

f 子供の参画を通じた気運醸成

子供たちが世界陸上で活躍するアスリートとふれあい、一緒に陸上競技などのスポーツを楽しみながら、大会の魅力に触れてもらう体験教室を令和5年度、令和6年度と開催してきた。

また令和6年8月にこどもワークショップを開催し、小中学生からの意見を踏まえて、大会における子供の参画の具体化を推進している。

令和7年度は、東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック気運醸成の特設サイトに子供向けページを新設し、アスリート等のインタビューを掲載していく。また、子供たちが記者として、選手、関係者、イベントの取材を行い、取材内容をまとめて発信する「こども記者プログラム」を実施する。



子供スポーツ体験教室「走る！跳ぶ！投げる！
陸上競技体験教室」（令和7年1月19日開催）

(エ) 持続可能な大会の実現

a 環境への配慮

大会に出場するアスリートの協力を得て、持続可能な航空燃料 S A F の原料となる使用済み食用油の回収を促進するとともに大会で使用する仮設発電機にバイオ燃料を活用する。

また、再生可能エネルギーの実装として、Air ソーラー（次世代型太陽電池）を搭載した庭園灯を国立競技場周辺に設置するとともに、ボトル to ボトルなど資源循環の推進に向けた取組を実施する。



世界陸上財団による S A F の P R

b 暑さ対策

近年の酷暑を踏まえ、国立競技場周辺や明治公園におけるクーリングスポットの設置やミストクルーの巡回等、多数の来場者に対する暑さ対策を実施する。また、スタートアップ戦略推進本部が実施するキングサーモンプロジェクト（King Salmon Project）と連携し、スタートアップ企業からの提案を踏まえ、協働して最新技術を活用していく。

(オ) 多様な人々の参画

a ボランティア

世界陸上財団では、令和 6 年 11 月から大会ボランティアの募集を行い、8,276 人の応募の中から、障害の有無や年齢、国籍などを問わず 3,100 人を採用した。そのほか周辺区等からの協力も含めて合計 3,400 人のボランティアチームを構成し、複数回にわたる研修を実施するなど、大会に向けた準備を進めている。

b 広報・情報発信

幅広い都民の関心を喚起するため、令和 5 年度に大会の特設サイトを開設し、大会概要や開催意義をわかりやすく発信しているほか、節目の機会を捉え、S N Sをはじめとする多様なメディアを活用した広報を展開している。

c 気運醸成イベント等

これまで、大会開催 2 年前、1 年前などの節目を捉えて気運醸成に向けた取組を実施し、アスリートによるトークショーや大会の魅力を体感できるイベントなどを開催した。

令和7年度は、大会開催100日前に行幸通りでイベントを開催し、「走る・跳ぶ・投げる」を気軽に楽しめるプログラムのほか、アスリートを招いた競技パフォーマンスなど、トップアスリートたちの「すごさ」を間近で体感できるプログラムを実施した。東京2025世界陸上の開幕前日には、開催気運を盛り上げることを目的として、普段は走ることのできないKK線（東京高速道路）において、1マイルレースやハーフマラソンリレー、ギネス世界記録®への挑戦など、多彩なランニング体験イベント（RUNS：INTO KK）を開催する。

また、都内区市町村主催のイベントにおいて、両大会のPRや競技を体験・体感できる取組を実施するとともに、集めたメッセージを選手に届け、会場での盛り上げなどに活用していく。加えて、両大会の気運醸成に資する区市町村のスポーツイベント等への支援を行い、東京全体で開催気運を更に高めていく。



TOKYO FORWARD 2025 東京2025世界陸上

RUNS：INTO KK（イメージ）

1 Year to Go！（令和6年9月13日・14日開催）

d ワールドアスレティックス・ミュージアム（MOWA）

東京2025世界陸上の開催を記念して、令和7年7月7日から9月21日まで、都庁第一本庁舎北展望室及び2階展示コーナーにおいて、「TOKYO1991－2025」をテーマとした展示を行う。会場では、世界陸上メダリストのウェアやシューズ、大会メダルのほか、世界陸上の記録や歴史を体感できる展示を実施する。



MOWA展示の様子

オ 東京2025世界陸上を契機としたスポーツ振興事業

(ア) 「走って・跳んで・投げて」陸上競技― 楽しくチャレンジ！ スポーツドリル

世界陸上の見どころや陸上競技種目の解説のほか、あらゆるスポーツの基礎となる「走る・跳ぶ・投げる」の運動について、子供たちが楽しみながら上達するトレーニングメニューを紹介したスポーツドリルを HP で紹介するほか、都内の小学校4年生から6年生に配布する。

(イ) 国立競技場特別スタジアムツアー

「見て、学んで、走りだせ 世界陸上リアル教室」への参加が叶わなかった都内の小学校4年生から6年生までを対象に、世界陸上が行われる国立競技場での体験を通じて、体育やスポーツ、体を動かすことへの興味・関心を喚起することを目的として開催する。

- ・ 日 程 令和7年6月23日（月）～7月17日（木）（うち14日間）
- ・ 会 場 国立競技場

(ウ) バーチャルラン「ファミリー陸上★チャレンジDAYS！！」

子供を中心としたスポーツ振興を目的に、夏休み期間に親子などでスポーツをする機会を創出し、楽しく健康づくりをするイベントとして、ランニングアプリを活用したバーチャルランを開催する。

- ・ 日 程 令和7年8月2日（土）～8月24日（日）

(エ) 見て、学んで、走りだせ 世界陸上リアル教室

都内の小学校4年生から6年生までを対象に、東京2025世界陸上の開催期間中に実際の会場である国立競技場の雰囲気を感じ、一流の指導者から陸上競技の指導を受けることで、体育やスポーツへの関心を高めるとともに、走る、跳ぶ、投げるといった基本的な身体能力の向上を目的として開催する。

- ・ 日 程 令和7年9月16日（火）～9月19日（金）
- ・ 会 場 国立競技場

(3) 東京 2025 デフリンピックの開催

都は、大会の招致主体である全日本ろうあ連盟などの関係者と連携し、大会の準備・運営に協力していく。

ア 大会概要

デフリンピックは、国際ろう者スポーツ委員会（以下「ICSD」という。）が主催し、夏季と冬季それぞれ4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会であり、第1回大会は1924年にフランスのパリで開催された。2025年大会は、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催となる。手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴である。

- ・ 日 程：2025年11月15日（土）～11月26日（水）
- ・ 競 技 数：21競技（陸上・水泳・卓球など）

- ・選 手 数：70～80か国・地域、約3,000人
- ・競技会場：主に都内会場、サッカーは福島県、自転車は静岡県で実施予定

	競技名	会場		競技名	会場
1	陸上	駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場	11	柔道	東京武道館
	陸上(マラソン)	東京高速道路及び首都高速道路 高速八重洲線の一部	12	空手	東京武道館
	陸上(ハンマー投げ)	大井ふ頭中央海浜公園 陸上競技場	13	オリエンテーリング	日比谷公園・日比谷エリア、 伊豆大島(裏砂漠)
2	バドミントン	京王アリーナTOKYO (武蔵野の森総合スポーツプラザ)	14	射撃	味の素ナショナルトレーニング センター・イースト
3	バスケットボール	大田区総合体育館	15	水泳	東京アクアティクスセンター
4	ビーチバレーボール	大森ふるさとの浜辺公園	16	卓球	東京体育館
5	ボウリング	東大和グランドボウル	17	テコンドー	中野区立総合体育館
6	自転車(ロード)	日本サイクルスポーツセンター	18	テニス	有明テニスの森
7	自転車(MTB)	日本サイクルスポーツセンター	19	バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館
8	サッカー	Jヴィレッジ	20	レスリング (フリースタイル)	府中市立総合体育館
9	ゴルフ	若洲ゴルフリンクス	21	レスリング (グレコローマン)	府中市立総合体育館
10	ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場			

イ 準備運営体制

都と全日本ろうあ連盟は、大会準備・運営にかかる業務の分担を行っている。大会開催に係る I C S D の窓口などの役割を全日本ろうあ連盟が担い、競技・会場運営などの運営実務を、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（以下「スポーツ文化事業団」という。）が担っている。

また、関係者間における情報共有、調整・協議、助言等を行う場として、令和5年2月、全日本ろうあ連盟により「2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議」が設置された。全日本ろうあ連盟、都、スポーツ庁、JOC、公益財団法人日本パラスポーツ協会、弁護士、公認会計士で構成されている。

そのほか、都、全日本ろうあ連盟などで、外部有識者等を加えた「契約・調達管理会議」を設置し、予算及び契約調達事務の適正な執行を審査している（令和7年7月末時点で、37回開催・104件審査）。

ウ 開催基本計画

令和5年11月、大会概要、大会を通して残すレガシー、運営体制や運営実務面に関する内容で構成する開催基本計画を策定し、「デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ」、「世界に、そして未来につながる大会へ」、「“誰もが個性を活かし力を発揮できる” 共生社会の実現」を大会ビジョンに掲げた。

令和5年12月、この基本計画の考え方をもとに、大会の成功や大会後のレガシーの創出に向け、大会開催に必要な計画額を取りまとめた。

エ 大会開催に向けた主な取組

(ア) ユニバーサルコミュニケーションの促進

a ユニバーサルコミュニケーション技術の活用

海外から多くの選手・観客が訪れる東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックを契機に、「いつでも・どこでも・誰とでもつながる」ユニバーサルコミュニケーションを促進するため、事業者等と連携し、展示会などを活用してユニバーサルコミュニケーション技術や大会に向けた取組をPRするほか、競技会場等における技術活用の実証を行っている。

また、事業者と協働し、障害当事者の声を聞きながら技術開発を促進するため、令和5年度にスタートアップ企業によるピッチコンテストを実施した。

大会での活用に向けて、ピッチコンテスト優勝企業等と連携し、音が見える、音を感じる競技観戦の実現に取り組んでいる。

さらに、令和6年度から各局と連携し、都庁舎をはじめとする都有施設において、音声情報を多言語で表示するディスプレイの設置を進めるとともに、区市町村や鉄道駅への導入支援を行い、デジタル技術の社会への普及を図っている。

令和7年度には、都有施設へのディスプレイの設置を大幅に拡充する。また、大会期間中の競技会場におけるユニバーサルコミュニケーション技術の活用に加えて、選手の交流拠点となる「デフリンピックスクエア」において、先端技術の展示を行う。

b 国際手話の普及促進

都は、大会の成功に向け、情報保障の充実や気運醸成などを行うとともに都内の国際手話人口の裾野拡大を図るため、令和5年度及び令和6年度に東京都国際手話普及促進事業を実施した。当事業において、令和5年度は延べ331人、令和6年度は延べ217人の国際手話講座の受講費用を助成した。令和7年度は、助成者等を対象に、東京2025デフリンピック及びその後の活躍を見据え、国際手話人材活用促進事業を実施する。

(イ) 「TOKYO」の魅力発信

a 選手団団長セミナー

令和6年11月、各国選手団が大会への参加準備を円滑に進めるため、大会時のサービス内容等の情報提供や競技会場の視察を行う選手団団長セミナーが開催された。都はこの機会を活用し、東京産食材の提供や都伝統工芸品の贈呈、東京の観光資源などのPRを実施した。

b デフリンピックスクエア

大会期間中、運営や輸送、選手同士の交流など様々な機能を集約した拠点として国立オリンピック記念青少年総合センターに設置される。

大会運営拠点としての役割に加え、新技術を活用したユニバーサルコミュニケーションや選手同士の交流、東京の芸術文化を体験できる機会など、選手や来場者向けの様々なプログラムを展開する。

(ウ) 子供たちの参画

a 大会エンブレム

令和5年9月、国立大学法人筑波技術大学の学生が作成したデザイン案の中から、都内中高生の投票により、大会エンブレムのデザインが決定した。人々の繋がりを意味する「輪」がテーマとなっている。デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現している。花は桜の花弁がモチーフとなっている。



東京2025デフリンピック

大会エンブレム

b メダルデザイン

令和6年11月に入賞メダルのデザインを全国8万人超の小中高生による投票で決定した。表面のデザインには、選手が活躍し、大きく羽ばたいていくことを願った折り鶴が描かれている。また、裏面は、いくつもの線がまじりあうデザインで、世界の人とのつながりを表している。メダルリボンは、日本の伝統的な模様を組み合わせたデザインで、「藍鉄色」という江戸時代の人々が好んでいた色を使用している。



東京2025デフリンピック 入賞メダル

c 子供観戦

都は、臨場感あふれる会場での観戦を通じて、子供たちにスポーツの素晴らしさや夢と希望を届けるため、都内や被災地（岩手県・宮城県・福島県・石川県）の子供たちを競技観戦に招待する。観戦に当たっては、事前に提供する資料等を活用し、各学校で事前学習を行うなど、子供たちが学び成長するための取組を実施する。

特にろう学校の子供たちについては、メダルセレモニーのサポートや、選手を入場時に迎えるなど、子供たちの参画機会も提供する。

d 子供の参画を通じた気運醸成

令和5年度及び令和6年度に、子供たちがデフアスリートと一緒にスポーツを楽しみながら、大会の多様な魅力に触れられる体験教室を実施し、共生社会について考えるきっかけを提供した。

令和7年度は、東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック気運醸成の特設サイトに子供向けページを新設し、デフアスリートや社会で活躍するろう者等のインタビューを掲載する。



子供スポーツ体験教室「デフサッカー体験
教室 with FC東京」（令和6年12月14日開催）

(e) 共生社会の理解促進に向けた取組

デフリンピックや手話について、漫画形式で学べる学習ハンドブック「学ぼう！デフリンピック」を制作し、都内区市町村の全小学校の4～6年生約34万人に冊子を配布した。あわせて、大会500日前などの節目に、都内小学校においてアンバサダーやデフアスリートによる冊子を活用した特別授業を実施した。

また、手話単語に触れることができるダンス動画「しゅわしゅわ☆デフリンピック！」を制作し、都内幼稚園でアンバサダーをゲストに招いたお披露目イベントを実施したほか、著名人にダンスを踊ってもらい、その動画をSNSを通じて広く発信した。加えて、手話表現をベースに視覚的な動きでデフアスリートに応援を伝える新しい応援スタイル「サインエール」をろう者やデフアスリート等とともに開発し、大会1年前イベントで発表した。令和7年度は、大会時に会場に来た観客がきこえる・きこえないにかかわらず一体となってデフアスリートに応援できるよう、各種競技大会で実証を重ねるとともに、様々な機会を捉えて幅広く普及していく。



学習ハンドブック「学ぼう！デフリンピック」



ダンス楽曲「しゅわしゅわ☆デフリンピック」



「サインエール」

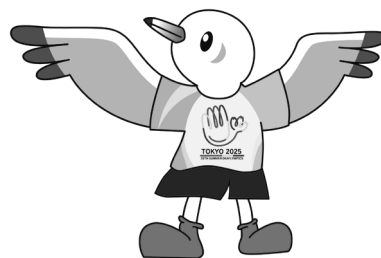
(オ) 多様な人々の参画

a ボランティア

競技会場等で活動するボランティアについて、令和6年11月から令和7年1月まで募集を行い、応募のあった18,903人の中から抽選により3,500人の当選者を決定した。スポーツ文化事業団が全日本ろうあ連盟等と連携し、大会本番に向け、手話言語やろう者の文化等の理解を深める研修を実施している。

b マスコット・応援隊

令和6年6月、都のスポーツ推進大使である「ゆりーと」を東京2025デフリンピック公式マスコットとして任命した。また、デフリンピックを多くの方々が応援し、大会に親しみを持ってもらえるよう、各地方自治体等のキャラクターによる「東京2025デフリンピック応援隊」を結成した。



東京2025デフリンピック
公式マスコットゆりーと

c 寄附協賛

令和6年3月、スポーツ文化事業団は、より多くの方々や企業等が参画し、一緒に大会を創り上げていくための取組として、寄附及び協賛の受付を開始した。

令和6年5月から7月まで、クラウドファンディングを実施し、令和7年2月からはキャッシュレス募金による寄附の取組を開始した。

d 広報・情報発信

令和5年度に両大会の特設サイトを開設し、大会概要や開催意義をわかりやすく発信するほか、節目の機会を捉え、SNSをはじめとした多様なメディアを活用し広報を展開している。令和7年度もこうした取組を継続するとともに、大会直前には、より認知度を高め、多くの方に競技会場に足を運んでいただけるよう、交通広告やSNS、雑誌など様々な媒体を活用し広報プロモーションを強化する。

e 気運醸成イベント等

大会への認知度や関心を高めるため、幅広い世代に訴求力のある方をアンバサダーとして起用し、節目の機会を捉えて様々な取組を展開してきた。令和5年度は、大会開催2年前に、デジタル技術を活用して誰もがつながることができるコンセプトカフェ「みるカフェ」を期間限定でオープンした。

令和6年度は、大会開催555日前記念トークショーを開催したほか、大会開催1年前イベントにおいて、メダルデザインなどの発表や手話体験等を実施した。また、きこえる・きこえない大学生が協働で企画・運営に携わり「みるカフェ」を再び実施した。

大会への関心を高める取組を幅広く展開したことにより、デフリンピックの都内認知度が14.8%（令和5年度）から39.0%（令和6年度）に急上昇した。

令和7年度は、大会開催100日前などの節目にデフアスリート等を招いたイベントを実施するほか、カウントダウンモニュメントを制作し、競技会場等を巡回することにより、地域からも大会への期待感を高めていく。

また、都内区市町村主催のイベントにおいて、両大会のPRや競技を体験・体感できる取組を実施するとともに、集めたメッセージを選手に届け、会場での盛り上げなどに活用していく。加えて、両大会の気運醸成に資する区市町村のスポーツイベント等への支援を行い、東京全体で開催気運を更に高めていく。



誰もがつながることができるコンセプトカフェ
「みるカフェ」（令和5年11月15日～26日開催）



TOKYO FORWARD 2025 東京2025デフリンピック
1 Year to Go！（令和6年11月15日・16日開催）

オ 東京2025デフリンピックを契機としたスポーツ気運醸成

(ア) デフスポーツ競技団体都内活動促進事業

東京2025デフリンピックに向け、デフスポーツの競技力を向上させるとともに、都民のデフスポーツへの関心を高めることを目的として、J P Cに加盟するデフスポーツ中央競技団体が都内で実施する強化合宿や普及啓発活動等に対し、財政的支援を実施する。

【令和6年度実績】

12団体36事業

(イ) デフリンピックチャレンジ事業

東京2025デフリンピックに向けて、中央競技団体が存在しない等の理由により、これまで出場選手の発掘・育成が進んでいなかった競技について、関連する競技団体が都内で行う競技力向上事業や、デフリンピック出場を目指す都にゆかりのある選手の競技活動に係る経費に対して財政的な支援を行う。

なお、令和6年度には全国から有望な選手を発掘することを目的としたトライアウトを実施した。

【令和6年度実績】

財政的支援：5団体29事業、東京デフアスリート認定選手15名

トライアウト：ハンドボール、射撃、テコンドー、レスリングの4競技

(ウ) パラスポーツメモリアルイベント【新規】

東京2025デフリンピックの開催時期にあわせて、競技観戦や応援などの盛り上げにつなげるとともに、デフスポーツを含むパラスポーツへの関心・理解の一層の向上を図り、共生社会の実現につなげていく。

・日 程 令和7年11月22日（土）～11月24日（月・祝）

・会 場 駒沢オリンピック公園中央広場

2 スポーツの振興

(1) 生涯スポーツの振興とスポーツムーブメントの創出

各種スポーツ大会の開催及び国民スポーツ大会等への東京都代表選手の派遣を行う。

また、都民が気軽に参加できるスポーツイベントを開催するとともに、大規模スポーツ大会やプロスポーツチームが主催する試合等のスポーツ観戦の機会を提供する。

なお、競技スポーツだけでなく、健康づくりや気分転換として行われるものを含むとして、「スポーツ」の概念を広く捉える観点から、令和6年度から各種スポーツ大会の名称について「体育」の文言を「スポーツ」へと変更している。

ア 各種スポーツ大会・スポーツイベント等

(ア) 東京都スポーツ大会（旧：都民体育大会）※令和6年度夏季大会から名称変更

都におけるスポーツの祭典であり、広くスポーツを普及・振興し、参加者の健康増進と体力向上を図るとともに、区市町村対抗方式で行うことにより競技力向上に寄与することを目的として、開催する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

- ・ 東京都スポーツ大会（春季、夏季、冬季）
- ・ 合同開会式

【令和6年度実績】

① 東京都スポーツ大会

＜第77回都民体育大会＞

a 春季大会

- ・ 実施競技 陸上競技・サッカー・テニス・ソフトテニス・バレーボール・弓道・バドミントン・卓球・剣道・柔道・軟式野球・クレ射撃・空手道・アーチェリー・馬術・ソフトボール・なぎなた・フェンシング・ローラースケート・ボウリング・ハンドボール・自転車・ゲートボール・ダンススポーツ・バスケットボール・少林寺拳法・ライフル射撃・銃剣道（28競技）

・ 日 程 令和6年4月20日（土）～6月15日（土）

・ 会 場 駒沢オリンピック公園総合運動場 東京武道館ほか

・ 参 加 者 12,321人

＜第78回東京都スポーツ大会＞

b 夏季大会

- ・ 実施競技 水泳・ゴルフ（2競技）

・ 日 程 【水泳】令和6年7月15日（月・祝）

【ゴルフ】令和6年10月9日（水）、10日（木）

・ 会 場 【水泳】東京アクアティクスセンター

【ゴルフ】立川国際カントリー倶楽部

・ 参 加 者 577人



ソフトボール

c 冬季大会

- ・実施競技 駅伝・スキー（2競技）
- ・日 程 【駅伝】令和7年2月23日（日）
【スキー】令和7年3月2日（日）
- ・会 場 【駅伝】葛飾区荒川河川敷道路、堀切水辺公園
【スキー】長野県菅平高原裏太郎ゲレンデファミリーコース
- ・参加者 555人

②第77回都民体育大会・第25回東京都障害者スポーツ大会
合同開会式

- ・日 程 令和6年5月12日（日）
- ・会 場 東京体育館
- ・参加者 805人



選手宣誓

(イ) スポーツフェスティバル東京（旧：都民生涯スポーツ大会）

幅広い世代のスポーツ愛好者を対象としたスポーツ大会であり、参加者が実力に関係なく、日頃の練習の成果を発揮する中で、スポーツを通じて親睦を深めることを目的として開催する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

※ 参加者にとって、より親しみやすい大会とするため、令和6年度から名称を変更

【令和6年度実績】

- ・実施競技 水泳・陸上競技・バスケットボール・
テニス・サッカー・ソフトバレーボール・
ソフトテニス・バドミントン・
ソフトボール・柔道・弓道・剣道・
ラージボール卓球・なぎなた・
ボウリング・ダンススポーツ・
ゲートボール（17競技）

- ・日 程 令和6年8月17日（土）～11月24日（日）
- ・会 場 東京アクアティクスセンター ほか
- ・参加者 4,503人



なぎなた

(ウ) 都民スポレクふれあい大会

広く都民の間にスポーツ・レクリエーション活動を実践する場を提供し、都民一人ひとりのスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起するとともに、子供から高齢者まで、家族とともに参加することにより、世代を超えたふれあいと、健康・体力づくり、生きがいに資することを目的として開催する。

※ 一般社団法人東京都レクリエーション協会との共催により実施

【令和6年度実績】

- ・実施種目 ターゲットバードゴルフ・グラウンドゴルフ・
バウンドテニス・インディアカ・ミニテニス・
スポーツウエルネス吹矢・3B体操・
トリム体操・練功十八法・ウォークラリー・
手のひら健康バレー・スポーツチャンバラ・ウォーキング・
ネオホッケー・ティーボール・オリエンテーリング・パドルテニス・
キンボールスポーツ・ユニカール・ドッジボール・カバディ・クップ・
ノルディックウォーク・レクリエーション卓球・カーレット・
フォークダンス・ミニフロアボール・太極柔力球・フライングディスク・
ウォーキングフットボール（30種目）



ユニカール

- ・日程 令和6年4月13日（土）～12月31日（火）
- ・会場 駒沢オリンピック公園総合運動場 東京武道館 ほか
- ・参加者 6,397人

(エ) 東京都市町村総合スポーツ大会（旧：東京都市町村総合体育大会）

※ 令和6年度から名称変更

各市町村を代表する都民が、市町村対抗で、陸上競技をはじめ14競技を行い、参加市町村のスポーツ振興と競技力の向上、また、多摩地域の連帯を深め、地域の発展にも寄与することを目的に開催する。

※ 東京都市町村スポーツ協会連合会との共催により実施

【令和6年度実績】

- ・実施競技 陸上競技・卓球・ソフトテニス・
バレーボール・バドミントン・水泳・
軟式野球・剣道・柔道・空手道・弓道・
ゲートボール・ダンススポーツ・
ソフトボール（14競技）

- ・日程 令和6年7月6日（土）～8月3日（土）
- ・会場 武蔵村山市総合体育館 ほか
- ・参加者 4,190人（28市町村）



開会式

(オ) 全国青年大会

青年同士の友好親善を深めるとともに、スポーツや文化活動が豊かに取り組まれる健康で文化的な生活を自らの手で作り出し、さらには、青年がその中心となって多様な世代が手を取り合って暮らせるような、真に豊かな地域社会の創造を目指すことを目的として実施する。都は、同大会に東京都代表選手を派遣する。

※ 日本青年団協議会及び一般財団法人日本青年館との共催により実施

【令和6年度実績】

- ・実施種目 バスケットボール・軟式野球・剣道・フットサル
(ほか芸能文化種目を含め8種目)
- ・日 程 令和6年11月8日(金)～11日(月)
- ・会 場 東京体育館 ほか
- ・参加者 951名

(カ) TOKYO縁ジョイ！ 東京都シニア・コミュニティ交流大会

シニア世代がいきいきと活動できる環境の実現に向け、趣味を通じて地域やコミュニティ等とつながりを持つきっかけとすることを目的に開催しており、一部の種目を除き、翌年度開催される全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する選手の選考対象となる。令和7年度からeスポーツを実施種目に追加する。

【令和6年度実績】

- ・実施種目 囲碁・将棋・健康マージャン・ダンス
スポーツ・カラオケ
- ・日 程 令和7年1月25日(土)、
2月1日(土)、8日(土)
- ・会 場 小金井 宮地楽器ホール、
武蔵野の森総合スポーツプラザ(京王アリーナTOKYO)
- ・参加者 延べ1,284人
- ・参加資格 60歳以上



ダンススポーツ

(キ) TOKYO縁ジョイ！ シニア健康スポーツフェスティバル

高齢者に適したスポーツや健康づくり推進活動を通して、多くの高齢者が社会参加や仲間づくり、世代間交流を広げることにより、明るく活力のある長寿社会づくりを推進する目的で、翌年開催される全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する選手の選考会を兼ねて開催している。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

【令和6年度実績】

- ・競技種目 ゲートボール・テニス・ソフトテニス・
ソフトボール・弓道・剣道・マラソン・
ラージボール卓球・ペタンク・サッカー(10競技)
- ・日 程 令和6年9月16日(月・祝)～11月24日(日)
- ・会 場 駒沢オリンピック公園総合運動場 ほか
- ・参加者 2,559人
- ・参加資格 59歳以上



ラージボール卓球

(ク) 全国健康福祉祭(ねんりんピック) 東京都選手団派遣事業

全国健康福祉祭に東京都選手団を派遣し、高齢者の健康維持・増進、生きがいの高揚

を図ることを目的に、昭和63年から毎年開催している。

【令和6年度実績】

- ・派遣種目 卓球・テニス・ソフトテニス・
ソフトボール・ゲートボール・
ペタンク・ゴルフ・マラソン・弓道・
剣道・ローイング・水泳・
グラウンドゴルフ・サッカー・
ソフトバレーボール・ウォークラリー・



総合開会式

- 太極拳・バウンドテニス・ダンススポーツ・囲碁・将棋・
健康マージャン・eスポーツ（23種目）

※第36回大会（ねんりんピックはばたけ鳥取2024）開催種目数：29種目

- ・大会日程 令和6年10月19日（土）～10月22日（火）
- ・開催県 鳥取県
- ・派遣人数 258人

(ケ) 全国健康福祉祭（ねんりんピック）の東京開催

令和6年3月、高齢者を中心とするスポーツや文化、健康と福祉の総合的な祭典である全国健康福祉祭（ねんりんピック）が、令和10（2028）年に東京で初めて開催されることが決定した。令和7年度は、大会の基本方針や目標、開閉会式の会場、交流大会の実施種目・会場等を基本構想としてまとめる。引き続き、区市町村をはじめ、関係者と連携し、大会開催に向けて準備を進める。

【大会概要】

- ・主催 厚生労働省、東京都、（一財）長寿社会開発センター
- ・開催期間：4日間（例年9月～11月に開催）
- ・参加者：47都道府県＋20政令市の計67選手団（約1万人）
- ・実施内容：スポーツ交流大会、ふれあいスポーツ交流大会、文化交流大会、
その他関連イベント

(コ) 東京みんなのスポーツ塾

ニュースポーツの普及に向けた指導者を育成するため、種目別に指導者によるルール解説や競技方法の指導、実践練習を取り入れた指導者講習会のほか、種目団体のコンプライアンスへの理解を促進する講習会を実施する。

※ 一般社団法人東京都レクリエーション協会との共催により実施

【令和6年度実績】

- ・実施種目 手のひら健康バレー・フロアボール・
トリム体操・太極柔力球・
バウンドテニス・カーレット・
スポーツウエルネス吹矢・クップ・



バウンドテニス

グラウンドゴルフ・インディアカ・
パドルテニス・スポーツチャンバラ・
ユニカール・キンボールスポーツ・ターゲットバードゴルフ・
ティーボール・スナックゴルフ（17種目）

- ・日程、会場（講習会） 令和6年7月10日（水）
東京体育館 第一会議室
（種目別指導者講習会） 令和6年10月19日（土）、20日（日）、11月
16日（土）、17日（日）
駒沢オリンピック公園総合運動場

・参加者 1,121人

（サ）プロスポーツチーム等との連携事業

スポーツの楽しさやスポーツを始めるきっかけを醸成するため、プロスポーツチーム等と連携し、都とプロスポーツチーム等双方の強みを生かした事業を実施する。

【令和6年度実績】

「マルチスポーツ体験会」（東京スポーツドック2024 六本木内での開催）

- ・日 程 令和6年9月7日（土）、8日（日）
- ・会 場 六本木ヒルズアリーナ
- ・内 容 9月7日（土）

ラグビー体験会

ラグビー元日本代表選手によるトークショー

ステージでのチアダンス&パルクールのパフォーマンス

9月8日（日）

サッカー体験会

- ・体験会参加者 470人

「マルチスポーツ体験会」

- ・日 程 令和7年1月4日（土）
- ・会 場 駒沢オリンピック公園 中央広場
- ・内 容 各競技の体験会（ラグビー、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ベースボール5、世界陸上・デフリンピック競技）

- ・参加者 3,512人

（シ）スポーツを通じた健康増進事業

様々な機会を通じて都民が気軽にスポーツに取り組むきっかけを提供し、継続的なスポーツ実施につなげていくとともに、都民の体力データ等を活用し、身体活動等の状況が健康に及ぼす影響が見える化することにより、都民の健康への関心を高め、健康増進に貢献する。



サッカー体験会の様子



バレーボール体験会の様子

【令和6年度実績】

①東京スポーツドック2024 六本木

- ・実施内容 体力・体組成測定、健康運動指導、
ステージイベント、体験型コンテンツ、
企業連携ブース等
- ・日 程 令和6年9月7日（土）、8日（日）
- ・会 場 六本木ヒルズアリーナ
- ・参 加 者 3,782名



体力測定（ステップ台運動）

②東京スポーツドック2024 ブース出展

- ・実施内容 自治体主催等のイベントにおける体力・体組成測定、健康運動指導等
- ・出展日数 延べ10日間
- ・会 場 BRANCH調布ほか7会場
- ・参 加 者 855名

イ 参加型スポーツイベントの開催によるスポーツ振興事業

スポーツの場を東京の至る所に拡げることを目的に、誰でも気軽に参加できるスポーツイベントを開催する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団及び一般財団法人東京マラソン財団への補助により実施

(ア) スポーツフェスタ

スポーツの日を記念し、スポーツの普及、振興を図るため、オリンピック・パラリンピック競技やレクリエーションスポーツの体験コーナー、ゲストによるミニトークショー等、参加・体験型スポーツイベントを実施する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団の主催により実施

【令和6年度実績】

- ・日程、会場 令和6年10月5日（土）
国営昭和記念公園
令和6年10月14日（月・祝）
東京体育館
令和7年3月16日（日）
東京体育館
- ・参 加 者 28,210人（3日間3会場延べ）



スポーツフェスタ2024in東京体育館

(イ) TOKYOウォーク

都民の健康づくりとスポーツへの興味・関心を喚起するため、東京の名所などを巡るウォーキングイベント（参集型・アプリウォーク）を開催する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団、一般社団法人日本ウォーキング協会の共催により実施

【令和6年度実績】

- ・日程 わくわくウォーク 令和6年9月28日(土)、
12月7日(土)
- アプリウォーク 令和6年9月13日(金)
～11月26日(火)

- ・参加者 4,337人

(ウ) TOKYO ROKUTAI FES 2025

ランニング経験や年齢等にかかわらず、幅広く参加し、楽しむことのできるランニングイベントを味の素スタジアムにおいて実施する。

- ・日程 令和7年10月4日(土)、5日(日)
- ・内容 2人以上でチームを作り周回コースを、バトンを繋いで走り続ける
TOKYO ROKUTAI RELAY (6時間耐久リレーマラソン) 等

※ 一般財団法人東京マラソン財団の主催により実施

【令和6年度実績】

- ・日程 令和6年9月28日(土)、29日(日)
- ・来場者数 6,682名

ウ スポーツ観戦招待事業

主催者と連携を図りながら大規模スポーツ大会等やプロスポーツチーム等が主催する試合に都民を招待することにより、スポーツを直接みる機会を創出する。

【令和6年度実績】

観戦招待事業 98件 (実施競技: サッカー、バスケットボール、バレーボール、
ハンドボール、ホッケー、ラグビーフットボール、
卓球、ダンススポーツ、テニス、カヌー、陸上競技、
チアリーディング)

エ TOKYOジュニアスポーツアンバサダー

国際大会に日本代表として出場するジュニア選手をアンバサダーに任命し、その活動を応援する。アンバサダーには自らの活動等について発信してもらい、アンバサダーの活躍する姿を同世代の子どもたちに届け、スポーツに対する気運醸成に繋げていく。

【令和6年度実績】

- ・アンバサダー任命 11名
(競技: ジャンプロープ、オリエンテーリング、武術太極拳、フライングディスク、
自転車 (BMXレーシング))

オ 東京2025世界陸上を契機としたスポーツ振興事業【再掲】

- (ア) —「走って・跳んで・投げて」陸上競技— 楽しくチャレンジ! スポーツドリル
世界陸上の見どころや陸上競技種目の解説のほか、あらゆるスポーツの基礎となる「走



参集型 (TOKYOの今と歴史を感じるコース)



アンバサダー第1号
鈴木選手

る・跳ぶ・投げる」の運動について、子供たちが楽しみながら上達するトレーニングメニューを紹介したスポーツドリルをHPで紹介するほか、都内の小学校4年生から6年生に配布する。

(イ) 国立競技場特別スタジアムツアー

「見て、学んで、走りだせ 世界陸上リアル教室」への参加が叶わなかった都内の小学校4年生から6年生までを対象に、世界陸上が行われる国立競技場での体験を通じて、体育やスポーツ、体を動かすことへの興味・関心を喚起することを目的として開催する。

- ・日 程 令和7年6月23日（月）～7月17日（木）（うち14日間）
- ・会 場 国立競技場

(ウ) バーチャルラン「ファミリー陸上★チャレンジDAYS！！」

子供を中心としたスポーツ振興を目的に、夏休み期間に親子などでスポーツをする機会を創出し、楽しく健康づくりをするイベントとして、ランニングアプリを活用したバーチャルランを開催する。

- ・日 程 令和7年8月2日（土）～8月24日（日）

(エ) 見て、学んで、走りだせ 世界陸上リアル教室

都内の小学校4年生から6年生までを対象に、東京2025世界陸上の開催期間中に実際の会場である国立競技場の雰囲気を体感し、一流の指導者から陸上競技の指導を受けることで、体育やスポーツへの関心を高めるとともに、走る、跳ぶ、投げるといった基本的な身体能力の向上を目的として開催する。

- ・日 程 令和7年9月16日（火）～9月19日（金）
- ・会 場 国立競技場

カ 都民等へのスポーツ情報の発信

(ア) スポーツTOKYOインフォメーション

東京のスポーツイベント、大会観戦・応援情報、スポーツ施設や行政情報など、多くの人々にスポーツへの関心を高めてもらうための情報を発信する都のスポーツ情報サイト「スポーツTOKYOインフォメーション」を運営する。

(イ) スポーツ東京案内

スポーツの裾野拡大、スポーツ実施率の向上に向けた取組として、スポーツに関する相談や、情報をワンストップで提供するスポーツ情報の案内サイトの運営等を実施している。

※ 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団への補助により実施

a 都内スポーツ情報案内サイト「S P O P I T A」

都民からの多様な問合せに応えるよう、民間を含めたスポーツ施設の紹介やイベント・教室の情報などを発信する案内サイトを運営する。

b 指導者派遣

区市町村等が実施するスポーツ教室・イベント等に対して、競技スポーツやスポー

ツ・レクリエーションの指導者等を派遣する。

(ウ) スポーツ気運継承事業

東京2020大会のレガシーとして、大会を契機に高まった都民のスポーツに対する気運をスポーツの実施につなげていくため、スポーツイベント等が集中する秋の約3か月間を「スポーツ月間」としてキャンペーンを実施する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団への補助により実施

キ e スポーツの活用に関する調査・検証【新規】

障害の有無や年齢等を問わずに楽しむことができるeスポーツについて、課題や効用等を調査するなど、東京都のスポーツ振興におけるeスポーツの活用の在り方を検証していく。

(2) 地域におけるスポーツの推進

ア 地域スポーツクラブの設立・育成支援等

地域の日常的なスポーツ活動の場として、都民の誰もが参加できる地域スポーツクラブの設立と、安定した活動を支援する。

(ア) 地域のスポーツ振興に向けた関係者会議【新規】

地域のスポーツ団体間の連携を支援し、地域のさらなるスポーツ振興や競技環境の確保を推進するため、関係団体の活性化・連携強化や地域スポーツに取り組む多様な担い手の確保等について検討を行う。

(イ) 登録クラブ活用促進事業

「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」の普及啓発・理解促進及び登録クラブの活用促進のため、区市町村に対し研修会等を実施する。

(ウ) 地域スポーツクラブ支援事業

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会への補助により実施

a 人材養成・研修事業

地域スポーツクラブの運営スタッフや指導者等、人材の育成と研修の機会を提供し、クラブの活動を支援する。

b 交流事業

地域スポーツクラブ間の情報交換や交流する機会の提供、地域特性に合わせた多様なスポーツ体験等を通して、クラブ活動を支援する。

c 相談事業

地域スポーツクラブの育成、安定したクラブ運営を支援するため、専門家等が電話・訪問等による相談を行う。

d 指導者派遣事業

地域スポーツクラブの設立や活動充実に向けた取組へ指導者の派遣を行い、クラブ設立と安定的な活動を支援する。

e 情報収集・提供事業



地域スポーツクラブの活動

地域スポーツクラブの設立及び活動を支援するための情報を提供し、地域スポーツクラブ情報のネットワーク化を図る。

f 地域スポーツクラブ都民参加事業等

スポーツ実施率の向上に寄与することを目的に、地域スポーツクラブが実施する広く都民が参加できる事業を支援する。

【令和6年度実績】

事業名等	参加者数等
人材養成・研修事業 (スポーツクラブマネジャー養成講習会等)	151人
交流事業 (地域スポーツクラブ交流会等)	446人
相談事業 (未設置地区の区市町村や活動中クラブへの訪問等相談)	1回
指導者派遣事業 (クラブ活動の充実等事業)	派遣指導者 11人 参加者 239人
情報収集・提供事業 (HP「地域スポーツクラブサポートネット」の運営)	—
地域スポーツクラブ都民参加事業	15,881人

g 総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用

令和4年度から全国で開始された「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」について、都においても運用している。

【令和6年度実績】登録クラブ数：43団体

h 指導者資格等取得支援事業【新規】

地域スポーツクラブに対し、指導者資格を取得する際の費用（受講料）を補助することで、指導者の確保や質の向上を図り、学校部活動の地域連携・地域移行をはじめとする地域のスポーツ環境の整備や活性化につなげる。

(エ) 学校部活動の地域連携・地域移行に向けた取組への協力

「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」を踏まえ、地域の実態に応じた地域連携等が推進されるようスポーツ部門として協力する。

イ 地域スポーツ団体との連携

(ア) シニアスポーツ振興事業

高齢者のスポーツ実施率向上を図り、もって高齢者の健康維持・増進に寄与することを目的に、公益財団法人東京都スポーツ協会、一般社団法人東京都レクリエーション協会を通じて、各地域で実施する高齢者を対象とした事業を支援する。

【対象事業】

地区体育・スポーツ協会、地域スポーツクラブ、一般社団法人東京都レクリエーション協会加盟団体が実施する、60歳以上の高齢者を主な参加対象とするスポーツ競

技会、講習会・講演会等

【令和6年度実績】

団体名	実施地域数等	参加者数
地区体育（スポーツ）協会	53地区	17,536人
地域スポーツクラブ	28クラブ	2,189人
東京都レクリエーション協会	15団体	1,260人

ウ 地域スポーツ活動の促進

(ア) 地域スポーツを支える人材の育成

a スポーツ推進委員※研修会

地域におけるスポーツ推進委員活動の充実及び資質の向上並びに広域的な連携・協調を図ることで都内の地域スポーツの振興に資することを目的とする。

※ スポーツ推進委員（旧：体育指導委員）：スポーツ基本法第32条に基づき区市町村が委嘱する非常勤職員。都内では約1,500人が地域スポーツの企画・運営、それに係る連絡調整等を行う。

・課題別研修会

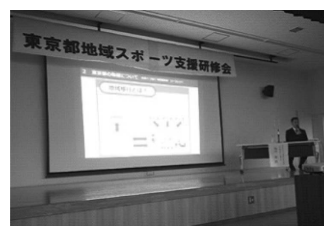
都におけるスポーツ推進委員の喫緊の課題についての研修

・広域地区別研修会

都内11ブロックにおけるスポーツ振興に関わる身近な課題や問題点等について共通認識を深める研修

・地域スポーツ支援研修会

地域におけるスポーツ推進委員のあり方や役割について広く見識を深める研修



東京都地域スポーツ支援研修会

【令和6年度実績】

研修名	実施回数・時期	参加者数
課題別研修会	年1回（11月）	69人
広域地区別研修会	年11回（7月～11月）	1,051人
地域スポーツ支援研修会	年3回（1月～2月）	336人

b 生涯スポーツ担当者研修会

生涯スポーツに関する行政及びスポーツ団体の関係者に対し、都のスポーツ振興における問題意識の共有化を図ることで関係者相互の連携を強化し、もって生涯スポーツ社会の実現に資することを目的とする。

【令和6年度実績】

	講義	日程	参加者数
第1回	「公共スポーツ施設と経済的な効果」 「スポーツ行政とスポーツ推進委員制度」	4月23日	99人

第2回	「東京都における学校部活動の地域連携・地域移行の現状と今後の課題について」 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する板橋区の取組について」	9月6日	89人
第3回	「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の概要及び制度がもたらす効果」	2月14日	37人

(イ) スポーツ功労者等の表彰

スポーツ・レクリエーションの普及・振興に関し、顕著な功労のあった者及び団体に対して表彰等を行うことにより、スポーツの振興を図る。

【令和6年度実績】

表彰名	個人	団体
東京都スポーツ功労賞	34名 (うち障害者スポーツ1名)	27団体 (うち障害者スポーツ2団体)
東京都功労者表彰 (スポーツ振興功労)	14名 (うち障害者スポーツ0名)	10団体 (うち障害者スポーツ1団体)
文部科学大臣表彰	8名 (うち障害者スポーツ1名、スポーツ推進委員功労2名)	6団体 (うち障害者スポーツ1団体)

エ スポーツ大会等への後援名義の使用承認

都内で開催されるスポーツ大会等の中で、公益性があり、都のスポーツ振興の推進に寄与する行事について、後援名義の使用を承認している。

【令和6年度実績】

後援名義 223件

※ パラスポーツに係るものは、80ページ3(4)シ「後援名義の使用承認」参照

オ 東京都スポーツ推進企業認定制度

従業員のスポーツ活動を推進する取組や、スポーツ分野における社会貢献活動を実施している企業等を「東京都スポーツ推進企業」として認定する。

認定された企業のうち、特に先進的な取組や波及効果のある取組をしている企業等を「東京都スポーツ推進モデル企業」として表彰する。さらに、累計5回「東京都スポーツ推進モデル企業」となった企業を「東京都スポーツ推進殿堂入り企業」として認定し表彰する。

また、認定企業に対して、企業間の情報交換を促進する目的で、交流サイトを運営するとともに、スポーツインストラクター等の派遣事業により、企業の取組を支援している。

【令和6年度実績】

- ・ 東京都スポーツ推進企業 583社
- ・ 東京都スポーツ推進モデル企業 10社
- ・ 東京都スポーツ推進殿堂入り企業 2社



令和6年度モデル企業表彰式

(令和元年度～1社、令和6年度～1社)

・スポーツ推進企業Enjoy Sports促進事業

(スポーツインストラクター等派遣カタログ) 59件

カ 区市町村におけるスポーツ振興施策への支援

急速な高齢化やデジタル化等、スポーツを取り巻く環境が変化する中、誰もがスポーツを「楽しみ」、スポーツを行う「人」が輝くスポーツ振興を実現するため、身近な場でスポーツができる環境の拡大やパラスポーツの普及など区市町村が実施するスポーツ振興事業に対して支援する。

事業区分		事業内容	補助率	補助限度額
【ソフト】 区市町村スポーツ推進補助事業【新規】	(1)地域スポーツ推進事業	・区市町村策定のスポーツ振興計画等によるスポーツ推進に資する取組	1/3	原則：300万円 【世陸・デフ加算分】 1事業実施:200万円 複数事業実施:200万円 最大：700万円 /区市町村
		・うち、東京都スポーツ推進総合計画の視点で都の施策と方向性が合致する取組 1 子供・働き盛り世代・女性・シニアをターゲットとしたスポーツ推進の取組 2 スポーツボランティアなどスポーツの担い手の活用・育成に係る取組 3 デジタル技術（eスポーツ、VR・AR、ユニバーサルコミュニケーション技術等）を活用した取組 4 東京2020大会等レガシーに係る取組 5 地元の企業や大学等の多様な主体と連携した取組 6 都主催のスポーツイベント等と連携したイベント等の実施（スポーツを通じた健康増進事業との連携、GRAND CYCLE TOKYOとの連携）	1/2	
		・うち、東京2025世界陸上又は東京2025デフリンピックの気運醸成に資する取組（条件を満たした場合、限度額200～400万円を引上げ）	2/3	
	(2)パラスポーツ推進事業	・体験会や講演会など、都民のパラスポーツへの関心度向上を目的とした取組 ・スポーツ教室や指導者の育成など、障害者のスポーツ実施率向上を目的とした取組	1/2	原則：250万円 【世陸・デフ加算分】 1事業実施200万円 複数事業実施200万円 【連携体制加算分】 200万円 最大：850万円 /区市町村
		・うち、東京2025世界陸上又は東京2025デフリンピックの気運醸成に資する取組（条件を満たした場合、限度額200～400万円を引上げ）	2/3	
		・障害者のスポーツ実施に向けて、スポーツ、医療、福祉等の関係者等による連携体制を構築して企画・検討された取組（補助率、限度額200万円を引上げ）	1/2 ～2/3 ※1	
		・スポーツ施設における障害者の利用促進に資する備品整備	1/2	
【ハード】 スポーツ空間バージョンアップ補助事業	(1)スポーツ環境の拡充	・新たなスポーツ活動の場の創出、学校施設の市民開放、デジタル技術の活用、暑さ対策、省エネ化	1/2 ※2	5,000万円 /施設
	(2)ユニバーサルデザイン化の推進	・パラスポーツの推進に係る工事 ・誰もがスポーツに親しめる環境を推進する工事（ユニバーサルデザイン化）		
	(3)国際大会開催等の推進	・全国大会等の開催を見据えた競技環境向上に向けた工事		
		・東京2025世界陸上又は東京2025デフリンピックの事前キャンプのための工事		
		・東京2025世界陸上又は東京2025デフリンピックの競技会場および練習会場のための工事	4/5 ※2	

※1 初年度の補助率は2/3、2年目以降は1/2

※2 国庫補助等と併用の場合は1/3

(3) 競技力向上

ア 競技スポーツの振興

(ア) 国民スポーツ大会への選手・役員派遣等（旧：国民体育大会）

※ 令和6年から名称変更

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて、地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするものである。

本大会の予選として、東京都予選会を開催するとともに、関東ブロック大会を各都県持ち回りで開催する。

なお、都の各競技の選手及び役員は、当該競技団体会長と公益財団法人東京都スポー



東京都選手団

ツ協会会長が都の代表として認めた者を選抜する。

【令和6年度の実績】

大会名		開催地	競技種目	日程
第78回国民スポーツ大会	東京都予選会	東京都 ほか	35競技	令和6年4月 ～7月
	関東ブロック大会	山梨県 ほか	30競技	令和6年6月 ～8月
	本大会	佐賀県 ほか	37競技 特別競技1競技 公開競技7競技	令和6年9月 ～10月
第79回国民スポーツ大会 (冬季大会)	東京都予選会	東京都 ほか	3競技	令和6年8月 ～令和7年1月
	関東ブロック大会	山梨県	1競技	令和6年12月
	本大会	岡山県 ほか	2競技	令和7年1月 ～2月
		秋田県	1競技	令和7年2月

【東京都の国民スポーツ大会（本大会）順位の推移（男女総合）】

	第75回 (令和2年度)	第76回 (令和3年度)	第77回 (令和4年度)	特別 (令和5年度)	第78回 (令和6年度)
開催地	鹿児島県 ※中止	三重県 ※中止	栃木県	鹿児島県	佐賀県
順位	—	—	1位	1位	1位

(イ) アスリートの競技力強化（競技力向上事業）

東京2020大会に向けて構築した競技力向上施策の体系を大会のレガシーとして活用し、ジュニア層から、日本代表候補レベルの選手まで幅広く強化を推進する。

また、国民スポーツ大会において都の選手が優秀な成績を収められるよう、国民スポーツ大会出場候補選手に対する強化を引き続き実施する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

a オリンピック等日本代表候補選手強化事業（戦略的競技力強化事業）

強化合宿への参加経費や海外で競技経験を積むための渡航費などに対する支援を行う。

b 指導者育成・スポーツ専門人材活用事業

スポーツ医・科学スタッフや指導実績のある指導者の招へい及び活用を促す。

c 国スポ候補選手強化事業

国民スポーツ大会の東京都代表候補選手に対する強化練習等の支援を行う。

d 国スポ選手健康調査チェック等事業

国民スポーツ大会出場候補選手の健康調査を実施する。

【令和6年度実績】

- ・オリンピック等日本代表候補選手強化事業（37競技・種目団体）
- ・指導者育成・スポーツ専門人材活用事業（49競技・種目団体）
- ・国スポ候補選手強化事業（41競技団体）
- ・国スポ選手健康調査チェック等事業（1,507名）

(ウ) スポーツ・インテグリティの理解促進事業

都内競技団体、指導者、選手等に対し、スポーツに関わる者としての責任を再確認することにより、事故防止に資するよう、スポーツ・インテグリティに関する理解の促進を図ることを目的として研修を実施する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

【令和6年度実績】

事業名	回数	参加人数
指導者向け研修	2回	計193名
競技団体向け研修	2回	計280名
選手向け研修	2回	計279名



競技団体向け研修

(エ) 東京育ちアスリート応援事業

国際大会に出場し活躍したアスリートや、今後活躍が期待されるアスリートなどを都が広報・応援し、地域での応援気運を醸成するとともに、アスリートが地域でのイベント等、様々な場面で活躍できる機会を創出する。



東京育ちアスリート応援動画

また、令和6年度は、パリオリンピック・パラリンピックに出場する東京育ちアスリート等の情報をわかりやすく発信するための特設サイトを開設した。

(オ) 競技団体等組織基盤強化支援事業

都内で活動する競技団体及び地区体育・スポーツ協会における運営力の向上を図るため、ガバナンスの強化や法人格の取得に向けた専門家相談等、団体の組織基盤強化に向けた活動を支援する。さらに、地区体育・スポーツ協会を対象に専門性が高い客観的な視点での会計調査を行うことにより、会計処理の適正化の徹底を図る。

(カ) 輝け！TOKYO未来アスリート応援事業【新規】

若手アスリートの高みを目指す機会を確保し、後押しするため、東京都スポーツ協会等の加盟団体の推薦に基づき、大会への参加費や用具の購入費等について支援する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

(キ) スポーツ関係団体への暑さ対策支援事業【新規】

審判員を含む全ての参加者が夏場でも安全かつ安心してスポーツが実施できるよう、公益財団法人東京都スポーツ協会加盟の競技・種目団体及び地区体育・スポーツ協会による暑さ対策物品の購入等を支援する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

イ ジュニア選手の育成や強化等

オリンピック等国际舞台で活躍できる東京育ちのアスリートを輩出するため、地域におけるジュニアスポーツの裾野を広げ、競技力水準の向上を図るとともに、才能あるジュニア選手の発掘・育成を行う。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

(ア) トップアスリート発掘・育成事業

優れた運動能力を有する中学2年生を募集・選考し、育成プログラムを経て、8つの競技（ローイング・ボクシング・レスリング・ウエイトリフティング・自転車・カヌー・アーチェリー・スケート）のうちから適性ある競技でトップアスリートとして活躍できるよう支援する。

(イ) ジュニア選手育成・強化事業

ジュニア選手に対する競技普及のための体験会や有望なジュニア選手に対する強化練習等の支援を行う。



識別プログラム（体力テスト）



育成プログラム（アーチェリー）

【令和6年度実績】

第15期生：令和5年度に識別プログラム（選考）に参加し、令和6年度の育成プログラムを修了した者 22名

第16期生：令和6年度に識別プログラム（選考）に参加し、令和7年度の育成プログラムに進むことを認定された者 22名

(ウ) ジュニア育成地域推進事業

都のジュニア選手の裾野を広げ、競技力の底上げを図るための地域におけるジュニアを対象とするスポーツの普及・振興を行う。また、令和7年度から未就学児を対象とする基礎的な運動教室の開催を支援する。

【令和6年度実績】

・ジュニア育成地域推進事業

教室 297事業、大会 165事業、強化練習 191事業、
指導者研修等 37事業、ネットワーク構築・活用事業 36事業

・暑さ対策補助事業

実施地区数 49地区

支援対象の例 テント、スポットクーラー、クーラーボックス、暑さ指数測定器

ウ アスリートの競技力強化をサポートするための事業（パフォーマンスサポート事業）

国際大会等で活躍する東京育ちのアスリートの育成を図るため、競技団体が推薦する都内在住又は在学の高校生選手を対象に、都内のスポーツ関係機関と連携し、競技種目特性に応じたスポーツ医学的・科学的な面からのサポートを実施する。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

【令和6年度実績】

- ・サポート認定選手（64名）
- ・メディカルチェック及びメンタルチェック（64名）
- ・コンディショニングサポート（45名）
- ・トレーニングサポート（（延）590名）
- ・パフォーマンスサポート（（延）23名）
- ・その他サポート（（延）358名）

エ トップアスリートの功績を称える表彰

(ア) 都民スポーツ大賞

世界的なスポーツ大会において優秀な成績を収めた東京のトップアスリートの功績を称える。

【令和6年度実績】

第20回冬季デフリンピック競技大会メダリスト 10名

パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会メダリスト 73名

(イ) 東京スポーツ奨励賞

世界のトップレベルでの活躍が今後期待されるユース選手など、世界的なスポーツ大会において優秀な成績を収めた東京アスリートの功績を称え、更なる活躍を奨励する。

【令和6年度実績】

なし

オ スポーツ国際交流事業

海外各都市からジュニアスポーツの選手やその指導者を招くなど、交流試合や指導者交流により、次世代育成に貢献するとともに、参加都市の競技力向上を図る。

※ 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団との共催により実施

(ア) ジュニアスポーツアジア交流大会

アジアにおけるジュニア世代の競技力向上と、次世代育成に貢献することを目的に、海外各都市からバドミントン、卓球のジュニア選手やその指導者を招き、交流試合や指

導者交流等を実施する。

また、パラアスリートを招へいし、障害者と健常者が一体となって交流できる国際大会を目指す。

【令和6年度実績】

- ・日 程 令和6年8月29日（木）～9月1日（日）
- ・参加都市 アジア11都市（東京都を含む。）
及び東日本大震災被災4県
（バンコク、北京、デリー、香港、
ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、
シンガポール、ウランバートル、ヤンゴン、
岩手県、宮城県、福島県、茨城県、東京都）
- ・競技種目 バドミントン、卓球
- ・会 場 バドミントン：駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場
卓球：東京武道館
- ・そ の 他 文化交流、指導者フォーラム、国際スポーツキャンプ
- ・結 果 バドミントン：優勝 福島 準優勝 ジャカルタ 3位 北京
卓球：優勝 北京 準優勝 東京 3位 香港



開会式

(イ) 東京国際ユース（U-14）サッカー大会

ジュニアユース世代の競技力向上と、国際交流促進を目的に、東京をはじめとする国内のサッカーチームと姉妹友好都市等の海外チームとの交流試合を実施する。

【令和6年度実績】

- ・日 程 令和6年5月3日（金）～6日（月）
- ・参加都市 北京、カイロ、ジャカルタ、サンパウロ、
岩手県、宮城県、福島県、茨城県、東京都
- ・会 場 J ヴィレッジ（福島県）
- ・そ の 他 選手交流会、地域交流
- ・結 果 優勝 サンパウロ（サンパウロFC）
準優勝 宮城県トレセン選抜
3位 東京都トレセン選抜



試合の様子

(ウ) 柔道指導者派遣

日本が世界に優れているスポーツ（柔道）の指導者を海外各都市に派遣することにより、ジュニア選手の技術向上及び指導者のスキルアップに寄与する。

【令和6年度実績】候補都市との調整の結果、事業中止

(4) スポーツを通じた被災地交流事業

東日本大震災等における被災地復興支援のため、スポーツを通じて被災者に夢や勇気を与え、子供たちの心のケアや地域復興の一助となる事業を展開してきた。これまで築いてきた都と被災地との絆をレガシーとして、より一層の交流を深めるため、以下の事業を実施する。

ア スポーツを通じた被災地交流事業

東日本大震災以降、スポーツを通じて築いてきた東京都と被災地との絆をレガシーとして、東北を会場に、岩手県、宮城県、福島県及び東京都が協力してスポーツを通じた被災地交流事業を実施し、交流を一層深める。

【令和6年度実績】

○宮城県

- ・ 日 程 令和6年6月15日（土）、16日（日）
- ・ 場 所 宮城県牡鹿郡女川町「WACK女川スタジアム」等
- ・ 参加者数 106名
- ・ 実施内容 サッカー交流試合、サッカークリニック、震災学習等

○福島県

- ・ 日 程 令和6年8月31日（土）、9月1日（日）
- ・ 場 所 福島県福島市「あづま球場」等
- ・ 参加者数 80名
- ・ 実施内容 軟式野球交流試合、野球教室、震災学習等

○岩手県

- ・ 日 程 令和6年9月14日（土）、15日（日）
- ・ 場 所 岩手県釜石市「釜石鶴住居復興スタジアム」等
- ・ 参加者数 69名
- ・ 実施内容 ラグビー交流試合、ラグビークリニック、震災学習等



サッカークリニック（宮城県）



軟式野球交流試合（福島県）



ラグビー交流試合（岩手県）

イ 被災地と東京の子供たちのスポーツを通じた交流事業

能登半島地震における被災地復興支援のため、スポーツの持つ力を活用し、被災地の方に夢や希望をもって、復興にむかっただけことを目的として、能登地方の子供たちを東京に招待し、交流を深める。

【令和6年度実績】

- ・ 日 程 令和6年8月2日（金）～5日（月）
- ・ 場 所 「八王子滝ガ原運動場」等
- ・ 参加者数 108名
- ・ 実施内容 軟式野球交流試合等



交流試合の様子

ウ 東京マラソン10.7km被災者招待事業

被災地の高校生を東京マラソン10.7kmレースに招待し、都心を駆け抜ける爽快感や、有

名選手を間近に感じることで、被災県の高校生に夢を与える。

※ 公益財団法人東京都スポーツ協会との共催により実施

【令和6年度実績】

- ・日 程 令和7年3月1日（土）、2日（日）
- ・参加者 54人

エ 東京国際ユース（U-14）サッカー大会における被災地交流事業

東京国際ユースサッカー大会のJヴィレッジ開催に合わせて、被災地交流事業を実施し、大会への誘客及び被災地の交流の促進等を図る。

【令和6年度実績】

- ・日 程 令和6年5月3日（金）～6日（月）
- ・場 所 福島県（Jヴィレッジ）
- ・実施内容 Jヴィレッジを巡りながら被災地について学ぶスタンプラリー（Jヴィレッジラリー）を実施



Jヴィレッジラリー

(5) 大会後のレガシーの継承

ア 大会レガシー継承事業

東京2020オリンピックの開会日にちなみ、JOC及びJPCの協力のもとイベントを開催し、大会レガシーの着実な継承・発展を図る。

日程：令和7年7月6日（日）

場所：駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館

参加者：一般参加者 4,781名

※ 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館リニューアルイベントと同時開催

内容：①オリンピック・パラリンピアンによるアスリートトークショー（東京2020大会のレガシー）

②スポーツ競技体験（ボルダリング、フェンシング、ゴールボール）

③東京2020公式マスコットグリーティング

イ 東京2020大会アーカイブ資産等の活用

メダル、聖火リレーのトーチ等の記念品や記録等のアーカイブ資産について、アーカイブ資産協定、アーカイブ資産等活用方針等によって適切に保存・管理、利活用し、大会の意義や感動と記憶を確かなレガシーとして、将来に引き継いでいく。

(ア) アーカイブ資産

アーカイブ資産は、大会の準備・運営等に伴って作成・利用された資産のうち、歴史的な価値を有し、大会の記憶・記録を伝えていくものである。

大会後には、その権利者であるIOC及びIPCの承認の下、長期的に保存・管理し、後世に受け継いでいくべき重要なレガシーとなる資産であり、アーカイブ組織であるJOCに承継された。

都は、アーカイブ資産を適切に管理することを目的に設置されたアーカイブ管理委員会の委員としての役割を果たすとともに、JOCから一部資産の寄託を受け、開催都市として、アーカイブ資産を適切に保存・管理・利活用していく。

アーカイブ資産は、8つのカテゴリーに分類され、主な資産は下記表のとおりである。

＜アーカイブ資産のカテゴリーと資産例＞

カテゴリー	資産例
聖火リレー	聖火リレートーチ、ランタン等
開閉会式・表彰式	メダル、表彰台、衣装、大道具、小道具等
ユニフォーム	ボランティアユニフォーム、技術役員ユニフォーム等
競技用備品	公式球、ゴールテープ、胴着一式等
ライセンス商品	衣類、ピンバッジセット、ぬいぐるみ等
イベント関連制作物	フラッグツアー関連制作物、マスコット等
装飾物、標識類	のぼり、フラッグ、ピクトグラム等
記録・報告書等	大会報告書、チラシ、ポスター、マニュアル、各種計画、映像等

(イ) これまでの取組

- 令和3年8月8日 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会アーカイブ資産協定締結
- 令和3年9月～ 都、東京2020組織委員会、JOC、JPCによるアーカイブ管理委員会を開催
- 令和3年10月～ 都庁第一本庁舎2階での資産の展示を開始
- 令和3年11月～ アーカイブ資産等の活用に係るアドバイザリー会議開催（全3回）
- 令和4年5月31日 東京2020大会アーカイブ資産等活用方針策定
- 令和4年7月19日 JOCと資産管理活用契約を締結し、アーカイブ資産の管理を開始
- 令和4年10月25日 都が管理することとなった一般公開可能な文書について、都立中央図書館で閲覧を開始
- 令和5年3月28日 都が管理する資産をWeb上で閲覧できる「東京2020大会デジタルアーカイブ」を開設
- 令和5年8月30日 SusHi Tech Squareにて「TOKYO FORWARD TOKYO2020レガシー展」を開始
- 令和7年3月23日 「TOKYO FORWARD TOKYO2020レガシー展」終了
- 令和7年5月～ 都庁北側展望室での資産の展示を開始
- 令和7年6月～ 都庁議会棟通路での資産の展示を開始

(ウ) 現物資産

都庁舎や都有施設、各種イベント等において、施設の来場者やイベントの特性に合わせた資産の展示を行う。

また、関係自治体等においても資産の展示ができるよう資産の貸出しを行う。

さらに、より多くの方にアーカイブ資産等に触れていただくため、都が管理する全アーカイブ現物資産等約1,000件をデジタルアーカイブにて一般公開している。

(エ) 文書資産

文書資産とは、アーカイブ資産のうち開催都市契約やアーカイブ協定等に基づき、国内関係者に承継された、大会の準備・運営に関する文書である。

このうち、広く国内で利活用することが可能な大会の歴史的・社会的意義を伝える文書については、都が承継し、都立中央図書館及びデジタルアーカイブにて一般公開している。

ウ ボランティアレガシー

東京2020大会を契機に高まったボランティア気運を一過性のものとせず、大会のレガシーとして大会後も着実に維持・継続を図るため、局内をはじめとする各種イベントのほか、競技団体と連携・調整し、各団体が実施する大会・イベントでのボランティア活動機会を提供する。

ボランティアの募集は、東京2020大会時に登録された大会関連ボランティア（シティキャスト・フィールドキャスト）約18,000人に案内のメールを送付するとともに、東京ボランティアレガシーネットワークに募集記事を掲載して行っている。

また、日本財団ボランティアセンターとも連携し、フィールドキャストへのメールマガジンを通じて周知するなど多様なチャネルを活用している。

さらに、ボランティア活動後にアンケートを取り、今後の活用の参考としている。



チャレスポ！TOKYO



ビーチバレーボールツアー

エ レガシー設置物

東京2020大会の感動と記憶を後世に永く伝えていくため、大会の開催を記念するものをレガシーとして設置・管理している。

(ア) 銘板

東京2020大会で使用した都立の競技会場等に、大会エンブレム等を活用した銘板を設置・管理している。

※ 都立施設では、東京体育館等19の競技会場、選手村（晴海ふ頭公園）、IBC/MPC（東京ビッグサイト）、練習会場（東京武道館）に設置している。

※ 区市町村では、自転車ロード、パラリンピックのマラソンコース上や、競技会場以

外の大会関連場所（聖火リレー、練習会場、事前キャンプ地等）に設置している。

(イ) 大規模展示物

オリンピック・パラリンピックシンボルは、大会期間中に7か所に設置した。大会後、象徴的な場所である臨海部と高尾山周辺の3か所に再設置している。

また、都が大会期間中に設置した13のマスコット像については、その全てを再設置している。



銘板（武蔵野の森総合スポーツプラザ）

<設置場所一覧>

	設置場所		管理者
シンボル	1	有明オリンピック・パラリンピックパーク（有明親水海浜公園）	都
	2	東京国際クルーズターミナル	都
	3	TAKAO599ミュージアム	八王子市
マスコット像	1	東京都庁舎（第一本庁舎）	都
	2	駒沢オリンピック公園総合運動場	都
	3	東京アクアティクスセンター	都
	4	有明アリーナ	都
	5	武蔵野の森総合スポーツプラザ	都
	6	東京体育館	都
	7	日本オリンピックミュージアム	JOC
	8	八王子市富士森公園	八王子市
	9	調布市総合体育館	調布市
	10	青梅市総合体育館	青梅市
	11	秋川体育館	あきる野市
	12	奥多摩文化会館	奥多摩町
	13	大島町図書館	大島町



オリンピックシンボル



パラリンピックシンボル



大会マスコット像

(ウ) 有明聖火台（競技期間用聖火台）

東京2020大会期間中、東京臨海部夢の大橋有明側に設置した競技期間用聖火台を、令和4年10月に、シンボルプロムナード公園（石と光の広場横）に再設置した。



有明聖火台（競技期間用聖火台）

(エ) 休戦ムラール・パラリンピックムラール

東京2020大会期間中、多摩産材を活用し選手村に設置したオリンピック休戦ムラール及びパラリンピックムラールを、平和や共生のメッセージと選手の活躍、多摩産材の魅力を発信できる大会のレガシーとして、都有施設等に設置している。

<設置場所一覧>

	設置場所		管理者
休戦 ムラール	1	有明GYM-EX（正式名称:有明展示場） （旧有明体操競技場）	都
	2	駒沢オリンピック公園総合運動場	都
	3	檜原都民の森（木材工芸センター）	都
	4	中央区立晴海図書館	中央区
	5	中央区立晴海西中学校（出張展示）	JOC
パラリン ピック ムラール	1	東京都パラスポーツトレーニングセンター （東京スタジアム内）	都
	2	東京都人権プラザ	都
	3	中央区立晴海西中学校（出張展示）	JOC

※ オリンピック休戦ムラールとは、選手等が平和への祈りを込めてサインすることができるモニュメント。パラリンピックムラールとは、選手等が障害者の権利推進と持続可能な共生社会実現への願いを込めてサインすることができるモニュメント。都知事やIOC・IPC会長、東京2020組織委員会会長等で署名式を行い、世界にメッセージを発信した。



休戦ムラール



パラリンピックムラール

(オ) 自転車ルートマーカー

東京2020オリンピックで自転車ロードレースのコースとなった道路等にルートマーカーを設置し、大会の記憶を次世代に継承するとともに、大会のレガシーに触れる機会を創出している。

※ 今後、コース上の曲がり角に案内看板を設置予定



ルートマーカー

オ 第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）への協力

第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）は、都内では、競泳／飛込（東京アクアティクスセンター）と馬術（JRA馬事公苑）の2競技の実施が予定されている。東京2020大会で得た知見やレガシーを活用し、公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会による都内会場での大会準備に協力していく。

(6) 東京 2020 大会後の調整

令和4年7月より清算法人に移行した東京2020組織委員会との連絡調整等を行っている。

3 パラスポーツの振興

「東京都スポーツ推進総合計画」（令和7年3月）及び「2050東京戦略」（令和7年3月）に基づき、「理解促進・普及啓発」「場の充実」「人材育成・活用」「競技力向上」の視点から、パラスポーツ振興に向けた施策の展開を図っている。

(1) 理解促進・普及啓発

ア パラスポーツ専門ポータルサイト「TOKYOパラスポーツ・ナビ」

障害のある人やパラスポーツを支える人を対象に、都内のパラスポーツイベント情報や、公共スポーツ施設のバリアフリー情報等を掲載したパラスポーツ専門ポータルサイト「TOKYOパラスポーツ・ナビ」を運営する。

【令和6年度実績】

- ・掲載情報件数
イベント・教室等 374件、施設 651件、地域スポーツクラブ等 93件
- ・ページビュー数 43,508件

イ チャレスポ！TOKYO

障害のある人にもない人にもパラスポーツを知ってもらい、理解と共感を深めてもらうとともに、障害のある人にスポーツの楽しさや効用を知ってもらい、スポーツを始めるきっかけを提供する。

【令和6年度実績】

- ・メインイベント
日時：令和7年2月11日（火・祝） 会場：東京体育館
実施内容：パラスポーツ体験コーナー、ゲストによるパラスポーツ対決企画、パラスポーツの競技用具等の展示、東京都障害者スポーツ協会専門スタッフによるパラスポーツに関する個別相談 等
- ・地域イベントへのブース出展（2回）



車いすバスケットボール体験の様子



ゲストによるパラスポーツ対決企画の様子

ウ パラスポーツ普及啓発プロジェクト「TEAM BEYOND」

パラスポーツのファン・サポーターを増やし、パラスポーツの認知度を向上させるとともに、パラスポーツが継続して社会に根付くようにするため、多様なメディアを活用し、パラスポーツへの関心を高めるための総合的な普及啓発事業を実施する。

具体的には、パラスポーツの応援プロジェクト「TEAM BEYOND」を展開し、大会情報の発信や、登録メンバーを始め幅広い層が参加できるパラスポーツに関連したイベント、企業・団体によるパラスポーツ支援の後押しなどを行う。

登録者数 約173万人（令和7年6月末現在）

【令和6年度実績】

- ・様々な媒体を活用した情報発信（LINE公式アカウント等SNSの活用、パラスポーツの魅力を伝える短編動画の配信 等）
- ・パラアスリートによるトークショーや障害の有無を問わず参加できるボッチャ大会などパラスポーツの魅力を体感できるイベント「BEYOND STADIUM 2024」の実施
- ・写真撮影ワークショップ、ランニングワークショップの実施（各1回）
- ・企業・団体向けカンファレンス、交流会の実施（2回）
- ・企業・団体によるパラスポーツ振興取組事例のHPにおける紹介
- ・観戦会の実施（5回）



BEYOND STADIUM 2024の様子



企業・団体向けカンファレンスの様子

エ 都内におけるパラスポーツ国際大会の開催促進

より多くの観戦機会を提供し、パラスポーツの一層の振興を図るため、都内で開催されるパラスポーツの国際大会の開催を促進する。

【令和6年度実績】

5大会

オ 障害者のスポーツに関する意識調査

「2050東京戦略」（令和7年3月）における政策目標（障害のある都民（18歳以上）のスポーツ実施率を2030年までに50%）の達成状況を把握するとともに、障害のある人のスポーツ活動に関する意識や実態を把握し、今後のパラスポーツ振興に資する施策展開の基礎資料として活用する。

【令和6年度実績】

無記名式のインターネット調査

調査期間 令和6年11月15日（金）～12月1日（日）

（調査結果の主なポイント）

- ・週に1日以上スポーツや運動を実施した人（障害のある都民）は46.6%
（前回（令和5年度）調査：46.3%）
- ・スポーツ、運動を実施した理由と実施した場所の回答結果から、身近な場所において、取り組みやすい運動を実施した人が多い。
場所：道路や遊歩道、自宅が上位を占める
実施したスポーツや運動：ウォーキング、散歩、体操

カ パラスポーツスタートガイド

パラリンピック競技をはじめ様々な競技スポーツの魅力や、競技スポーツを始める上で役立つ情報を提供するため、専用ウェブサイトを経営しパラスポーツに関する情報等を発信する。

【令和6年度実績】

ページビュー数：396,195件

キ TOKYOパラスポーツチャンネル

競技観戦できる機会を広く提供し、パラスポーツへの興味・関心を高めるため、都内やその近郊で実施されるパラスポーツ大会をケーブルテレビ等で中継・配信する。

令和7年度には、デフリンピック競技も含めて実施する。

【令和6年度実績】

5大会

ク パラスポーツメモリアルイベント【再掲】

東京2025デフリンピックの開催時期にあわせて、競技観戦や応援などの盛り上げにつなげるとともに、デフスポーツを含むパラスポーツへの関心・理解の一層の向上を図り、共生社会の実現につなげていく。

- ・日程 令和7年11月22日（土）～11月24日（月・祝）
- ・会場 駒沢オリンピック公園中央広場

ケ TOKYOパラスポーツ月間

東京2020パラリンピックを開催した8月・9月を「TOKYOパラスポーツ月間」と位置付け、多様な主体と連携し、パラスポーツ体験や観戦など様々な取組を集中的に展開することで、東京大会の感動と記憶を共有するとともに、パラスポーツムーブメントの更なる発展につなげる。



東京2020パラリンピックの開催を記念したイベント



パラスポーツ体験の様子

【令和6年度実績】

- ・東京2020パラリンピックの開催を記念したイベントの実施
- ・パラスポーツ観戦型イベントの実施
- ・商業施設等におけるパラスポーツ体験や用具展示の実施
- ・オフィスロビー等におけるパラスポーツ展示の実施

コ 区市町村スポーツ推進補助事業（パラスポーツ推進事業）

パラスポーツ推進事業においては、パラスポーツへの関心向上や障害のある人のスポーツ実施促進につなげるために区市町村が行う事業を支援することにより、障害のある人が身近な地域で継続的にスポーツを楽しめる環境の拡大・整備を図る。

（対象事業については55ページ2(2)カ「区市町村におけるスポーツ振興施策への支援」参照）

サ パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会

東京 2020 パラリンピックを契機としたパラリンピック・ムーブメントの継承・発展に併せて、ユニバーサルデザイン先進都市東京に向けた取組を推進することを目的として、パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会を実施している。

(2) 場の充実（開拓整備事業）

ア パラスポーツ地域サポート事業

パラスポーツ事業のノウハウを持つアドバイザーが、区市町村や地域スポーツクラブ等を訪問するなど、事業の企画・実施を支援するほか、事業実施に必要な指導者等のコーディネートや用具の貸与を通じて、身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりを図る。

また、都内自治体をブロック毎に分け、地域におけるスポーツと福祉・医療等他分野との連携事例の紹介や、区市町村間で取組状況や課題について意見交換を行う地域ブロック関係者連絡会議を実施している。

【令和6年度実績】

- ・環境整備支援事業 108件
- ・指導員等派遣事業 52名
- ・用具貸与事業 104件
- ・地域ブロック関係者連絡会議 第1回：45自治体、第2回：41自治体が参加

イ パラスポーツコンシェルジュ事業

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会において、パラスポーツを支援したいという民間企業等の意向を選手や競技団体につなぐための相談窓口を設けるとともに、障害のある人に対してスポーツに関する情報提供や助言を行い、パラスポーツの一層の推進を図る。

また、企業と競技団体間のネットワークの構築及びマッチングにつなげることを目的として交流会を開催する。

さらに、令和6年度からは、企業に対するアウトリーチ活動（講演・個別訪問）や定期

セミナー（オンライン・参集）を実施し、窓口への相談、交流会への参加へとつなげていく。

【令和6年度実績】

- ・問合せ及び相談件数 390件
- ・交流会 参加者：88名
（企業：25社 46名 競技団体：27団体 42名）

ウ マッチングプラットフォーム事業【新規】

企業のノウハウ等を活用して競技団体の課題解決につなげ、組織基盤の強化を図るとともに、パラスポーツへの企業の参画を促進し普及の担い手を増やすため、マッチングプラットフォームを構築して両者の活動を促進する。



マッチングプラットフォームイメージ図

エ 都立特別支援学校活用促進事業

障害のある人や障害者スポーツ団体等が、身近な地域でスポーツ活動ができるよう、都立特別支援学校の体育施設を、パラスポーツの拠点の一つと位置付け学校教育活動に支障のない範囲で平日夜間や土日・祝日に開放し、活用を促進する。

また、事業実施校にて、参加者ニーズに合わせた様々な体験教室を実施する。障害の有無に関わらず誰もが参加できるパラスポーツやスポーツ・レクリエーションの体験教室、パラアスリート等と交流できる「パラスポーツトークショー&競技体験会」、予約せずに参加でき、かつ、障害特性に応じて自分に合った種目を選択できる「パラスポーツ・レクリエーションひろば」（文化芸術との連携・DXの推進・国際大会の気運醸成を含む）のほか、障害種別特有の悩みやニーズを踏まえたプログラム等を実施する。

なお、平成28年度から令和2年度までは、「都立学校活用促進モデル事業」として実施した。

【都立特別支援学校活用促進事業実施校（令和7年度）】

城東特別支援学校(江東)	墨東特別支援学校(江東)	臨海青海特別支援学校 (江東)
品川特別支援学校(品川)	矢口特別支援学校(大田)	光明学園(世田谷)
永福学園(杉並)	大塚ろう学校(豊島)	王子特別支援学校(北)
北特別支援学校(北)	高島特別支援学校(板橋)	大泉特別支援学校(練馬)

練馬特別支援学校(練馬)	足立特別支援学校(足立)	花畑学園(足立)
葛飾ろう学校(葛飾)	水元小合学園(葛飾)	水元特別支援学校(葛飾)
鹿本学園(江戸川)	白鷺特別支援学校 (江戸川)	八王子西特別支援学校 (八王子)
八王子東特別支援学校 (八王子)	南大沢学園(八王子)	青峰学園(青梅)
府中けやきの森学園 (府中)	武蔵台学園(府中)	調布特別支援学校(調布)
小金井特別支援学校 (小金井)	小平特別支援学校(小平)	東久留米特別支援学校 (東久留米)
多摩桜の丘学園(多摩)	羽村特別支援学校(羽村)	あきる野学園(あきる野)

※令和7年4月1日時点。工事で年間非開放の「八王子盲学校」「村山特別支援学校」を除く。

【令和6年度実績】

体験教室開催回数：124回 ※ボランティア講習会等を含む。



聴覚障害者卓球@大塚ろう学校



ボッチャ（パラスポーツ・レクリエーションひろば）
@北特別支援学校

オ 障害者のスポーツ施設利用促進事業

身近な地域のスポーツ施設における障害のある人の利用に際して、施設管理者が配慮すべきポイントを掲載した「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」（令和4年度改訂）について、区市町村及び民間のスポーツ施設での活用を図る。

また、区市町村スポーツ施設に対して、パラスポーツの専門知識を有するアドバイザーを派遣し、施設のニーズや状況に合わせて、障害のある人のスポーツ施設の利用促進に向けた支援を実施する。



【令和6年度実績】

- ・区市町村スポーツ施設にアドバイザーを派遣し支援を実施：11施設39件
- ・スポーツ施設職員等を対象とした研修会を実施：2回

カ TOKYOユニバーサルウォーキング普及事業

障害者が使いやすい機能を付加したウォーキングアプリについて、身近な場所での活用を促すため、都内各地域でバリアフリーが整った当該コースでのウォーキングを促す企画を実施する。

【令和6年度実績】

- ・バリアフリーに配慮したウォーキングコースについて、これまでの10コースに加えて、新たに5コースを設定
- ・「みんなで歩こう」ウォーキングイベントの実施

コース	実施日	参加人数
文化・歴史を望める上野・湯島コース	令和7年1月11日（土）	29名
妖怪たちがお出迎えしてくれる調布コース	令和7年2月18日（土）	46名

キ パラスポーツリモート参加事業

遠隔操作によりコミュニケーションが可能な分身ロボットを活用し、外出困難な重度障害者等がパラスポーツの体験教室やボランティア参加など「する・みる・支える・応援する」の様々なスポーツ活動に参加できる機会を提供する。令和7年度は、世界陸上・デフリンピックに参画する機会を提供する。

【令和6年度実績】

- ・都主催スポーツイベント等での実施：6回・全12施設
- ・分身ロボットを通じた施設同士の交流会の実施：1回・6施設

ク デジタル技術を活用した障害者のスポーツ参加促進事業【新規】

- (ア) 身体を動かしづらい人、外出が困難な障害のある人等に対して、障害特性ごとに取り組みやすいよう機器やプログラムを工夫したeスポーツの活用により、自宅や通い慣れた施設等の身近な場所で、気軽にスポーツ・運動を楽しめる機会を創出する。
- (イ) 障害の有無や場所を問わず楽しめるeスポーツの特徴を生かし、地域のスポーツや福祉関係のイベント、大規模展示会等へ出展することにより、障害のある人となない人との交流、理解の促進を図る。

＜取組内容＞

- a 施設におけるeパラスポーツの実施
- b バーチャルスポーツトライアル機会の提供
- c 地域イベントにおける体験ブースの出展
- d 自治体職員を対象とした交流会の実施
- e 大規模展示会でのeスポーツ交流・対戦・観戦・展示等

【令和6年度実績】

○デジタル技術を活用したパラスポーツ（eパラスポーツ）事業

- ・福祉施設等へのeパラスポーツ機器の提供：10施設
- ・eパラスポーツを通じた交流会の実施：2回

○バーチャルスポーツを用いた障害者のスポーツ実施促進事業

- ・福祉施設等でのバーチャルスポーツの取組のモデル実施：8施設
- ・モデル実施において、障害種別ごとの取組事例を収集し、運動メニュー集のパンフレットや動画を作成

ケ 障害児・者の運動習慣定着支援事業

障害者の日中の居場所である福祉施設や放課後等デイサービスなどに指導者を派遣し、利用者の障害種別や程度等に応じた運動プログラムを定期的を実施することで、身体を動かすことの習慣化を図る。また、地域の中で日常的に運動を楽しむ機会を提供するため、地域のスポーツ施設等で運動プログラムを実施する。

実施に当たっては、地域のスポーツ関係者やスポーツ施設職員等とも連携を行うことで地域における障害のある人のスポーツ環境の充実を図る。

【令和6年度実績】

- ・運動プログラムの実施：132回（18施設）

コ スポーツ空間バージョンアップ補助事業

スポーツ施設のユニバーサルデザイン化が進むよう、区市町村が地域のニーズ等に応じて行うスポーツ空間のバージョンアップに係る取組を支援する。

（対象事業については55ページ2(2)カ「区市町村におけるスポーツ振興施策への支援」参照）

サ 区市町村スポーツ推進補助事業（パラスポーツ推進事業）【再掲】

パラスポーツ推進事業においては、パラスポーツの普及や障害のある人のスポーツ実施促進につなげるために区市町村が行う事業を支援することにより、パラスポーツへの関心度向上や障害のある人が身近な地域で継続的にスポーツを楽しめる環境の拡大・整備を図る。

（対象事業については55ページ2(2)カ「区市町村におけるスポーツ振興施策への支援」参照）

(3) 人材育成・活用

ア パラスポーツセミナー

区市町村職員やスポーツ推進委員、医療福祉関係者等を対象にセミナーを開催し、地域のパラスポーツ事業を支える人材の育成を図る。

【令和6年度実績】

対象者別	実施日	参加人数
区市町村職員等	令和6年6月19日（水）	62名
教職員等	令和6年8月1日（木）	32名
医療福祉関係者等	令和6年12月1日（日）	18名
スポーツ推進委員等	令和7年2月23日（日）	35名

イ 初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会

パラスポーツの現場で実際に指導・支援に当たる人材を養成し、地域におけるパラスポーツの取組を促進する。

※ 公益財団法人日本パラスポーツ協会による公認資格

【令和6年度実績】

	実施日数	参加人数
初級パラスポーツ指導員養成講習会	5日間	66名
中級パラスポーツ指導員養成講習会	9日間	20名

ウ パラスポーツ人材の活動活性化事業

障害者スポーツボランティアポータルサイト「TOKYO障スポ&サポート」を通じてボランティア人材にイベント等の情報を提供し、活動機会の拡充を図るとともに、ボランティアコーディネーターにより、ボランティア人材と活動場所とのマッチングを行う。

また、ボランティア活動に必要な知識やスキルなどが学べるe-learning講座等により、活動を促進する。

さらに、活動経験が少なく不安を抱えているパラスポーツ指導員等を対象にした「リ・スタート研修会」や地域のパラスポーツ事業に参加して、実際の指導経験を積んでもらう「地域事業参加型指導員育成事業」、パラスポーツを支える人材に活動に関する最新の情報提供を行う「パラスポーツフォーラム」を開催し、パラスポーツ人材の資質向上を図る。

【令和6年度実績】

イベント・研修	実施日（募集回数）	参加人数
リ・スタート研修会	2回	47名
地域事業参加型指導員育成事業	10回	33名
パラスポーツフォーラム	令和7年2月16日（日）	225名



リ・スタート研修の様子



パラスポーツフォーラムの様子

(4) 競技力向上

ア パラスポーツ次世代ホープ発掘事業

都内からパラスポーツの次代を担う選手を輩出することを目的に、競技体験等を通じて競技スポーツとのマッチングを行う発掘プログラムを開催するとともに、競技活動への継続・定着を促すため、発掘プログラムに参加した方を対象として、実技・座学を組み合わせたスポーツ理論講習会や自身の体力到達度を確認するための体力測定会をフォロープログラムとして実施する。

また、下肢に障害のある方を対象に、義肢装具士やパラアスリートなど専門家のサポートのもと、あらかじめ参加者の状況に合わせて準備したスポーツ用義足・車いすを用いて基本的な動作に慣れてもらう体験会を開催する。

令和7年度からは、スポーツ用車いすの貸出しを行い、車いすを用いた競技スポーツの開始・継続を支援する。

【令和6年度実績】

		実施日	会場	参加人数
体験会	第1回	令和6年9月15日（日）	東京都立武蔵台学園	8名 (車いす3名、義足5名)
	第2回	令和6年11月9日（土）	東京都立北特別支援学校	2名 (車いす1名・義足2名)
発掘プログラム	第1回	令和6年9月28日（土）	武蔵野総合体育館	75名
	第2回	令和6年11月30日（土）	BumB東京スポーツ文化館	52名

・フォロープログラム（全9回）

実施内容：スポーツ理論講習会 等

実技と座学によるスポーツ理論講習を実施



スポーツ用義足・車いす体験会の様子



発掘プログラムの様子

(パラバドミントン、デフ射撃の競技体験)

イ パラスポーツ競技活動支援事業

中央競技団体がJPCに加盟している競技及び全国障害者スポーツ大会基準要項に定める競技の都内統括団体が行う、選手の強化育成や指導者の養成等を目的とした各団体の自主的な取組を支援する。

【令和6年度実績】

中央競技団体がJPCに加盟している競技：18団体

全国障害者スポーツ大会基準要項に定める競技：12団体

ウ 東京パラアスリート強化事業

東京ゆかりのスター選手が継続的に輩出され、国際大会で活躍できるよう東京ゆかりのパラアスリートやジュニアパラアスリートを認定し、競技活動への支援を行う。併せて、パラアスリートを支えるガイドランナーやコーチなどの「パラスポーツスタッフ」の活動環境の整備等を行い、パラアスリートの一層の競技力向上を図る。

また、令和7年度には、デフリンピックに関する特設ページを開設し、大会に出場する東京にゆかりのある選手の情報（出場スケジュールや競技結果等）を発信する。

【令和6年度実績】

- ・「東京ゆかりパラアスリート」認定者数 131名
- ・「東京ゆかりジュニアパラアスリート」認定者数 14名
- ・「東京パラスポーツスタッフ」公認者数 82名

エ パラスポーツ団体体制強化支援事業

都内で活動するパラスポーツ競技団体の組織基盤強化および運営能力向上を図り、スポーツ庁が策定した「スポーツ団体ガバナンスコード」に適合する団体となるよう複合的な支援を行う。

【令和6年度実績】

- ・集合型研修会 5回
- ・事務サポート 5回
- ・専門家相談 28件
- ・外部連携（プロボノ）プロジェクト実施2団体

オ パラスポーツ人材地域活動促進事業

都が支援してきたパラスポーツ選手、スタッフ及び競技団体等が講習会等を通じて、これまで培ってきた技術や経験などを地域に還元できるよう、講習会を企画する団体等とアスリート等のマッチングを行う。これにより、パラスポーツの普及や競技スポーツを実施する人の裾野拡大を図る。



パラスポーツ人材地域活動促進事業 ホームページ

【令和6年度実績】

マッチング 43件

カ パラスポーツオープン競技大会の開催

都民のパラスポーツに対する理解を深め、障害のある人の社会参加を推進するとともに、競技団体の活動活性化や競技スポーツ実施者の裾野拡大のため、東京都障害者スポーツ大

会において、障害のない人も参加できる競技をオープン競技として実施する。

【令和6年度実績】

2 競技（ゴールボール、ろう空手）

キ 東京都障害者スポーツ大会

パラスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会への参加と相互の交流を促進させるとともに、都民の障害のある人に対する理解の増進を図り、もって障害のある人の自立の促進とスポーツ振興に寄与することを目的に実施する競技大会であり、全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねる。

本大会の開会式は、障害のある人もない人も、ともにスポーツに親しむ場として、東京都スポーツ大会と合同で開催する。

【令和6年度実績】

競技種目	個人競技	陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球（サウンドテーブルテニス含む。）、フライングディスク、ボウリング、ボッチャ、スポーツの集い（8 競技）
	団体競技	バスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、バレーボール、サッカー（5 競技） ※車いすバスケットボール及びフットソフトボールは悪天候により中止
会 場	駒沢オリンピック公園総合運動場ほか	
出場者数	4,542人	

ク 全国障害者スポーツ大会への選手・役員派遣

全国障害者スポーツ大会は、障害のある選手が、パラスポーツの全国的な祭典に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加推進に寄与することを目的として開催されている。都では、東京都障害者スポーツ大会・関東ブロック予選会等を経て選出された選手や役員で構成される選手団を、本大会へ派遣している。

【東京都の競技成績】

	開催地	個人競技（人）			団体競技 （チーム）
		1 位	2 位	3 位	
第20回 （令和 2 年度）	鹿児島県	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期 （鹿児島県での開催は2023年）			
第21回 （令和 3 年度）	三重県	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
第22回 （令和 4 年度）	栃木県	88	53	35	優勝 5
特別 （令和 5 年度）	鹿児島県	75	44	33	優勝 2
第23回 （令和 6 年度）	佐賀県	94	45	37	優勝 4

第24回 (令和7年度)	滋賀県	令和7年10月25日(土)から10月27日(月)まで
-----------------	-----	----------------------------

ケ デフスポーツ競技団体都内活動促進事業【再掲】

東京2025デフリンピックに向け、デフスポーツの競技力を向上させるとともに、都民のデフスポーツへの関心を高めることを目的として、JPCに加盟するデフスポーツ中央競技団体が都内で実施する強化合宿や普及啓発活動等に対し、財政的支援を実施する。

【令和6年度実績】

12団体36事業

コ デフリンピックチャレンジ事業【再掲】

東京2025デフリンピックに向けて、中央競技団体が存在しない等の理由により、これまで出場選手の発掘・育成が進んでいなかった競技について、関連する競技団体が都内で行う競技力向上事業や、デフリンピック出場を目指す都にゆかりのある選手の競技活動に係る経費に対して財政的な支援を行う。

なお、令和6年度には全国から有望な選手を発掘することを目的としたトライアウトを実施した。

【令和6年度実績】

財政的支援：5団体29事業、東京デフアスリート認定選手15名

トライアウト：ハンドボール、射撃、テコンドー、レスリングの4競技

サ パラスポーツ団体普及活動支援事業

障害者が身近な地域で気軽にスポーツを行える環境を整えるため、その受け皿となる地域のパラスポーツ競技団体・クラブの活動活性化に向けた支援を行う。

【令和6年度実績】

競技団体への助成：17団体

スポーツクラブへの助成：22団体

シ 後援名義の使用承認

都内で開催されるスポーツ大会等の中で、公益性があり、選手の競技力向上など、都のパラスポーツの推進に寄与する行事について、後援名義の使用を承認している。

【令和6年度実績】

33件

4 国際スポーツ大会の誘致・開催

都民のスポーツへの関心喚起や東京のプレゼンス向上に向けて、国際大会の誘致・開催を推進する。

(1) 各種スポーツ大会・スポーツイベント

ア 東京マラソン 2026

東京マラソンは、東京の魅力を国内外に発信するとともに、スポーツ振興や地域活性化の契機とすることを目的に、国内外からのランナーをはじめ、ボランティアや沿道の観衆など多くの人が参加し、「東京がひとつになる日。」として開催されている。

また、平成 24 年にはワールドマラソンメジャーズ（現アボット・ワールドマラソンメジャーズ）に加入し、名実ともに世界最高峰の大会に成長した。

※ 一般財団法人東京マラソン財団（以下「マラソン財団」という。）との共催により実施

(ア) 東京マラソン2026

- ・日 程 令和 8 年 3 月 1 日（日）
- ・定 員 マラソン：38,500人 10.7km：500人
- ・コ ー ス 東京都庁～水道橋～上野広小路～神田～日本橋～浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～田町～日比谷～東京駅前・行幸通り
(日本陸上競技連盟/公認コース、ワールドアスレティックス・A I M S / 認証コース)



東京マラソン 2026 コース図



©東京マラソン財団

東京マラソン 2025 スタート写真

(イ) 東京マラソンEXPO 2026・ランナー受付

- ・日 程 令和 8 年 2 月 26 日（木）～2 月 28 日（土）

【令和 6 年度実績】

<東京マラソン2025>

- ・日 程 令和 7 年 3 月 2 日（日）
- ・出 走 者 マラソン：37,450人、車いす：30人
10.7km：308人、10.7km車いす：3人
- ・完 走 者 マラソン：36,175人（完走率96.6%）、



車いす：29人（完走率96.7%）
10.7km：306人（完走率99.4%）
10.7km車いす：3人（完走率100%）

＜東京マラソンEXPO 2025・ランナー受付＞

・日 程 令和7年2月27日（木）～3月1日（土）

イ ランナー応援イベント（TOKYO CHEER）

東京マラソンを参加者と観衆が一体となってスポーツのすばらしさを共有できる機会と
するために地域の人々が参画した様々なイベントを展開する。

- ・コース沿道応援イベント（東京マラソンコース沿道における音楽演奏、ダンス、伝統芸能等のパフォーマンスによる応援）
- ・メイン会場イベント（スポーツ体験、観覧イベント等の実施）

【令和6年度実績】

＜コース沿道応援イベント＞

コース沿道の19会場にて、地元団体、都民等が参加しランナーを応援（102団体、
約2,400人）

＜メイン会場イベント＞

皇居外苑にて、パブリックビューイング、ステージイベント、スポーツ体験コーナー等
を実施（来場者数 約3,000人（マラソンランナーを除く））

ウ 東京レガシーハーフマラソン 2025

東京2020大会のレガシーを末永く残していけるよう、パラリンピックマラソンコースを
活用した「東京レガシーハーフマラソン」を、東京マラソン財団とともに2022年秋に創設
した。

本大会は、障害のある方を含め、一般ランナーからエリート選手まで多くのランナーが
参加しやすいハーフマラソン大会として開催されている。また、今大会から「女性ランナ
ー先行抽選」と「学生チームエントリー」の2つのエントリーを新設した。

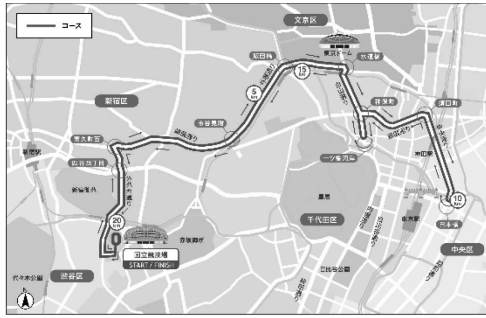
※ マラソン財団（主催）との共催により実施

(ア) 東京レガシーハーフマラソン2025

- ・日 程 令和7年10月19日（日）
- ・定 員 15,000人
- ・コ ー ス

国立競技場スタート～富久町～水道橋～神保町～神田～日本橋（第一折り返し）～神
田～神保町～一ツ橋河岸（第二折り返し）～神保町～水道橋～富久町～国立競技場フィ
ニッシュ

（日本陸上競技連盟/公認コース、ワールドアスレティックス/認証コース）



©東京マラソン財団

東京レガシーハーフマラソン 2025 コース図

東京レガシーハーフマラソン 2024 フィニッシュ写真

(イ) 東京レガシーハーフマラソンEXPO 2025・ランナー受付

- ・日 程 令和7年10月17日（金）、18日（土）

【令和6年度実績】

<東京レガシーハーフマラソン2024>

- ・日 程 令和6年10月20日（日）
- ・出走者 ハーフマラソン：14,769人 車いす：19人
- ・完走者 ハーフマラソン：14,511人（完走率98.3%）車いす：19人（完走率100.0%）

<東京レガシーハーフマラソンEXPO 2024・ランナー受付>

- ・日 程 令和6年10月18日（金）、19日（土）



(ウ) 東京レガシースタジアム 2025

- ・日 程 令和7年10月17日（金）、18日（土）、19日（日）
- ・内 容 レガシーハーフマラソンの開催趣旨に合わせて、スポーツ経験や年齢、性別、障害の有無に関係なく、誰もが楽しめるイベントを開催

【令和6年度実績】

- ・日 程 令和6年10月18日（金）、19日（土）、20日（日）
- ・参加者 1,272名



エ GRAND CYCLE TOKYO

環境にやさしく、健康にもよい自転車を更に身近なものとするため、「GRAND CYCLE TOKYO」という名前の下、様々な自転車に関するイベント等を進めている。

レインボーブリッジや東京ゲートブリッジ、海の森公園を自転車で走り抜けるライドイベント「レインボーライド」を、子供から大人まで様々なスポーツ体験が楽しめるイベント「マルチスポーツ」と同日に開催する。

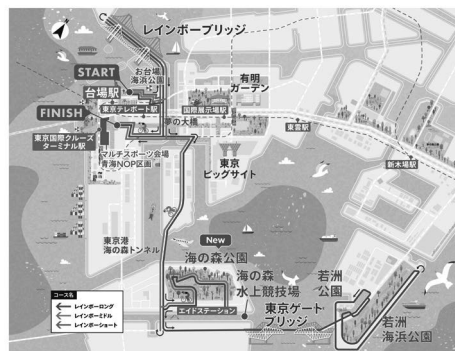
また、東京2020大会の自転車ロードレースが多摩地域において開催されたことから、そのレガシーを未来に繋ぐため、自転車ロードレース「THE ROAD RACE T



OKYO」を開催する。

(ア) レインボーライド 2025

- ・日 程 令和7年12月7日(日)
- ・コ ー ス ロング(約37km)、ミドル(約20km)、ショート(約8km)
- ・定 員 約6,000人



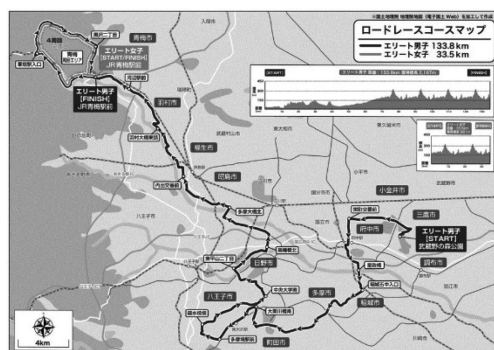
(イ) マルチスポーツ

- ・日 程 令和7年12月7日(日)
- ・会 場 青海フィニッシュ地点
- ・内 容 様々なスポーツ・VR体験、競技デモンストレーション等

ロング(約37km)コース

(ウ) THE ROAD RACE TOKYO TAMA 2025

- ・日 程 令和7年7月13日(日)
- ・コ ー ス 下図のとおり



- ・内 容 ロードレース エリート男子

・国際自転車競技連合(UCI)公認の国際自転車ロードレース(コンチネンタルサーキット class2)として開催

・参加選手 16チーム(海外7チーム・国内9チーム)/93名

ロードレース エリート女子

・参加選手 17名

パラサイクリング

・エキシビション走行、パラサイクリング体験等

コース体験ライド

・エリートが走行した直後に、UCI公認大会の一部コースを走行する一般参加イベント

・参加者 336名

当日イベント・パブリックビューイング、エリート表彰式、トークショー、コース沿道自治体・関係団体等による展示、キッチンカー等

【令和6年度実績】

<レインボーライド>

- ・日 程 令和6年12月1日(日)
- ・走 行 者 約6,000人(ロング・ミドル・ショートコース合計)

<マルチスポーツ>

- ・日 程 令和6年12月1日（日）
- ・来 場 者 約 22,000 人

(2) 国際スポーツ大会の誘致・開催支援

ア 国際スポーツ大会の誘致・開催支援

東京のスポーツ振興及び都市のプレゼンスの一層の向上を図るため、都内で国際スポーツ大会の開催を目指す競技団体等に対し、大会の誘致検討のための調査等、誘致活動及び開催を支援する。

【令和7年度支援事業の概要】

	誘致支援（令和2年度から開始）	開催支援（令和3年度から開始）
主な申請要件	①都内で開催 ②国際競技連盟が主催・公認し、公益財団法人日本オリンピック委員会・公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本パラスポーツ協会の加盟競技団体等、国内統括競技団体が主催・共催・主管 ③観客1万人以上又は参加国10か国以上 ④「する」「みる」「支える」「応援する」各々の活動の促進に繋がるよう、都と連携したスポーツ振興事業を実施し、参加者へのアンケート調査を実施 ⑤令和8年度末までに開催地が決定	①～④同左 ⑤令和7年度内の東京開催が決定している大会
支援内容	経費支援（上限400万円）※、応援レターの発出等	経費支援（誘致支援額を含め、上限3,000万円）※、東京都広報媒体による大会PR等
対象経費	誘致活動に係る経費（広報宣伝費、印刷製本費、翻訳費、渡航費・宿泊費等）	会場関係費（会場借上費、会場設営費及び機材費）、警備・安全対策費（感染症対策費を含む）、競技運営費、広報宣伝費、その他大会開催に不可欠な経費

※経費支援は対象経費の2分の1を支援

	調査等支援（令和5年度から開始）
支援内容	経費支援（上限300万円）、都立施設との連絡調整等
対象経費	国際大会の誘致を検討するために必要な調査等に係る経費（渡航費、宿泊費、通訳・コンサルタント・専門家等の人件費、委託費等）

【令和6年度実績】

(誘致支援)

競技	大会名	開催時期	会場
パラ卓球	ITTF World Para Future Tokyo 2025	令和7年9月9日～12日	ひがしんアリーナ (墨田区総合体育館)
カヌースプリント	2026 ICF CANOE SPRINT WORLD CUP TOKYO (仮称)	令和8年6月12日～15日	海の森水上競技場

(開催支援)

競技	大会名	開催時期	会場
カヌースプリント・パラカヌー	2024アジアACCカヌースプリント&パラカヌー選手権大会・パリ2024カヌースプリントアジア大陸予選	令和6年4月18日～21日	海の森水上競技場
ダンススポーツ	第23回東京オープン・ダンススポーツ選手権	令和6年5月18日、19日	東京体育館
陸上競技	セイコーゴールデングランプリ陸上2024東京	令和6年5月19日	国立競技場
トライアスロン	アジアトライアスロンカップ(2024/東京・海の森)/アジアトライアスロンパラカップ(2024/東京・海の森)	令和6年9月22日、23日	海の森水上競技場及び周辺道路
テニス	ITF World Tennis Masters Tour World Championships 2024	令和6年11月16日～30日	有明テニスの森公園テニス施設

(調査等支援)

特定非営利活動法人日本アンパティサッカー協会、一般社団法人日本テックボール協会、一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会、一般社団法人日本ブラインドラグビー協会、一般社団法人日本スポーツウエルネス吹矢協会

イ 国際大会の誘致に向けた海外発信

国際スポーツ大会の更なる誘致に向け、東京のスポーツ資源と都市の魅力を紹介するPRツールを制作、特設ウェブサイトやスポーツ関係者が集まる国際会議等で発信する。

【令和6年度実績】

(国際会議等での発信)

- ・スポーツアコードワールドビジネスサミット2024 (バーミンガム市)
 - ・パリ2024オリンピック競技大会 TEAM JAPAN HOUSE (パリ市)
 - ・パリ日本文化会館における「日本のパラスポーツの歩みと今」展への協力 (パリ市)
- ※パリ2024パラリンピック競技大会に合わせて開催

(3) 国際スポーツ大会のガバナンス確保に向けた取組

国際スポーツ大会のガバナンスや情報公開、都の関与の在り方などについて、東京2020大会の経験も踏まえ、将来の国際スポーツ大会に向けた改善を議論するため、令和4年12月に

有識者会議を設置した。

その後、意見交換を重ね、有識者からの助言を反映した「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）を同年12月に策定・公表した。

また、令和5年3月に公表された国の「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」等も踏まえ、一層のガバナンス強化を図るため、同年6月にガイドラインを改定した。

ガイドラインを踏まえ、同年11月及び令和6年11月には、東京2025世界陸上及び東京2025デフリンピックの大会運営組織におけるガバナンス確保に向けた取組状況や大会開催に向けた取組状況について、有識者会議において確認、意見交換を行った。

＜ガイドラインの概要＞（令和4年12月策定）

ア ガイドラインの目的

スポーツの力によって東京の未来を創っていく観点に立ち、国際スポーツ大会の運営組織に対する都の関与のあり方についての基本的な事項を整理した。

イ 大会運営組織への都の関与

都は、下記着眼点を踏まえた大会運営組織の取組の具体化に向け、助言・連携・サポートを実施する。

(ア) 大会運営組織 始動期（ガバナンス確立に向けた体制整備）

- ・役員等の適切な選任
- ・コンプライアンスの確保
- ・内部統制・外部チェック
- ・利益相反の管理
- ・情報公開
- ・その他大会の特性等を踏まえ必要と認められる取組

(イ) 大会運営組織 本格活動期（大会の成功・レガシー具体化に向けた取組）

- ・ガバナンスの実効性の確保と適切な見直し
- ・国際スポーツ大会を通じ東京の発展に寄与
- ・国際スポーツ大会への都民の参画

＜ガイドライン改定の概要＞（令和5年6月改定）

大会運営組織のガバナンスの確保に向けた体制整備について、上記イ(ア)で掲げた着眼点を精査し、大会運営組織の取組例として以下を追加した。

ア 役員等の適切な選任

- ・選任方針及び選任理由等に関する情報の公表
- ・役員等の行動規範・誓約書の公表

イ コンプライアンスの確保

- ・危機管理及び不祥事対応体制の構築（危機管理マニュアルの策定等）
- ・懲罰制度の構築

ウ 予算・契約・調達の内部統制、外部チェックの仕組み

- ・リスクアプローチの監査手法の導入
- ・マーケティング業務の委託等に関する方式の検討経緯や選択理由等の公表

エ 利益相反に伴う問題の防止

- ・ 専門人材の直接雇用等の対応
- ・ 民間企業からの出向者の権限の公表

オ 情報公開

- ・ 都の条例に準じた情報公開制度の導入

5 スポーツ施設の管理運営

(1) スポーツ施設の戦略的活用

都立スポーツ施設は、東京のスポーツインフラの中核を担う存在として、高水準な施設・設備を生かした国際・全国大会などの開催、競技力向上や都民の健康づくり、パラスポーツを楽しむ場の提供まで、利用者の多様なニーズに応えることで、都民のウェルビーイングの向上に寄与していく。また、施設の特性や立地を生かして、スポーツはもとよりエンターテインメントやユニークベニューなど幅広い活用を推進することで、施設の認知度向上・利用促進につなげ、利用者の満足度やサービスの向上を図っていく。

施設の認知度向上・利用促進に向けては、「発信力の強化」「ニーズ対応力の強化」「一体的な取組によるスポーツの振興」の3つの視点から、18施設のネットワークを生かした事業展開や発信力の強化、多様なコンテンツの提供などを行う。これら都立スポーツ施設を戦略的に活用する取組を、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団との共催による「都立スポーツ施設の連携促進事業」で施設横断的に展開している。

<主な取組>

・18施設の一体的なプロモーション

都立スポーツ施設の施設利用に関する総合的な相談窓口「T O K Y Oスポーツ施設コンシェルジュ」を公益財団法人東京都スポーツ文化事業団内に設置し、スポーツ・競技利用を始め、様々な利用ニーズに対しワンストップに対応している。令和7年度からは、「Ver 2.0」として、企業などへのアプローチによりコンシェルジュの発信力を強化し、ニーズを捉えて施設と利用者をマッチングする機能により、施設の利用を促進していく。

・施設を活用した多様なコンテンツの提供

「スポーツ中継の配信」で、都立スポーツ施設におけるスポーツの試合を配信することや、「人気コンテンツとのコラボ企画の展開」で、都立スポーツ施設を活用した謎解きイベントを実施することで、施設のPR・認知度向上を図っていく。

(2) 都のスポーツ施設

スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図り、都民の心身の健全な発達に寄与することを目的として施設を設置している。

ア 東京体育館

都民の生涯スポーツの普及・振興を図るため、個々の体力や年齢・技術・興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるように、全都的総合スポーツ施設としての特徴を生かした施設の貸出及び個人公開を行うとともに、各種スポーツ事業を実施している。

- ・開館年月日 昭和 31 年 8 月 15 日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 渋谷区千駄ヶ谷一丁目 17 番 1 号
- ・施設規模 敷地面積 45,816 m²



主要施設

施設名	施設の概要
メインアリーナ	面積 3,220 m ² 観覧席 9,308 席 (固定席 5,178 席 車椅子席等 130 席 仮設席 4,000 席)
サブアリーナ	面積 1,330 m ²
屋内プール	50mプール 8 レーン 観覧席 (固定席) 789 席 25mプール 6 レーン
陸上競技場	200mトラック 5 レーン 100m直走路 5 レーン
トレーニングルーム・スタジオ	トレーニングルーム面積 A412 m ² B191 m ² スタジオ面積 340 m ²
健康体力相談室	面積 130 m ² 診察室、カウンセリング室、運動負荷検査室、筋力測定室
スポーツ情報コーナー	スポーツ情報資料等の収集・展示

- ・管理運営 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループが指定管理者として管理運営
- ・令和 6 年度事業実績

〔施設稼働率〕

(単位:%)

	メインアリーナ	サブアリーナ
令和 6 年度	99.5	99.9

〔個人利用者数〕

(単位:人)

	陸上競技場	プール	トレーニング ルーム	月額固定 利用者	健康体力 相談室	合計
令和 6 年度	32,666		311,647	76,865	312	421,490

〔主要大会〕

名称	日程
2024 イオンカップ 世界新体操クラブ選手権	9/26～29
2024-25 大同生命 SV. LEAGUE MEN オープニングマッチ	10/11
パーク 24 presents グランドスラム東京 2024	12/7～8
SoftBank ウインターカップ 2024 第 77 回 全国高等学校バスケットボール選手権大会	12/23～29
ジャパネット杯 春の高校バレー 第 77 回 全日本バレーボール高等学校選手権大会	1/5～7, 11, 12
天皇杯・皇后杯 2025 年 全日本卓球選手権大会 (一般・ジュニアの部)	1/21～26
天皇杯 第 50 回記念 日本車いすバスケットボール選手権大会	1/31～2/2

イ 駒沢オリンピック公園総合運動場

公園の自然豊かな環境の中で、都民が多様なスポーツに親しめる環境を整備し、施設提供のほか、スポーツ・レクリエーションの普及や資料収集等、施設の特性を生かした事業を展開している。



- ・開館年月日 昭和 39 年 12 月 1 日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 世田谷区駒沢公園 1 番 1 号
- ・施設規模 公園全体面積 413, 573 m²
運動施設面積（専用駐車場を含む）157, 038 m²

主要施設

施設名	施設の概要
陸上競技場	面積 18,260 m ² 2種公認 観覧席 20,010 席(うち車椅子席 20 席)
体育館	面積 1,842 m ² 観覧席 3,426 席(うち仮設席 1,152 席、車椅子席 36 席)
屋内球技場	面積 1,833 m ² 観覧席 2,358 席(うち仮設席 800 席、車椅子席 26 席)
第一球技場	面積 8,051 m ² 観覧席 1,038 席(うち車椅子席 18 席)
第二球技場	面積 8,409 m ² (人工芝) 観覧席 1,618 席(うち車椅子席 3 席)
補助競技場	面積 10,530 m ² (人工芝)
硬式野球場	面積 12,754 m ² (人工芝) 観覧席 3,040 席(うち車椅子席 28 席)
軟式野球場	面積 12,565 m ² 2面
テニスコート	面積 6,305 m ² 砂入り人工芝 8 面
弓道場	近的射場(9人立 和弓 28m、アーチェリー 18m) 遠的射場(2人立 和弓 60m、アーチェリー 30m・50m)
屋外プール	休止中
トレーニング ルーム	陸上競技場東側下内 1,996 m ²

- ・管理運営 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループが指定管理者として管理運営
- ・令和 6 年度事業実績

〔施設稼働率〕 (単位:%)

	体育館	屋内球技場	第一球技場	第二球技場	補助競技場
令和 6 年度	改修中	94.5	81.2	98.9	98.2

〔個人利用者数〕 (単位:人)

	トレーニング ルーム	弓道場	合計
令和 6 年度	173,118	3,116	176,234

〔主要大会〕

名称	日程
第 87 回東京陸上競技選手権大会	4/13～14・27～28
文部科学大臣杯 UNIVAS CAP 令和 6 年度全日本学生レスリング選手権大会	8/23～26
2024 ジュニアアジア交流大会（バトミントン）	8/31～9/1
第 21 回日本デフ陸上競技選手権大会	11/30～12/1
りそなグループ B. LEAGUE2024-25	12/14～15
令和 6 年度第 103 回全国高校サッカー選手権大会	12/29・31・1/2

ウ 東京武道館

武道の普及振興を図る都の中心拠点として、大規模武道競技大会へ施設を提供するとともに、武道振興及び都民の健康増進のための各種事業、情報提供、指導者研修等を実施している。

- ・開館年月日 平成2年2月10日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 足立区綾瀬三丁目20番1号
- ・施設規模 敷地面積 14,824 m²



主要施設

施設名	施設の概要
大武道場	面積 1,972 m ² 観覧席 3,728 席(固定席 1,728 席 仮設席 2,000 席) 他に車椅子席 16 席
第一武道場	面積 520 m ² 240 畳
第二武道場	面積 473 m ²
弓道場	和弓(近的) 12 人立 和弓(遠的) 10 人立
トレーニングルーム	面積 449.7 m ²

- ・管理運営 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループが指定管理者として管理運営
- ・令和6年度事業実績

〔施設稼働率〕 (単位：%)

	大武道場
令和6年度	93.9

〔個人利用者数〕 (単位：人)

	トレーニング ルーム	弓道場	第一武道場	第二武道場	合計
令和6年度	63,125	2,619	1,224	1,451	68,419

〔主要大会〕

名称	日程
JOC ジュニアオリンピックカップ 令和6年度ジュニアクイーンズカップ	4/13～14
空手WE E K2024	8/8～12
第64回全日本空手道糸東会全国選手権大会	8/17～18
第60回和道流空手道連盟全国大会	8/24～25
空手道拳道会第27回全国ジュニア選手権大会	9/16
2024年度マルちゃん杯全日本少年柔道大会	9/22
2024日本空手道振興協会選手権大会	10/6
第59回全日本居合道大会	10/19
第18回VIVA JUDO杯小学生柔道大会	10/26～27
第72回全国青年大会	11/9～10
「'24 拳真祭」ワールド空手グランプリ 2024	12/1
第23回一般社団法人全日本空手道一友会全国大会	1/5
第8回 JDKF. 空手道競技大会	2/9
第15回全国選抜少年少女空手道交流大会	3/2

エ 有明テニスの森公園テニス施設

センターコート「有明コロシウム」のほか、ショーコート、インドアコート、屋外コートを備えた国内有数のテニス競技施設である。

昭和 58 年の開設以来、国際大会から一般利用まで、テニスの拠点施設として多くの方々に親しまれている。

- ・開館年月日 昭和 58 年 5 月 14 日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 江東区有明二丁目 2 番 22 号
- ・施設規模 運動施設面積 163,342 m²

※ 平成 23 年 4 月 東京都港湾局から移管



主要施設

施設名	施設の概要
テニスコート	ハードコート（照明有） 23 面 砂入り芝コート（照明無） 16 面
インドアコート	ハードコート 8 面
ショーコート	ハードコート 1 面 観客席 3,018 席 （うち固定席 2,910 席、車椅子席ほか 108 席）
有明コロシウム	ハードコート 1 面 観客席 10,008 席 （うち固定席 9,856 席、車椅子席ほか 152 席）

- ・管理運営 有明テニス・マネジメントチームが指定管理者として管理運営
- ・令和 6 年度事業実績

〔稼働日数〕 (単位：日)

	有明コロシウム	ショーコート
令和 6 年度	175	196

〔年間利用者数〕 (単位：人)

	テニスコート (47 面)
令和 6 年度	284,239

〔主要大会〕

名称	日程
東京有明国際女子オープン	5/28～6/2
木下グループジャパンオープンテニス 2024	9/23～10/1
テニス全日本選手権大会	10/2～10/13
東レ パン パシフィック オープンテニストーナメント 2024	10/19～10/27

オ 若洲海浜公園ヨット訓練所

若洲海浜公園ヨット訓練所は、基礎的なヨットの帆走技術を習得できる施設である。

ヨット教室では帆走訓練、ロープワーク、ヨットの艀装（組立等）、室内講義等を行っている。

- ・開館年月日 平成3年7月6日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 江東区若洲三丁目1番1号
- ・施設規模

全体面積	47,235 m ²
陸域面積	30,735 m ²
水域面積	16,500 m ²

※ 平成23年4月 東京都港湾局から移管

主要施設

施設名	施設の概要
マリーナ	ヨットヤード 浮桟橋 5基(延長180m) 監視塔 1基(高さ11.25m) 第一艇庫棟 第二艇庫棟

- ・管理運営 若洲シーサイドパークグループが指定管理者として管理運営
- ・令和6年度事業実績

〔年間利用者数〕 (単位:人)

	ヨット訓練所
令和6年度	1,390



〔主要大会等〕

名称	日程
東京港レガッタ	5/19
サマーズカップ	8/25
バレンタインカップ	2/25
マンスリーレガッタ	8回実施
障害者体験乗船会及び障害者ヨット教室	7回実施

カ 武蔵野の森総合スポーツプラザ（京王アリーナTOKYO）

味の素スタジアムと合わせて多摩の一大スポーツ拠点を形成し、競技大会や地域スポーツの拠点として多摩のスポーツ振興に貢献すること、大規模イベント等の会場として、地域のにぎわいに貢献することを目的として運営している。

- ・開館年月日 平成29年11月25日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 調布市西町290番11
- ・施設規模 敷地面積 33,473 m²

※ 令和7年5月よりネーミングライツを導入し、通称名「京王アリーナTOKYO」を使用

主要施設

施設名	施設の概要
メインアリーナ	競技面積約4,900 m ² 最大収容人数10,000人以上（うち車椅子席72席、仮設席含む）
サブアリーナ	競技面積約1,800 m ² 観覧席（固定席）340席



屋内プール	50m×20mプール 8コース 観覧席（固定席）185席
トレーニングルーム スタジオ	トレーニングルーム面積 347 m ² スタジオ面積 A107 m ² B127 m ²

- ・管理運営 東京スタジアムグループが指定管理者として管理運営
- ・令和6年度事業実績

〔施設稼働率〕 (単位：%)

	メインアリーナ	サブアリーナ
令和6年度	92.5	98.0

〔個人利用者数〕 (単位：人)

	プール・トレーニングルーム	月額固定利用者	合計
令和6年度	141,045	40,876	181,921

〔主要大会〕

名称	日程
Wリーグプレーオフ（セミファイナル、ファイナル）	4/6～8、4/13～14
Japan Cup マーチングバンド・バトントワリング全国大会	8/8～11
令和6年度 第78回 全日本総合バドミントン選手権大会	12/25～30
京王 Jr. ウィンターカップ 2024-25 2024年度 第5回 全国U15 バスケットボール選手権大会	1/4～8

キ 海の森水上競技場

東京港中央防波堤内側及び外側埋立地間の水路に整備された施設で、2,000mの競技コースを備えた水上競技場。

国際大会が開催できるローイングの競技場及び育成・強化の拠点として活用するほか、都民に様々な水上スポーツ、水上レジャーに親しむ機会を提供している。また、広大な陸上エリアや東京湾のダイナミックな景観を生かしたユニークベニューとしても活用している。

- ・竣工日 令和元年5月31日
- ・再開業日 令和4年4月29日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 江東区海の森三丁目6番44号
- ・施設規模 敷地面積 陸域 125,436 m²
水域 543,570 m²



主要施設

施設名	施設の概要
競技コース	2,000m ローイング8レーン、カヌー 9レーン
グランドスタンド棟	観客席 1,960席（うち車椅子席24席） 会議室、ラウンジ等 延べ面積：約2,999 m ²
艇庫棟	艇庫、会議室、宿泊室、トレーニングルーム、食堂、更衣室、ドーピングコントロール室等 延べ面積：約4,572 m ²
フィニッシュタワー棟	会議室等 延べ面積：約496 m ²
第二艇庫棟	艇庫、トレーニングルーム等 延べ面積：約1,323 m ²

- ・管理運営 海の森水上競技場マネジメント共同企業体が指定管理者として管理運営
- ・令和6年度事業実績

〔年間利用者数〕 (単位：人)

	施設合計
令和6年度	96,254

〔主要大会〕

名称	日程
2024ACC アジアカヌースプリント&パラカヌー選手権大会兼 パリ 2024 カヌースプリントアジア大陸予選	4/18～21
令和6年度東京都カヌースプリント選手権大会	5/26
第2回日本アクアスロン選手権 東京・海の森アクアスロン 2024	6/16
第102回全日本ローイング選手権大会	6/20～23
第35回東京都トライアスロン選手権大会 2024	7/14
第3回東京・海の森トライアスロン 2024	7/15
令和6年度 2024 日本カヌースプリントマスターズ選手権大会 令和6年度日本 SUP スプリント選手権大会	9/28～29
ドラゴンボート海の森オープン 2024	10/19～20
TOKYO2020 開催記念レガッタ 2024	10/27

ク 夢の島公園アーチェリー場

アーチェリーの主要な競技大会の会場としての利用のほか、夢の島公園と一体となった芝生広場として、各種イベント・レクリエーション等を楽しむ憩いの場として活用している。

- ・竣工日 平成31年2月28日
- ・再開業日 令和3年10月31日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 江東区夢の島二丁目1番4号
- ・施設規模 敷地面積 22,734.23 m²



主要施設

施設名	施設の概要
休憩舎	長さ約130m 観覧席なし
芝生広場	面積約18,000 m ²

- ・管理運営 アメニス夢の島グループが指定管理者として管理運営
- ・令和6年度事業実績

〔年間利用者数〕 (単位：人)

	芝生広場
令和6年度	17,643

〔主要大会〕

名称	日程
第 45 回関東高等学校アーチェリー大会予選	4/29
第 57 回全日本社会人ターゲットアーチェリー選手権大会	6/29～30
2024 年度 関東学生アーチェリー ターゲット個人選手権大会 本選	8/20～21
2024 年度東京都ターゲットアーチェリー選手権大会	8/25
第 62 回全日本学生アーチェリー個人選手権大会	9/21～23
第 66 回全日本ターゲットアーチェリー選手権大会	10/25～27
2025 年 ナショナルチーム選考会	11/8～10

ケ カヌー・スラロームセンター

都立葛西臨海公園に隣接する国内初の人工カヌースラロームコース。

カヌーの国際・国内大会の開催のほか、アスリートの強化育成拠点としての運営、その他、広く水上スポーツ体験やラフティングなどの水上レジャーへの参加の機会を提供している。

- ・ 竣工日 (競技コース) 令和元年 5 月 31 日
(管 理 棟) 令和元年 12 月 17 日
- ・ 再開業日 令和 4 年 7 月 23 日
- ・ 設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・ 所在地 江戸川区臨海町六丁目 1 番 1 号
- ・ 施設規模 敷地面積 約 57,715.71 m²



主要施設

施設名	施設の概要
競技施設	競技コース、ウォーミングアップコース、フィニッシュプール、ポンプ施設、ボートコンベア等
管理棟	延べ面積約 1,224 m ² 艇庫、会議室、トレーニングルーム、更衣室等
多目的棟	倉庫、多目的室 ※令和 5 年 1 月 13 日竣工

- ・ 管理運営 株式会社協栄が指定管理者として管理運営

- ・ 令和 6 年度事業実績

〔年間利用者数〕 (単位:人)

	施設合計
令和 6 年度	62,320

〔主要大会〕

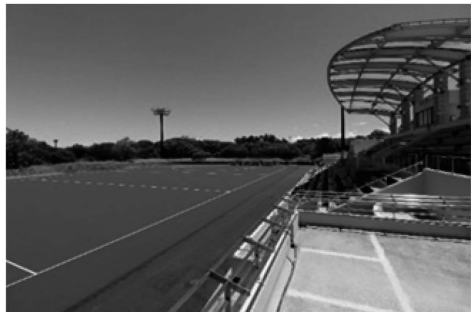
名称	日程
令和 6 年度カヌースラローム・カヤッククロス日本代表選手選考大会	4/26～28
第 47 回 NHK 杯全日本カヌースラローム競技大会 兼 令和 6 年度日本カヌースラローム選手権大会	10/18～20

コ 大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場

都立大井ふ頭中央海浜公園内に整備された、ホッケーをはじめ、様々なスポーツで利用できる多目的球技場。

数少ない公共のホッケー競技場として、ホッケーの競技力強化と普及・振興の場であるとともに、屋外スポーツ施設が集積した大井ふ頭中央海浜公園と一体となり、あらゆる都民がスポーツに親しめる機会を提供している。

- ・竣工日 令和元年6月27日
- ・再開業日 令和4年6月18日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 品川区八潮四丁目1番19号（メインピッチ）
及び大田区東海一丁目2番1号（サブピッチ）
- ・施設規模 敷地面積（メインピッチ（多目的コート一面分含む））約26,520㎡、（サブピッチ）約15,400㎡



主要施設

施設名	施設の概要
メインピッチ	建物延べ面積：5,927㎡ 観客席：約2,600席（うち車椅子席26席）
サブピッチ	建物延べ面積：1,959㎡ 観客席：約500席（うち車椅子席5席）

- ・管理運営 アメニス海上南部地区グループが指定管理者として管理運営

- ・令和6年度事業実績

〔年間利用者数〕（単位：人）

	施設合計
令和6年度	130,254

〔主要大会〕

名称	日程
2024年度関東学生ホッケー春季リーグ	4/6～6/16
東京シニア&レディースホッケー大会	4/28～3/30
高円宮杯ホッケー日本リーグ	5/18～12/22
第33回東日本クラブチームラクロスリーグ戦	6/8～10/27
令和6年能登半島地震被災地支援 さくらジャパン壮行試合 SOMPO JAPAN CUP	6/30
第35回関東学生ラクロスリーグ戦	7/20～11/17
2024年度関東学生ホッケー秋季リーグ	9/23～11/23
全日本学生ホッケー選手権大会	11/1～11/4
第5回 マスターズホッケー JAPAN CUP 2024	11/30～12/1

サ 東京アクアティクスセンター

都立辰巳の森海浜公園内に整備された世界最高水準の水泳場。日本水泳界の中心として、国内外の競技大会の実施や次世代アスリートの強化・育成の場を提供するとともに、子供から高齢者まで、誰もがスポーツや健康増進に取り組むことができる場を提供している。



- ・竣工日 令和2年2月28日
- ・再開業日 令和5年4月1日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 江東区辰巳二丁目2番1号
- ・施設規模 敷地面積 36,399 m²
延べ面積 50,692 m²

主要施設

施設名	施設の概要
メインプール	50m×25m 水深0～3m、10レーン・可動壁・可動床 観客席：4,934席（うち車椅子席52席）
ダイビングプール	25m×25m 水深5m
サブプール	50m×25m 水深0～3m、10レーン・可動壁・可動床

- ・管理運営 事業団・オーエンス・セントラルスポーツ・都水協グループが指定管理者として管理運営
- ・令和6年度事業実績

〔年間利用者数〕 (単位:人)

	施設合計
令和6年度	687,169

〔主要大会〕

名称	日程
日本マスターズ水泳短水路大会	4/13～4/14
第100回日本選手権水泳競技大会 アーティスティックスイミング	5/2～5/5
第25回東京都障害者スポーツ大会	5/18～19
第16回東京都選手権水泳競技大会	5/31～6/2
江東区民体育大会 水泳大会	8/18
第100回日本学生選手権水泳競技大会 競泳競技・飛込競技	9/5～8
東京都高等学校新人水泳競技大会 東京都高等学校選手権アーティスティックスイミング競技大会	9/21～22
ジャパンオープン2024(競泳競技)	11/28～12/1
第27回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	12/4
第100回日本選手権水泳競技大会(競泳競技)	3/20～23
第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会競泳競技	3/26～30

シ 東京都パラスポーツトレーニングセンター

東京2020パラリンピックのレガシーとして、都におけるパラスポーツの競技力向上の拠点、普及振興の場を提供している。

- ・開所日 令和5年3月21日
- ・設置根拠 東京都スポーツ施設条例
- ・所在地 調布市西町376番3
(味の素スタジアム内)
- ・施設規模 延床面積 6,195 m²



主要施設

施設名	施設の概要
体育室	面積：744 m ²
トレーニング室	面積：520 m ²
多目的室	面積：186 m ²
小多目的室	面積：107 m ²
小体育室1	面積：82 m ²
小体育室2	面積：123 m ²
多目的スタジオ	面積：127 m ²

- ・管理運営 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会グループが指定管理者として管理運営
- ・令和6年度事業実績

〔年間利用者数〕 (単位：人)

	施設合計
令和6年度	23,338

ス 障害者スポーツセンター

障害者の健康増進と社会参加の促進を図るため、スポーツ・レクリエーション、講習会等の場を提供する障害者専用のスポーツ施設である。

区部に東京都障害者総合スポーツセンター、多摩地域に東京都多摩障害者スポーツセンターがある。

東京都障害者総合スポーツセンター

- ・開館年月日 昭和61年5月10日
- ・設置根拠 東京都障害者スポーツセンター条例
- ・所在地 北区十条台一丁目2番2号
- ・施設規模 敷地面積 22,568 m²
※ 平成23年4月 東京都福祉保健局から移管



主要施設

施設名	施設の概要
体育館	面積 761 m ²
多目的室	面積 404 m ²
トレーニング室	面積 241 m ²
プール	25mプール 6コース
卓球室・サウンドテーブルテニス室	一般用卓球台5台 サウンドテーブルテニス用卓球台2台
洋弓場	70m
運動場	面積 7,082 m ²
庭球場	面積 1,826 m ² 硬式3面
宿泊室	和室1室 洋室6室

東京都多摩障害者スポーツセンター

- ・開館年月日 昭和 59 年 5 月 24 日
- ・設置根拠 東京都障害者スポーツセンター条例
- ・所在地 国立市富士見台二丁目 1 番地の 1
- ・施設規模 敷地面積 9,109 m²

※ 平成 23 年 4 月 東京都福祉保健局から移管



主要施設

施設名	施設の概要
体育館	面積 754 m ²
トレーニング室	面積 176 m ²
プール	25mプール 6 コース
卓球室・サウンドテーブルテニス室	一般用卓球台 3 台 サウンドテーブルテニス用卓球台 1 台
宿泊室	和室 1 室 洋室 6 室

- ・管理運営 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会が指定管理者として管理運営
- ・令和 6 年度事業実績

〔年間利用者数〕

東京都障害者総合スポーツセンター

(単位:人)

	施設合計
令和 6 年度	100,806

東京都多摩障害者スポーツセンター

(単位:人)

	施設合計
令和 6 年度	92,298

セ 味の素スタジアム

多摩地域のみならず全都的なスポーツの拠点として調布基地跡地に建設された。サッカー J リーグチームのホームグラウンドとして知られるほか、スポーツ以外にもコンサート、試乗会、フリーマーケットなど多彩なイベントを開催している。

- ・開業年月日 平成 13 年 3 月 10 日
- ・所在地 調布市西町 376 番地 3
- ・施設規模 敷地面積 177,422.71 m²
建築面積 44,400.00 m²



主要施設

施設名	施設の概要
スタジアム	多目的競技場 トラック 1 周 400m×9 レーン、全天候舗装 天然芝フィールド 107m×71m (約 7,600 m ²) 観覧席 48,013 席 (うち車椅子席 336 席)
アミノバイタルフィールド	人工芝フィールド 120m×75m (9,000 m ²) スタンド 収容人数 約 3,060 人
ポケットガーデン	レストラン 3 店舗 ショップ 1 店舗
フットサル施設	屋内 2 面 屋外 3 面
AGF フィールド	第 3 種陸上競技場 トラック 1 周 400m×8 レーン、全天候舗装 天然芝フィールド 106m×69m 客席数 822 席
みどりの広場	散策路を有する広場、既存樹木を保全

- ・管理運営 株式会社東京スタジアムが協定に基づき管理運営
- ・令和6年度事業実績

〔主要大会等〕

名称	日程
スタジアム	
Jリーグ(FC東京、東京ヴェルディ)	年間を通じて実施
第16回味の素スタジアム感謝デー	6/15
JAPAN RUGBY LEAGUE ONE (東京サン トリーサンゴリアス、東芝ブレイブルーパス東京)	12/21、12/29、1/4、1/5
アミノバイタルフィールド	
関東学生アメフト2024年度 春季オープン戦	4/28～6/30
関東大学アメフト2024年度 秋季リーグ戦	8/31～12/29

ソ 有明アリーナ

東京の新たなスポーツ・文化の拠点として、
15,000席の施設規模を生かしたスポーツイベントの
開催や、グローバルで最先端のライブエンターテイ
メント等を提供している。

- ・竣工日 令和元年12月9日
- ・開業日 令和4年8月20日
- ・所在地 江東区有明一丁目11番1号
- ・施設規模 敷地面積 約36,576㎡
延べ面積 約47,200㎡



主要施設

施設名	施設の概要
メインアリーナ	面積 約4,100㎡ 観客席 約15,000席（うち車椅子席150、仮設席含む。）
サブアリーナ	面積 約1,400㎡
その他	飲食・物販店舗、ジム・スタジオ、駐車場、駐輪場等

- ・管理運営 令和4年6月より、株式会社東京有明アリーナが公共施設等運営権に基づき運営（25年間）
- ・令和6年度事業実績

〔主要大会〕

名称	日程
RIZIN.46（総合格闘技）	4/29
バスケットボール女子日本代表国際強化試合	7/4、7/6
バスケットボール男子日本代表国際強化試合	7/5、7/7
NTTドコモ Presents Lemino BOXING ダブル世界タイトルマッチ（ボクシング）	9/3
バスケットボールB3リーグ	10/11～12、 1/25～26、2/17～18
Prime Video Boxing 10（ボクシング）	10/13～14
2024-25 大同生命 SV.LEAGUE MEN（バレーボール）	11/3～4
2024 SLS CHAMPIONSHIP TOUR -TOKYO-（スケートボード）	11/23
NTTドコモ presents Lemino BOXING 世界タイトルマッチ（ボクシング）	1/24
Prime Video Boxing 11（ボクシング）	2/24

タ 有明アーバンスポーツパーク (livedoor URBAN SPORTS PARK)

東京 2020 大会のレガシーを活用したアーバンスポーツ施設に加え、カフェやフードモールなどの店舗を有する複合型施設として、アーバンスポーツの盛り上がりを引き継ぎ、発展させるとともに、地域のにぎわいを創出している。



- ・竣工日
 - ・大会レガシーゾーン
令和 6 年 1 月 31 日
 - ・多目的ゾーン
令和 6 年 9 月 26 日
- ・開業日
令和 6 年 10 月 12 日
- ・所在地
江東区有明一丁目 13 番 7
- ・施設規模

敷地面積	31, 204. 48 m ²
(内訳)	
・大会レガシーゾーン	14, 465. 70 m ²
・広場	3, 607. 05 m ²
・多目的ゾーン	13, 131. 73 m ²

※ 令和 6 年 10 月の開業時よりネーミングライツを導入し、通称名「livedoor URBAN SPORTS PARK」を使用

主要施設

施設名	施設の概要
大会レガシーゾーン	・スケートボードパーク ・3x3 バスケットボールコート ・ボルダー棟
多目的ゾーン	・ランニングスタジアム ・ロープアスレチック ・飲食・物販店舗 等

- ・管理運営 Tokyo Sports Wellness Village 株式会社が独立採算型の PFI 事業として運営 (10 年間)

- ・令和 6 年度事業実績

[主要大会等]

名称	日程
BMX NEXT HERO (ジュニアオリンピックカップ/高校選手権) (BMX)	10/12
AJSA 2024 PRO TOUR “MBM CUP” support by 有限会社マサケン (スケートボード)	10/12～13
第 5 回パルクール日本選手権 スピード	10/12～14
パルクール ネクストジェン・スピード	10/12～14
JASPA 2024 PARK (ローラーフリースタイル)	10/13～14
3x3 JAPAN TOUR 2024 EXTREME (3x3 バスケットボール)	10/13～14
FLAKE CUP support by VANTAN (スケートボード)	10/14
3XS 2024-25 SEASON EGOZARU DIVISION ROUND6 (3x3 バスケットボール)	11/17

チ 東京辰巳アイスアリーナ

都立初の通年アイスリンク施設として、国際大会を含む競技大会や競技力向上の場として活用するとともに、都民が気軽に利用できる施設として、氷上スポーツの裾野を広げ、広く親しまれる施設を目指す。

- ・ 竣工日 令和 7 年 5 月 28 日
- ・ 開業日 令和 7 年 9 月 6 日
- ・ 所在地 江東区辰巳二丁目 8 番 10 号
- ・ 施設規模 敷地面積 22,772 m²
延床面積 22,319 m²



主要施設

施設名	施設の概要
メインリンク	60m×30m ※国際規格 (観客席) 固定席 (2 階・3 階) : 約 3,600 席 仮設席 (1 階) : 約 1,400 席
サブリンク	47m×17m
関係諸室	会議室、多目的室、控室等

- ・ 管理運営 セントラルスポーツ株式会社が指定管理者として管理運営

(3) スポーツ施設等の整備

都は、東京 2020 大会に向け、アスリートにとって最高の競技環境を提供するとともに、運営がしやすく、観客が快適に観戦できるよう都立スポーツ施設の整備を進めてきた。

一方、整備後数十年が経過した施設については、老朽化に対応した施設改修を主体に、アクセシビリティの確保・再生可能エネルギーの導入等の取組を進め、大規模スポーツ大会等の開催にふさわしい施設としてバージョンアップする。

今後、スポーツ施設等の新たな魅力を最大限発揮し、スポーツを中心に様々な目的で都民が集うことができる拠点にしていく。

ア アクセシビリティの確保

施設の整備・改修にあたっては、「東京 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえるとともに、障害者や専門家の意見等を聴取する「アクセシビリティ・ワークショップ」を開催し、会場整備に反映した。これらの取組により、例えば、車いすトイレに利用が集中しないよう、利用者それぞれに対応したトイレを個別に用意する機能分散の実現や、車いす席の水平・垂直分散配置や情報保障設備としてフラッシュライト（トイレ個室）、点滅型避難口誘導灯（避難口）、集団補聴設備の配置など、デフリンピック大会開催を契機にアクセシビリティの確保を図った。

イ 再生可能エネルギーの導入

施設の整備・改修にあたっては、「エネルギー基本計画」や「省エネ・再エネ東京仕様」等の全庁方針を踏まえ、再生可能エネルギーを積極的に導入した。

(ア) 太陽光発電設備

有明アリーナ、有明テニスの森公園テニス施設、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場、海の森水上競技場、東京アクアティクスセンター、武蔵野の森総合スポーツプラザ、有明アーバンスポーツパーク

(イ) 太陽熱利用設備

有明アリーナ、有明テニスの森公園テニス施設、東京アクアティクスセンター、武蔵野の森総合スポーツプラザ

(ウ) 地中熱利用設備

有明アリーナ、東京アクアティクスセンター、武蔵野の森総合スポーツプラザ

[参考]

1 スポーツ施設等の管理者等

<スポーツ施設>

施 設	指定管理者	指定期間
東京体育館	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ ○公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 ○株式会社ティップネス ○株式会社オーエンス	5 年 (R5～R9)
駒沢オリンピック公園総合運動場	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ ○公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 ○株式会社オーエンス ○一般社団法人東京都レクリエーション協会	5 年 (R5～R9)
東京武道館	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ ○公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 ○株式会社ティップネス ○株式会社東洋実業	5 年 (R5～R9)
有明テニスの森公園テニス施設	有明テニス・マネージメントチーム ○東京港埠頭株式会社 ○公益社団法人日本テニス事業協会	5 年 (R5～R9)
若洲海浜公園ヨット訓練所	若洲シーサイドパークグループ ○東京港埠頭株式会社 ○特定非営利活動法人マリンプレイス東京	5 年 (R5～R9)
武蔵野の森総合スポーツプラザ	東京スタジアムグループ ○株式会社東京スタジアム ○株式会社京王設備サービス ○株式会社シミズオクト ○東京ビジネスサービス株式会社 ○株式会社東京ドームスポーツ	5 年 (R5～R9)
海の森水上競技場	海の森水上競技場マネジメント共同企業体 ○一般財団法人公園財団 ○株式会社協栄 ○日建総業株式会社 ○野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社	5 年 (R5～R9)

夢の島公園アーチェリー場	アメニス夢の島グループ ○株式会社日比谷アメニス ○日建総業株式会社 ○アズビル株式会社 ○株式会社日比谷花壇 ○株式会社グリーバル ○株式会社エコルシステム	5 年 (R5～R9)
カヌー・スラロームセンター	株式会社協栄	5 年 (R5～R9)
大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場	アメニス海上南部地区グループ ○株式会社日比谷アメニス ○日建総業株式会社 ○太陽スポーツ施設株式会社 ○株式会社エコルシステム	3 年 (R5～R7)
東京アクアティクスセンター	事業団・オーエンス・セントラルスポーツ・都水協グループ ○公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 ○株式会社オーエンス ○セントラルスポーツ株式会社 ○公益財団法人東京都水泳協会	5 年 (R5～R9)
東京都パラスポーツトレーニングセンター	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会グループ ○公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 ○株式会社東京スタジアム	5 年 1 か月 (R5. 3～R9)
東京辰巳アイスアリーナ	セントラルスポーツ株式会社	4 年 10 か月 (R7. 6～R12)

＜障害者スポーツセンター＞

施 設	指定管理者	指定期間
東京都障害者総合スポーツセンター	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会	10 年 (H28～R7)
東京都多摩障害者スポーツセンター		

＜その他の施設＞（指定管理以外の施設）

味の素スタジアム	株式会社東京スタジアムに普通財産貸付、同社が協定に基づき管理運営
有明アリーナ	株式会社東京有明アリーナが公共施設等運営権に基づき運営（令和4年6月より）
有明アーバンスポーツパーク	Tokyo Sports Wellness Village 株式会社が PFI 法に基づく PFI 事業として運営（令和5年6月より）

2 オリンピック・パラリンピックパーク

(1) 概要

I O C及びI P Cと協議を行い、令和4年7月から、有明エリア及び武蔵野の森エリアにそれぞれ「有明オリンピック・パラリンピックパーク」「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク」という名称を付している。

(2) パークエリア

次のエリアをオリンピック・パラリンピックパークとしている。

●有明オリンピック・パラリンピックパーク	●武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク
東京 2020 大会競技会場 ・有明アリーナ ・有明体操競技場 ・有明アーバンスポーツパーク	東京 2020 大会競技会場 ・武蔵野の森総合スポーツプラザ ・東京スタジアム ・武蔵野の森公園
	

※有明体操競技場は、大会後に改修され、現在は有明展示場（有明 GYM・EX）

6 政策連携団体等との連携・協力

(1) 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

都民の生涯にわたるスポーツ等の普及振興を図り、もって都民の文化的生活の向上に寄与することを目的として設立された。

【組織概要】

- ・ 設立年月日 昭和 60 年 10 月 1 日
- ・ 所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷一丁目 29 番 9 号 日本パーティビル 3 階
- ・ 理事長 塩見 清仁
- ・ 役員・評議員 役員 9 名 評議員 12 名
- ・ 基本財産 5 億円（うち都の出捐金 5 億円）

【令和 6 年度の取組】

ア 指定管理者としての事業展開等

(ア) 概要

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団は、民間企業等とコンソーシアムを構築し、東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館及び東京アクアティクスセンターの指定管理業務を行った。

(イ) スポーツ振興事業と自主事業

- ・ スポーツ振興事業（東京のスポーツインフラの中核を担う存在としての強みを十分に発揮し、スポーツを通じた様々な価値を提供する事業）

東京体育館	27 事業
駒沢オリンピック公園総合運動場	14 事業
東京武道館	34 事業
東京アクアティクスセンター	21 事業

- ・ 自主事業（スポーツ施設を有効活用し、民間の活力やノウハウを生かして企画・立案及び実施する事業）

東京体育館	10 事業
駒沢オリンピック公園総合運動場	6 事業
東京武道館	4 事業

- ・ 周辺連携事業（地域の魅力向上や活性化に寄与していくための取組）

東京体育館	16 事業
駒沢オリンピック公園総合運動場	7 事業
東京武道館	9 事業
東京アクアティクスセンター	16 事業

イ 公益財団法人としての事業展開

(ア) 概要

令和 6 年度は、都のスポーツ施策推進事業、スマイル自主事業及び東京 2025 デフリンピックの準備・運営事業を展開した。

(イ) 都のスポーツ施策推進事業

- ・ 都立スポーツ全 18 施設の魅力を広く知ってもらうため「TOKYO-都立スポーツ施設-PR 動画」を新たに制作、YouTube などの SNS で公開するなど、「都立スポーツ施設連携促進事業」を実施

- ・スポーツ国際交流事業である「2024 東京国際ユース（U-14）サッカー大会」及び「2024 ジュニアスポーツアジア交流大会」など3事業を実施
- ・スポーツムーブメント醸成事業として、「スポーツフェスタ」、「TOKYO ウォーク 2024」や「スポーツ東京案内」などを実施
- ・特別支援学校をパラスポーツの拠点の一つとして活用する「都立特別支援学校活用促進事業」を実施

(ウ) スマイル自主事業

- ・「島しょ地区スポーツ・文化普及事業」など6事業を実施
- ・事業団のマスコットキャラクター「SUSIE（スージー）」を活用したPR活動等の広報活動を実施

(エ) 東京 2025 デフリンピックの準備・運営事業

- ・全日本ろうあ連盟や東京都と連携し、大会開催に向けた準備業務を実施
- ・国際スポーツ大会の運営組織として構築したガバナンス体制のもと、各種取組を確実に実施
- ・施設利用調整や輸送、競技会場等のオペレーション、管理・広報等の各種準備・調整を実施
- ・メダルデザイン案を作成し、小中高生の投票により決定
- ・多くの個人や企業等の支援を得るため、寄附・協賛のPR活動を実施

(2) 一般財団法人東京マラソン財団

東京マラソンを安定的に運営し、国内外から多くのランナーが集う世界最高水準の大会へと発展させるとともに、ランニングスポーツの普及振興を通じて、都民の健康増進と豊かな都民生活の形成に寄与することを目的として設立された。

【組織概要】

- ・設立年月日 平成 22 年 6 月 30 日
- ・所在地 東京都新宿区西新宿三丁目 6 番 11 号 西新宿 KS ビル 8 階
- ・理事長 早野 忠昭
- ・役員・評議員 役員 29 名 評議員 8 名
- ・基本財産 3 億 9,000 万円（うち都の出捐金 3.55 億円）

【令和 6 年度の取組】

- ・東京マラソン 2025
- ・東京レガシーハーフマラソン 2024
- ・東京レガシースタジアム 2024
- ・TOKYO ROKUTAI FES 2024

(3) 株式会社東京スタジアム

調布基地跡地に多摩地域のスポーツ振興の拠点となることを目指し、民間の資金、経営のノウハウを活用した競技場の建設及び施設の管理運営を行うことを目的として設立された。

【組織概要】

- ・設立年月日 平成 6 年 8 月 11 日
- ・所在地 東京都調布市西町 376 番地 3 号

- ・代表取締役社長 片寄 光彦
- ・取締役・監査役 取締役 12 名 監査役 3 名
- ・資本金 96 億 5,250 万円（うち都の出資金 35 億円）

【令和 6 年度の取組】

ア 株式会社としての事業展開

味の素スタジアム等の管理運営

イ 指定管理者としての事業展開

(ア) 概要

株式会社東京スタジアムは、平成 29 年 11 月 1 日から京王アリーナ T O K Y O の指定管理業務を行っている。

また、令和 5 年 3 月 1 日から公益社団法人東京都障害者スポーツ協会グループとして東京都パラスポーツトレーニングセンターの指定管理業務を行っている。

(イ) 主な事業

スポーツ振興事業、地域貢献事業等（京王アリーナ T O K Y O）

(4) 公益財団法人東京都スポーツ協会

都におけるスポーツの統一組織として、スポーツを振興し、都民の体力向上及び健康増進を図り、豊かな人間性を育み、競技スポーツを発展させることを目的として設立された。

なお、競技スポーツだけでなく、健康づくりや気分転換として行われるものを含むとして、「スポーツ」の概念を広く捉える観点から、令和 6 年度から団体名称を「公益財団法人東京都体育協会」から変更した。

【組織概要】

- ・設立年月日 昭和 18 年 11 月 25 日
- ・所在地 東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号 Japan Sport Olympic Square 10 階
- ・会長 山本 博
- ・代表理事 塩見 清仁
- ・役員・評議員 役員 29 名 評議員 18 名
- ・基本財産 8,000 万円

【令和 6 年度の取組】

- ・競技力向上事業（国スポ候補選手強化事業、ジュニア選手育成・強化事業、国スポ選手健康調査チェック等事業、オリンピック等日本代表候補選手強化事業、指導者育成・スポーツ専門人材活用事業、トップアスリート発掘・育成事業、ジュニア育成地域推進事業、スポーツ・インテグリティの理解促進事業、競技団体等組織基盤強化支援事業、パフォーマンスサポート事業、暑さ対策補助事業）
- ・国スポ推進事業（第 78 回・第 79 回国民スポーツ大会 東京都選手団の派遣）
- ・生涯スポーツの振興と普及に関する事業（都民体育大会（東京都スポーツ大会）の開催、都民体育大会・東京都障害者スポーツ大会合同開会式、スポーツフェスティバル東京の開催、シニアスポーツの振興）
- ・スポーツを通じた被災地支援事業（東京マラソン「10.7km レース」招待事業）
- ・スポーツを通じた被災地交流事業（被災地と東京の子供たちのスポーツを通じた交流事業）

- ・総合型地域スポーツクラブの育成支援（登録・認証制度の運用、都民参加事業、シニアスポーツ振興事業、中間支援組織事業、学校部活動の地域連携・地域移行調整事業）

※ 令和7年度から、輝け！TOKYO未来アスリート応援事業及び総合型地域スポーツクラブ等に対する指導者資格等取得支援事業を実施

(5) 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

都に在住する障害のある人の心身の健康の保持増進と自立、社会参加の促進を図るため、スポーツの奨励振興に関する諸事業を行い、もって障害のある人の福祉の向上に寄与することを目的として設立された。

【組織概要】

- ・設立年月日 平成2年5月1日
- ・所在地 東京都新宿区神楽河岸1番1号 セントラルプラザ12階
- ・会長（代表理事） 延興 桂
- ・役員 役員24名

【令和6年度の取組】

ア 指定管理者としての事業展開

(ア) 概要

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会は、平成18年4月1日から東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンターの指定管理業務を行っている。

また、令和5年3月1日から公益社団法人東京都障害者スポーツ協会グループとして東京都パラスポーツトレーニングセンターの指定管理業務を行っている。

(イ) 主な事業

- ・健康スポーツ相談、スポーツ教室、スポーツ大会、地域交流事業、講習会、地域振興事業（東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンター）
- ・スポーツ振興事業等（東京都パラスポーツトレーニングセンター）

イ 公益社団法人としての事業展開

(ア) 都補助事業

パラスポーツ地域サポート事業等4事業を実施

(イ) 都との共催事業

パラスポーツイベント「チャレスポ！TOKYO」、パラスポーツ次世代ホープ発掘事業等21事業を実施

(ウ) その他

パラスポーツ理解促進・普及啓発支援事業、各種スポーツ教室の開催協力、スポーツ大会の開催協力等

(6) 公益財団法人東京2025世界陸上財団

東京2025世界陸上の準備及び運営に関する事業を行い、もって大会を成功させること、また、それらを通じ、都民及び国民のスポーツの普及、振興を図り、健康増進と豊かな生活

の形成に寄与するとともに、開催地である東京及び日本のプレゼンス向上に資することを目的として設立された。

【組織概要】

- ・ 設立年月日 令和5年7月4日
- ・ 所在地 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square
- ・ 会長（代表理事） 尾縣 貢
- ・ 役員・評議員 役員10名 評議員3名
- ・ 基本財産 300万円

参 考 資 料

所管施設の地図

東京体育館

住 所：渋谷区千駄ヶ谷一丁目 17 番 1 号

電 話：03-6380-4832

<https://www.tef.or.jp/tmg/>

交通案内：

○都営地下鉄大江戸線「国立競技場駅」A4 出口

○JR 中央線（各駅停車）・総武線「千駄ヶ谷駅」

下車 徒歩 1 分

開館時間：

午前 9 時～午後 9 時

トレーニングルーム・屋内プール・陸上競技場

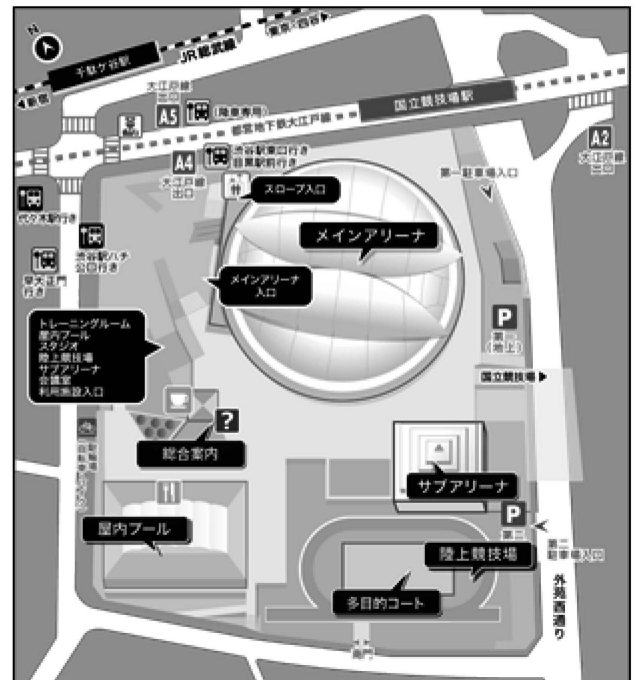
平 日 午前 9 時～午後 11 時

土曜日 午前 9 時～午後 10 時

日・祝 午前 9 時～午後 9 時

休館日：

第三月曜日（不定期）・年末年始



駒沢オリンピック公園総合運動場

住 所：世田谷区駒沢公園 1 番 1 号

電 話：03-3421-6199

<https://www.tef.or.jp/kopgp/>

交通案内：

○東急田園都市線「駒沢大学駅」下車 徒歩15分

○JR渋谷駅西口より東急バス（渋11系統田園調布駅行き）で約30分

「駒沢公園東口」又は「東京医療センター前」

下車 徒歩 1 分

○JR「恵比寿駅」西口より東急バス（恵32系統用賀行き）で約25分

「東京医療センター前」又は「駒沢公園」下車

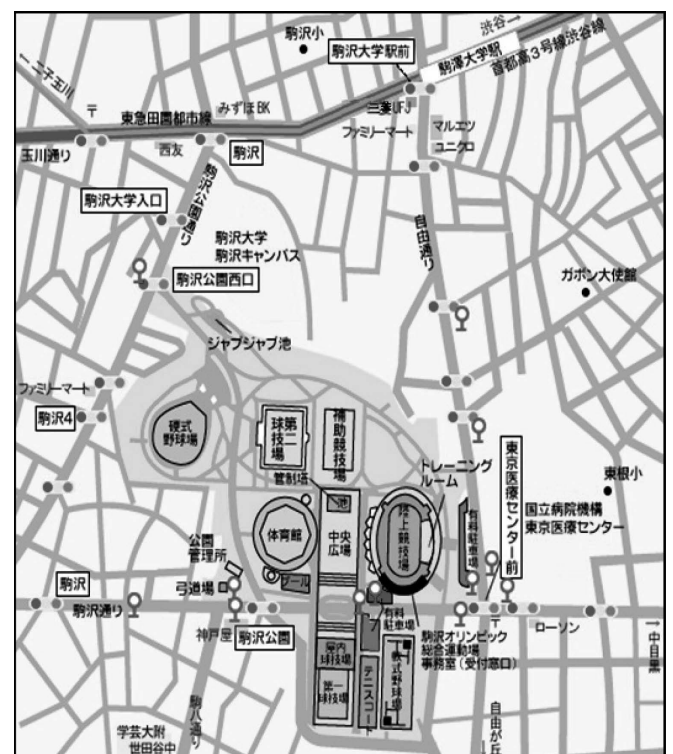
徒歩 1 分

開館時間：

午前 9 時～午後 9 時

休館日：

第三月曜日（不定期）・年末年始



東京武道館

住 所：足立区綾瀬三丁目 20 番 1 号

電 話：03-5697-2111

<https://www.tef.or.jp/tb/>

交通案内：

東京メトロ千代田線「綾瀬駅」東口下車
徒歩5分(東綾瀬公園内をお通りください。)

開館時間：

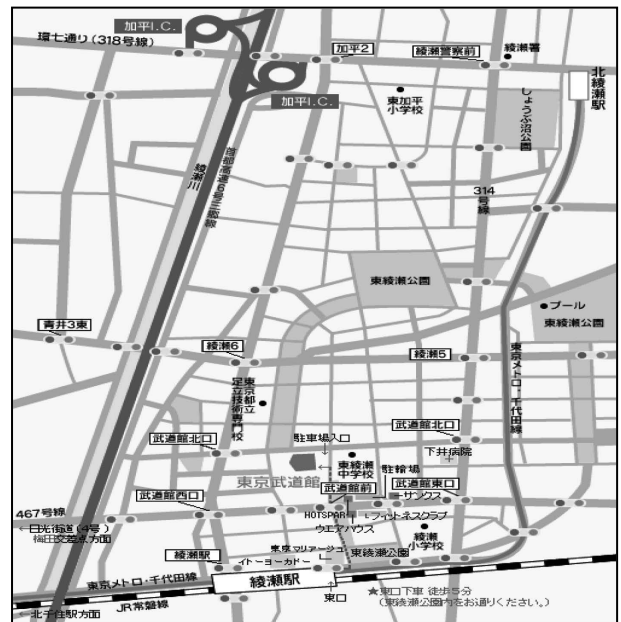
午前9時～午後9時

(トレーニングルームは、平日・土は

午後10時まで)

休館日：

第三月曜日(不定期)・年末年始



有明テニスの森公園テニス施設

住 所：江東区有明二丁目 2 番 22 号

電 話：03-3529-3301

http://www.tptc.co.jp/park/02_03

交通案内：

- ゆりかもめ「有明駅」下車 徒歩8分又は「有明テニスの森駅」下車 徒歩8分
- 東京臨海高速鉄道りんかい線「国際展示場駅」下車 徒歩8分
- 東西線「門前仲町駅」、有楽町線「豊洲駅」から都営バス(海01系統)で「有明テニスの森」下車

開館時間：

午前9時～午後9時

休館日：

年末年始



●：バス停留所

若洲海浜公園ヨット訓練所

住 所：江東区若洲三丁目1番1号

電 話：03-5569-6703

http://www.tptc.co.jp/park/03_06

交通案内：

○東京メトロ有楽町線・JR京葉線・
東京臨海高速鉄道りんかい線「新木場駅」
下車

○都営バス（木11甲系統若洲キャンプ場
行き）「若洲ゴルフリンクス前」下車

開館時間：

午前8時30分～午後5時

休館日：

毎週火曜日・年末年始



武蔵野の森総合スポーツプラザ (京王アリーナTOKYO)

住 所：調布市西町290番11

電 話：042-488-8607

<https://www.musamori-plaza.com/>

交通案内：

○京王線「飛田給駅」下車 徒歩5分

○西武多摩川線「多磨駅」下車 徒歩20分

開館時間：

平日・土

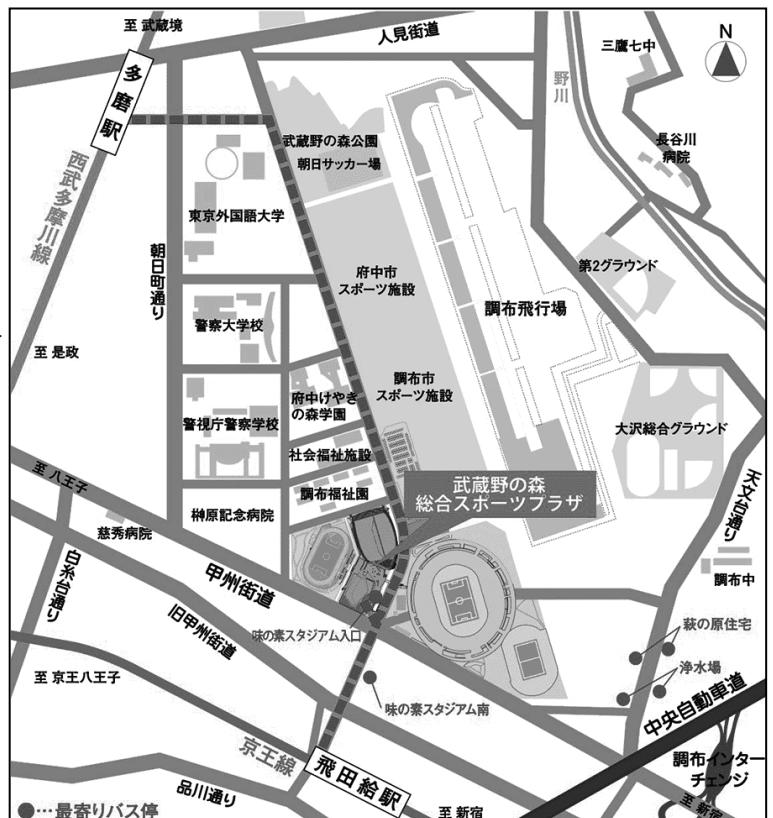
午前9時～午後10時30分

日・祝日

午前9時～午後9時30分

休館日：

第三水曜日（不定期）・年末年始



海の森水上競技場

住 所：江東区海の森三丁目 6 番44号

電 話：03-3599-5420

<https://www.uminomori.tokyo/>

交通案内：

○都営バス波01「東京テレポート駅前」

から乗車、「海の森水上競技場」下車

○東京臨海高速鉄道りんかい線「国際展示場駅」

から無料シャトルバス利用約15分

※ゆりかもめ「有明駅」下車後、りんかい線

「国際展示場駅」前から無料シャトルバス

利用約15分

○東京臨海高速鉄道りんかい線「国際展示場駅」

からタクシー利用約15分

○東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート駅」からタクシー利用約15分

○JR京葉線、東京メトロ有楽町線、東京臨海高速鉄道りんかい線「新木場駅」からタクシー

利用約20分

開館時間：午前9時～午後5時

休 館 日：年末年始（12月29日～1月3日）



夢の島公園アーチェリー場

住 所：江東区夢の島二丁目 1 番 4 号

電 話：03-3522-1588

<https://www.yumenoshima.jp/archery>

交通案内：

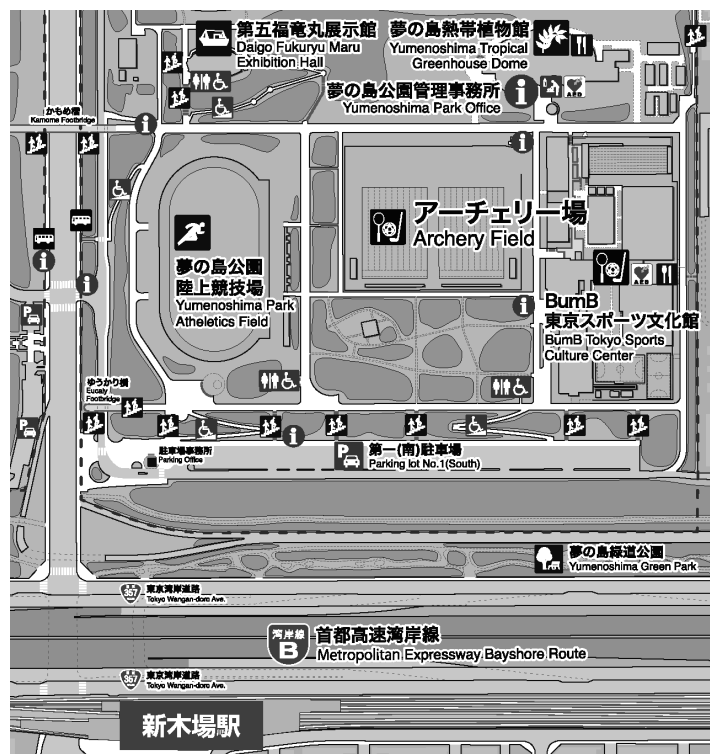
東京メトロ有楽町線、東京臨海高速鉄道

りんかい線、JR 京葉線「新木場駅」下車

徒歩 13 分

開館時間：午前9時～午後5時

休 館 日：年末年始（12月29日～1月3日）



カヌー・スラロームセンター

住 所：江戸川区臨海町六丁目1番1号

電 話：03-6808-6100

<https://canoe-slalom.tokyo/>

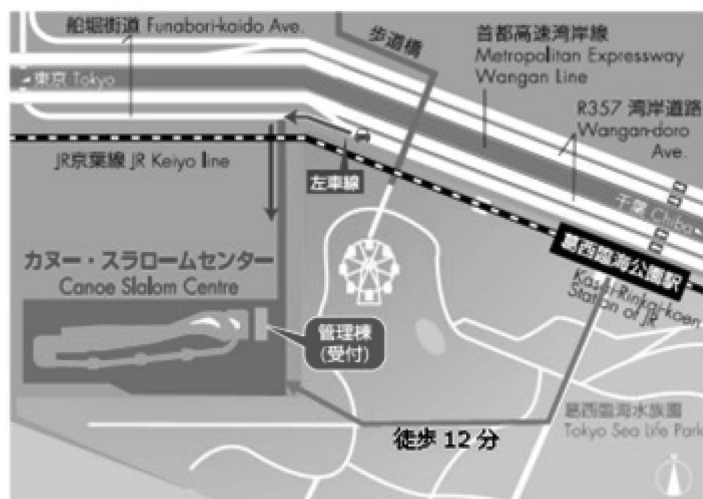
交通案内：

JR京葉線「葛西臨海公園駅」下車

徒歩12分

開館時間：午前9時～午後5時

休 館 日：年末年始（12月29日～1月3日）



大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場

住 所：品川区八潮四丁目1番19号
及び

大田区東海一丁目2番1号

電 話：03-3790-2378

https://seaside-park.jp/search_park/park_ooisports/ooi_hockey

交通案内：

○東京モノレール「大井競馬場前駅」下車 徒歩8分

○京急バス「中央公園」下車 徒歩5分

○都営バス「八潮南」下車 徒歩6分

開館時間：午前9時～午後9時

休 館 日：12月31日、1月1日



東京アクアティクスセンター

住 所：江東区辰巳二丁目2番1号

電 話：03-5534-6410

<https://www.tef.or.jp/tac/>

交通案内：

- 東京メトロ有楽町線「辰巳駅」下車 徒歩10分
- JR京葉線「潮見駅」下車 徒歩15分
- JR京葉線・東京メトロ有楽町線・東京臨海高速鉄道りんかい線「新木場駅」下車 徒歩20分
- 都営バス「辰巳団地」下車 徒歩5分
- 江東区コミュニティバス「漣橋南詰」下車 徒歩5分

開館時間：午前9時～午後9時

休 館 日：第三月曜日（不定期）・年末年始



東京都パラスポーツトレーニングセンター

住 所：調布市西町376番3

（味の素スタジアム内）

電 話：042-443-2850

<https://tokyo-ptc.jp>

交通案内：

- 京王線「飛田給駅」下車 徒歩15分
- 西武多摩川線「多磨駅」下車 徒歩30分

開館時間：午前9時～午後9時

休 館 日：年末年始（12月29日～1月3日）



東京都障害者総合スポーツセンター

住 所：北区十条台一丁目2番2号

電 話：03-3907-5631

<https://tsad-portal.com/mscd>

交通案内：

JR埼京線「十条駅」南口下車 徒歩10分
開館時間：

体育館・卓球室・サウンドテーブル
テニス室・多目的室・トレーニング室

午前9時～午後8時30分

プール・洋弓場・運動場・庭球場

午前9時～午後8時20分

集会室・研修室・印刷室・図書コーナー

午前9時～午後8時50分

宿泊室

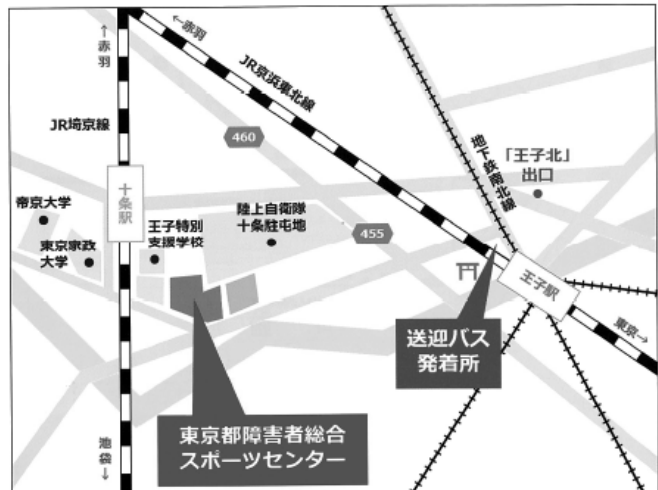
チェックイン午後3時、

チェックアウト翌日午前10時

駐車場 午前8時～午後9時

休館日：

毎週水曜日・祝日の翌日・年末年始



東京都多摩障害者スポーツセンター

住 所：国立市富士見台二丁目1番1号

電 話：042-573-3811

<https://tsad-portal.com/tamaspo>

交通案内：

○JR中央線「国立駅」南口下車 徒歩20分

○JR南武線「谷保駅」北口下車 徒歩10分

開館時間：

体育館・卓球室・サウンドテーブル

テニス室・トレーニング室

午前9時～午後8時30分

プール

午前9時～午後8時20分

集会室・印刷室・録音室

午前9時～午後8時50分

宿泊室

チェックイン午後3時、

チェックアウト翌日午前10時

駐車場 午前8時～午後9時

休館日：

毎週水曜日・祝日の翌日・年末年始



味の素スタジアム

住 所：調布市西町376番3

電 話：042-440-0555

<https://www.ajinomotostadium.com/>

交通案内：

○京王線「飛田給駅」下車 徒歩5分

○西武多摩川線「多磨駅」下車

徒歩20分



有明アリーナ

住 所：江東区有明一丁目 11 番 1 号

<https://ariake-arena.tokyo/>

交通案内：

- ゆりかもめ「新豊洲駅」または、
「有明テニスの森駅」下車 徒歩 8 分
- 東京 BRT「有明テニスの森」下車
徒歩 8 分



有明アーバンスポーツパーク

(livedoor URBAN SPORTS PARK)

住 所：江東区有明一丁目 13 番 7 号

電 話：03-5500-8835

<https://ariake-usp.com>

交通案内：

- ゆりかもめ「有明テニスの森駅」下車
徒歩 3 分
- 東京臨海高速鉄道りんかい線
「国際展示場駅」下車 徒歩 14 分
- 東京BRT「有明テニスの森」下車
徒歩 2 分

営業時間：

(平日)

スポーツ施設 午後 1 時～午後 9 時
店舗 午前 10 時～午後 9 時

(土日祝日)

スポーツ施設 午前 10 時～午後 9 時
店舗 午前 8 時～午後 9 時

休館日：

毎月第 3 月曜日、年末年始（12 月 30 日～1 月 3 日）



スポーツ推進本部事業概要
令和 7 年版

登録番号 (7) 7

令和 7 年 9 月発行

編集・発行

東京都スポーツ推進本部
スポーツ総合推進部総務課
東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話 03-5388-3835 (ダイヤルイン)
03-5321-1111 内線38-632

印 刷

株式会社 まこと印刷
東京都港区白金台二丁目11番 5 号
電話 03-6230-9590

リサイクル適性(B)

この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。



古紙バブル配合率70%再生紙を使用しています

HTT

電力を

へらす

つくる

ためる

Tokyo.Tokyo